

みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しいまち・館山

第5次 館山市総合計画

The 5th Tateyama City Comprehensive Plan

令和8年度 - 令和17年度

第5次館山市総合計画

令和8（2026）年3月

館山市

「みんなが主役 住んで楽しい」

Q. 市長が考える館山市の魅力や強みを教えてください。

A. 房総半島の南端に位置し、東京都心からのアクセスが良い館山市は、温暖な気候と34.3kmに及ぶ美しい海岸線を有し、戦国大名・里見氏ゆかりの歴史があり、四季折々の花があふれ、新鮮で美味しい海の幸・山の幸に恵まれた観光のまちです。
鏡ヶ浦越しの青に染まった富士山が、夕日とともに「ダイヤモンド富士」に姿を変えるさまはまさに絶景です。他にも、海に親しむ“渚の駅”たてやま、歴史文化薫る館山城、食の魅力を集めた道の駅グリーンファーム館山など、館山市では多彩な体験を楽しむことができます。

Q. 今後、目指しているまちの姿を教えてください。

A. 市民一人ひとりが地域の担い手・まちづくりの当事者として関わり、子どもや若者、高齢者、障がいのある方、移住者など、多様な方々が誰一人取り残されることなく居場所と役割を持つ“まち”
生活インフラや医療・福祉・教育環境が充実し、幸福感を感じられる「住んでいてよかった」と思える“まち”
館山市を訪れた国内外の方々が魅力を感じ、繰り返し訪れたいくなるような、観光資源・体験・交流の場が充実した“まち”を目指しています。

来て楽しいまち・館山」を目指して

Q. 今後10年間、特に力を入れて取り組んでいくことを教えてください。

A. 市民参加・協働による“みんなが主役”のまちづくり体制の強化
地域資源を生かした観光の振興や持続可能な産業の育成
企業誘致や起業支援も含めた雇用の確保
すべての世代が安心して暮らすことのできる生活インフラの維持・整備

そして、これらの取組を実行するためには館山市の財政力・企画経営力の強化が不可欠であることから、不断の努力で行財政改革を進めていきます。

Q. 「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山」の実現を目指して、市民のみなさまへのメッセージをお願いします。

A. 館山市は長い歴史と文化を持つ、豊かな自然に包まれたまちです。
市民が誇りを持ち、訪れる方が魅力を感じられる“まち”と、誰もが安心して暮らせる“未来”を、私たち“みんな”で、つくり上げていきましょう。



館山市長 森 正一

目次

第1部 序論	1
第1章 計画の趣旨	2
第2章 計画の位置付け・役割	3
第3章 構成と期間	4
第4章 推進体制	5
第5章 館山市の姿	6
第6章 館山市を取り巻く社会情勢とテーマ	9
第2部 基本構想	13
第1章 将来像	14
第2章 都市づくりの方向性	18
第3章 基本目標	20
第3部 前期基本計画	23
第1章 施策体系	24
第2章 リーディングプロジェクト	26
プロジェクト1 たてやまの経済発展をめざす	30
プロジェクト2 たてやまに愛着を持つ人をふやす	32
プロジェクト3 安全・安心なたてやまで人をはぐくむ	34
プロジェクト4 社会の変化に適応可能な行政基盤をつくる	36
第3章 目標別施策	38
基本目標1 産業・経済	40
基本目標2 福祉・子育て・健康・予防・医療	52
基本目標3 教育・文化	64
基本目標4 都市整備・環境・防災・安全	76
基本目標5 市民参画・シティプロモーション・行財政運営	88
第4章 計画とSDGsとの連動	95
第5章 地区別ビジョン	98
資料編	121

第1部 序論

第1章 計画の趣旨



館山の「魅力」をさらに磨き、新たな価値を創ることで
市民も、来訪者も、「みんなが幸せを感じられるまち」を
一緒につくりましょう。



第5次館山市総合計画（以下「本計画」といいます。）は、まちの将来像を定め、その実現に向けたまちづくりの基本指針や政策を明らかにする計画です。

私たちの暮らす館山市（以下「本市」といいます。）にはたくさんの魅力があります。本市では、これらの魅力を生かしながら、長期的な展望を持った総合計画を4次にわたり策定し、まちづくりを進めてきました。令和7（2025）年度末をもって現行の総合計画の計画期間が満了することから、令和8（2026）年度を初年度とする本計画を策定します。

本計画は、目まぐるしく変化する社会情勢の中、追い風はまちづくりの推進力として、また、向かい風は変化するための契機として、共に本市発展の「チャンス」と捉え、市民、地域、関係団体、企業、行政等と一緒に本市の魅力をもさらに磨き上げながら、地域に新しい価値を創造し、より良いまちづくりを進めるための基本指針です。



館山市の魅力

- 東京都心からも近く、陸路（自動車、鉄道）でも海路（高速ジェット船など）でも行き来できるアクセス性を有しています。
- 三方を海に囲まれ、34.3 kmもの長い海岸線を有しており、海水浴やマリインレジャーが楽しめるほか、温暖な気候に恵まれ、冬でも菜の花を始め、様々な花が咲き誇ります。
- 栈橋形式としては日本一長い「館山夕日栈橋」、個性的な神社仏閣や戦争遺跡、曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』のモデルにもなった戦国大名里見氏ゆかりの史跡、多くのアスリートが訪れる様々なスポーツ大会や各種イベント・祭礼、新鮮で美味しい海の幸・山の幸など、四季を通じて楽しむことができます。
- 高校生などの若い世代や、移住してこられた方など、多様な市民が、地域への理解を深め、本市の特色を生かしたまちづくりを共に考える機会を創出しています。

第 2 章 計画の位置付け・役割

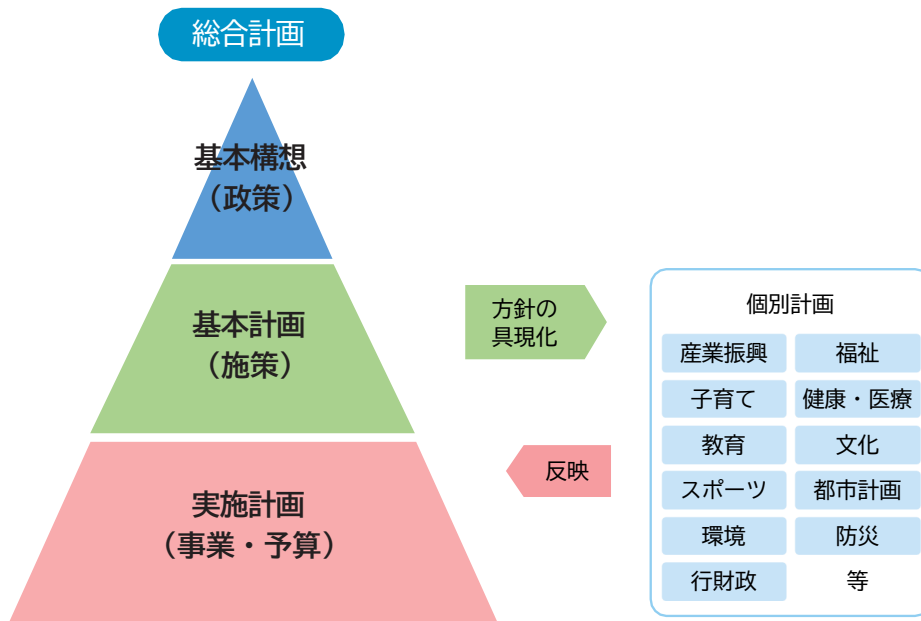
本計画の位置付け・役割は次のとおりです。

- 総合的かつ計画的な市政運営のための最上位の計画です。
- まちづくりを構成する産業振興、福祉、教育、都市整備等の政策分野（個別分野）の方向性を示す“羅針盤”の役割を果たし、本市の政策や施策の統一性を確保します。
- 「まち・ひと・しごと創生法」（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条第 1 項の「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含します。



第3章 構成と期間

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。



基本構想	<ul style="list-style-type: none"> ● 市政運営の基本指針として、まちの将来像、都市づくりの方向性、基本目標を示します。
基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ● リーディングプロジェクト並びに基本目標ごとの施策の概要等を示します。
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年度の予算編成の指針として、事業ごとの年次計画を示します。 ● 社会情勢や財政状況等に柔軟に対応できるように、毎年度ローリング方式で更新します。

令和	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
西暦	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
基本構想	10年間									
基本計画	前期5年間					後期5年間				
実施計画 (1期3年間)	3年間			3年間			3年間			

第 4 章 推進体制

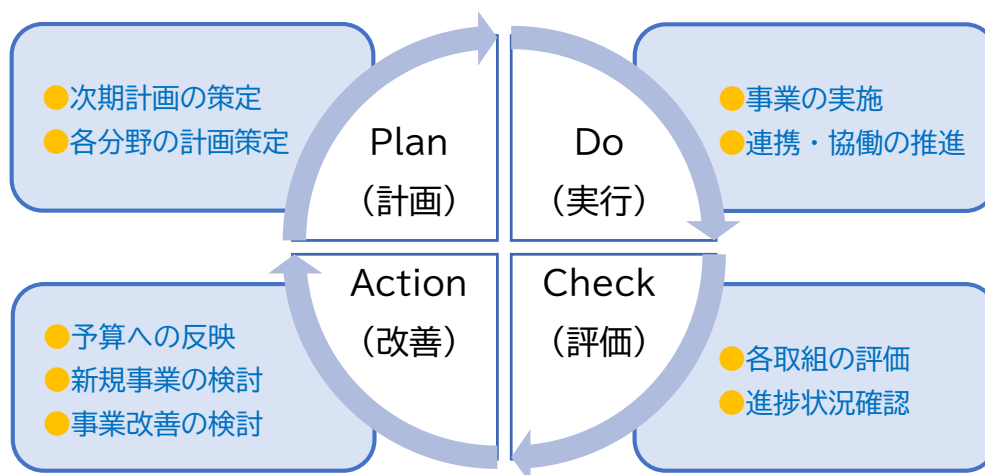
(1) 推進体制

本計画に掲げる政策の達成に向けて、市民、地域、関係団体、企業等の意見を聴く機会を確保するなど、官民連携・市民協働を進めます。

庁内組織の横断的な連携と、安房 3 市 1 町による広域連携をさらに進めます。

(2) 進行管理

本計画の着実な推進に向けて、目標値の達成状況の検証と事業推進における改善を、PDCA サイクル（※）の考え方に基づいて継続的に行います。



（※）PDCA サイクル：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）を繰り返し、業務を継続的に改善する管理手法

(3) 本計画の見直し

「基本構想」は、人口動向、政策成果、市民のニーズ、社会情勢等を勘案し、最終年度までに振り返りを行った上で、次期「基本構想」を策定します。

「基本計画」は、前期・後期の各最終年度に次期「基本計画」を策定し、1 期 3 年間の「実施計画」は毎年度ローリング方式で更新します。

なお、社会情勢や法律・制度改正等が本市のまちづくりに多大な影響を及ぼすと想定される場合は、計画期間中に「基本計画」及び「実施計画」の変更・改定を行うことがあります。

第5章 館山市の姿

(1) 地勢

位置 …千葉県房総半島の南端に位置し、東京都心から 100 km圏、県都・千葉市からは直線距離で約 70 kmにあります。

市域 …市域は 110.05 km²であり、西は波穏やかで「鏡ヶ浦」と呼ばれる館山湾、南は黒潮おどる太平洋に面し、内陸部には緑豊かな田園や照葉樹林の丘陵が広がっています。

気候 …年間平均気温 16℃以上で冬でも花々が咲き誇る温暖な気候です。海に囲まれ海風が吹くことから、東京都心などの内陸部より涼しく感じられます。

景観 …南房総国立公園に指定される 34.3 kmの変化に富んだ海岸線には、館山湾越しに望む富士山や夕日の絶景、美しい砂浜が広がる平砂浦海岸等、数多くの景勝地が存在します。

交通 …東京湾アクアラインと東関東自動車道館山線による陸路と、「館山夕日栈橋」、「渚の駅 たてやま」を玄関口とする海路があり、快適さと楽しさを兼ね備えたアクセス性が魅力です。



(2) 市制の歩み

昭和 14 (1939) 年に館山北条町・那古町・船形町の合併により、千葉県で 5 番目の市制施行として「館山市」が誕生しました。









昭和 29 (1954) 年に西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村を合併して現在に至っており、地理的・歴史的背景から市内 10 地区が固有の特徴を有しています。

▶主なできごと (近代以降)

年号 (西暦)	主なできごと
明治 11 (1878)	館山-東京間で汽船就航
大正 8 (1919)	安房北条駅 (現在の館山駅) まで鉄道が開通
大正 12 (1923)	関東大震災により壊滅的な被害
昭和 14 (1939)	館山北条町・那古町・船形町が合併して「館山市」が誕生
昭和 29 (1954)	西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村と合併し、現在の市域に
昭和 33 (1958)	南房総国立公園指定
昭和 41 (1966)	房総フラワーライン開通
昭和 44 (1969)	館山市民憲章制定
昭和 57 (1982)	館山城完成 (開館)
平成 5 (1993)	一般国道 127 号館山バイパス全線開通
平成 9 (1997)	東京湾アクアライン開通、千葉県南総文化ホール開館
平成 10 (1998)	鏡ヶ浦クリーンセンター通水開始
平成 11 (1999)	館山駅橋上駅舎・自由通路完成
平成 12 (2000)	館山港が特定地域振興重要港湾に選定
平成 15 (2003)	房州うちわが国指定伝統的工芸品に
平成 19 (2007)	東関東自動車道館山線全線開通
平成 21 (2009)	館山市元気な広場開設
平成 22 (2010)	栈橋形式では日本一の長さとなる館山夕日栈橋竣工
平成 24 (2012)	交流拠点「“渚の駅” たてやま」がオープン
平成 28 (2016)	『第 4 次館山市総合計画』がスタート
令和元 (2019)	台風 15 号 (令和元年房総半島台風) により市内全域に甚大な被害
令和 3 (2021)	新「学校給食センター」運用開始、「ゼロカーボンシティ」を宣言
令和 6 (2024)	「道の駅 グリーンファーム館山 (食のまちづくり拠点施設)」がオープン
令和 7 (2025)	新「館山中学校」供用開始

(3) 暮らしデータ

館山市の人口や世帯数など、主なデータをお示ししています。
変わりゆく「まち」の様子をあらわしています。

人口・世帯数	人口 (日本人・外国人) 48,495人 (平成27年4月1日時点) ↓ 43,244人 (令和7年4月1日時点)	世帯数 22,685世帯 (平成27年4月1日時点) ↓ 23,290世帯 (令和7年4月1日時点) 	出生数 289人 (平成27年) ↓ 167人 (令和6年)	移住者数 (移住相談窓口経由) 67人 (平成27年度) ↓ 29人 (令和6年度時点)
	合計特殊出生率 1.44 (平成27年) ↓ 1.16 (令和6年) 	高齢者割合 (65歳以上) 35.89% (平成27年4月1日時点) ↓ 40.89% (令和7年4月1日時点) 	平均寿命※ 男性80.7歳、女性87.0歳 (平成27年) ↓ 男性81.5歳 女性87.7歳 (令和2年) 出典：千葉県オープンデータ サイト	健康寿命※ 男性17.92年、女性21.29年 (平成27年) ↓ 男性18.27年 女性21.55年 (令和2年) 出典：千葉県オープンデータ サイト
人口動態・健康	観光入込客数 188.8万人 (平成27年) ↓ 187.7万人 (令和6年) 	宿泊客数 40.1万人 (平成27年) ↓ 41.4万人 (令和6年)	観光消費額 (推計値) 242.5億円 (平成27年) ↓ 281.7億円 (令和6年) 	ふるさと納税 寄附件数・金額 820件・42,160千円 (平成27年度) ↓ 14,213件 621,160千円 (令和6年度)
	経常収支比率 94.8% (平成27年度) ↓ 97.4% (令和6年度)	審議会等における 女性委員の割合 28.02% (平成27年4月1日時点) ↓ 28.00% (令和7年4月1日時点) 	学校数 小学校10校、中学校4校 (平成27年) ↓ 小学校10校 中学校3校 (令和7年) 	高校数 3校 (平成27年) ↓ 3校 (令和7年) 
経済・財政・その他	出典；館山市（特記以外） ※健康寿命とは、65歳時点における平均自立期間（日常生活動作が自立しており、介護を必要としない期間）をいう。 ※平均寿命とは、0歳平均余命をいう。 ※高校数は、館山市を含む安房3市1町と「教育活動連携協定」を締結した市内の高校の数をいう。			

第 6 章 館山市を取り巻く社会情勢とテーマ

A 人口構造の変化

人口減少、少子高齢化の進行

- 人口減少や少子高齢化の進行は、高齢者福祉等に係る社会保障費の増大、生産年齢人口の減少に伴う経済の縮小、社会を支える担い手の減少につながり、地域活力の低下が懸念されます。

若者世代の首都圏への集中

- 若者世代の首都圏への集中が続いており、20代から30代の女性の数や減少率からみた将来的な「消滅可能性自治体」は、全国の自治体の約4割にのぼっています（人口戦略会議令和6年試算より）。

B 社会・経済環境の変化

産業構造の変化、デジタル社会の進展

- 大都市への一極集中や地方経済の疲弊に対応するため、地域資源を生かした産業構造への移行が重要視されています。また、グローバル化の進展の中で大きく変化している産業構造や世界情勢の不安定化に対応できる地域産業・経済の変革（シフトチェンジ）が求められています。
- 技術革新が進む中、先端技術（人工知能（AI）、ロボット、ビッグデータの活用等）を用いて、業務プロセスの効率化や付加価値の高いサービス提供、新たなデジタル産業の成長促進などの経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society 5.0）に向け、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進が期待されています。

働き方の多様化

- 生産年齢人口の減少による働き手不足やコロナ禍後の生活様式の変化等を踏まえ、誰もが自分らしい働き方や暮らし方を実現する環境が求められています。

C 暮らしの変化

人生100年時代の到来

- 「人生100年時代」を迎えた今日、若者から高齢者まですべての人が生きがいや、やりがいを持ち続けられる活躍の場があることが重要であり、地域活性化の鍵となっています。

多様性の受容、多文化共生の広がり

- これからの社会は、性別、年齢、人種、国籍、障がいの有無、宗教・信条、価値観等の多様性を尊重するダイバーシティ（多様性）と、多様な人々が対等な立場で社会に参加し、活動や貢献が可能となる環境を整えるインクルージョン（包摂）が重要な概念となります。
- 全国的に町内会や自治会等の地縁組織への加入率が低下する中、地域のつながりの再生をとおして、お互いを尊重し支え合う共生社会の形成が求められています。

D 環境の変化

脱炭素社会への移行、GX の進展

- 気候変動への対策が国際的な課題となる中、「脱炭素社会」への転換が求められています。温室効果ガスを出さない「脱炭素社会」の実現は地球規模の喫緊の課題であり、クリーンエネルギー中心の経済社会システムに変革するGX（グリーン・トランスフォーメーション）の一層の推進が求められています。

自然災害等の頻発化・激甚化

- 地震や台風等による激甚災害が全国各地で頻発しており、未知のウイルス等への対応も含め、緊急時やリスクに対する万全の対策が求められています。

E 行政運営の変化

スマート自治体への転換

- AIなどのデジタル技術を活用し、市民サービスの向上と業務効率化の両立を図るスマート自治体への転換が求められています。

SDGs（持続可能な開発目標）を見据えた取組

- 「地球上の誰一人として取り残さない」という理念のもと、持続可能な世界を実現するための国際社会における17の開発目標「SDGs」の推進が求められています。

F 近隣市町との関わりの変化

地域課題の解決に向けた連携

- 人口減少や少子高齢化が深刻な安房地域においては、人口減少の抑制や産業振興など、現代の複雑かつ多岐にわたる課題に対して、生活圏を共にする近隣市町との連携による取組が求められています。



本市のまちづくりにおける4つのテーマ

テーマ1 急速な人口減少を抑制する

- 少子化に歯止めがかかりません。10代後半から20代前半の進学や就職等による転出が続き、30代以降の転入も縮小傾向にあります。
- 長期的には、総人口、年少人口、生産年齢人口の減少が続き、増加していた老年人口（65歳以上）もすでに令和3年から減少に転じています。急速な人口減少を抑制し、館山市の実情に応じたまちづくりを推進することが、持続可能なまちづくりを進めていく上で最重要テーマとなります。

テーマ2 経済基盤の強化

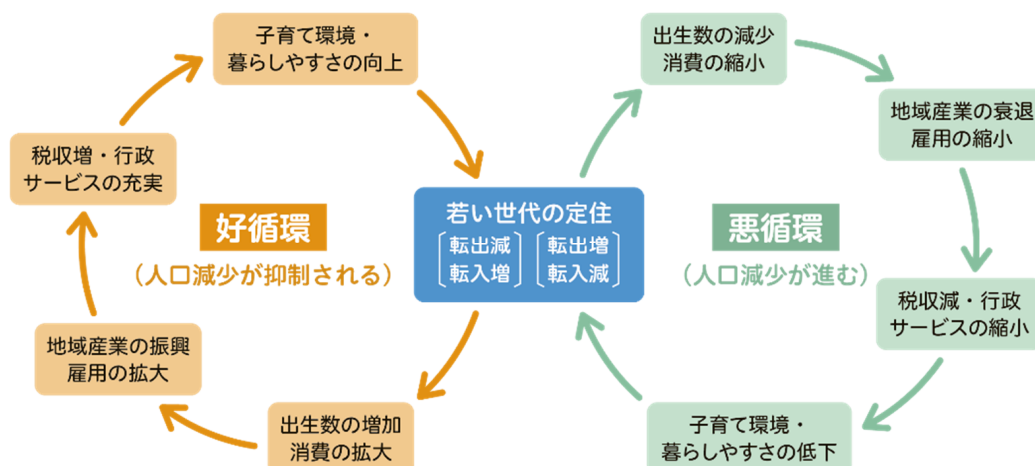
- 経済環境の変化や人口減少の進行により、生産・消費活動の縮小、担い手や事業所数の減少等、地域経済は厳しい状況にあります。
- 人口減少を抑制する基点として、地域及び市民の経済基盤の強化が不可欠です。

テーマ3 子育てのしやすさ、安全・安心の暮らしの向上

- 若い世代が家庭を持ち、自分の子ども達にも“この地域で、就職・結婚・子育てをしてもらいたい”と思ってもらえるような環境づくりが必要です。
- 一人ひとりの多様性を尊重し、誰一人取り残さないまちを実現するためには、市民との協働が不可欠です。
- 全国で自然災害が頻発しており、本市も令和元年に大きな台風被害を経験しました。この経験を後世に伝え、市全体で「人生100年時代」を生き生きと安全・安心に暮らしていくことのできるまちづくりを進める必要があります。

テーマ4 行財政基盤の強化

- 本市の財政構造の弾力性を表す経常収支比率は高止まりしており、大変厳しい財政状況にあります。今後も人口減少等による税収減少の一方、扶助費の増加、公共施設の大規模改修等が見込まれます。
- 人口減少や少子高齢化など様々な社会情勢に対応できる行財政経営を行っていくことが不可欠です。





第2部 基本構想

第1章 将来像

序論で述べた本市の状況を踏まえて、本市が目指す10年後の姿を基本構想で示します。

(1) まちの将来像

キラキラと輝く波静かな鏡ヶ浦の向こうに富士山を望むことができる本市は、一年を通じて温暖で、四季折々の様々な魅力を楽しむことができます。

幾多の先人たちが紡いできた歴史や文化が薫るこのまちを次代につないでいくために、本市が目指すまちの将来像を定めます。

みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山

まちの将来像には、まちづくりに対する次のような思いを込めています。

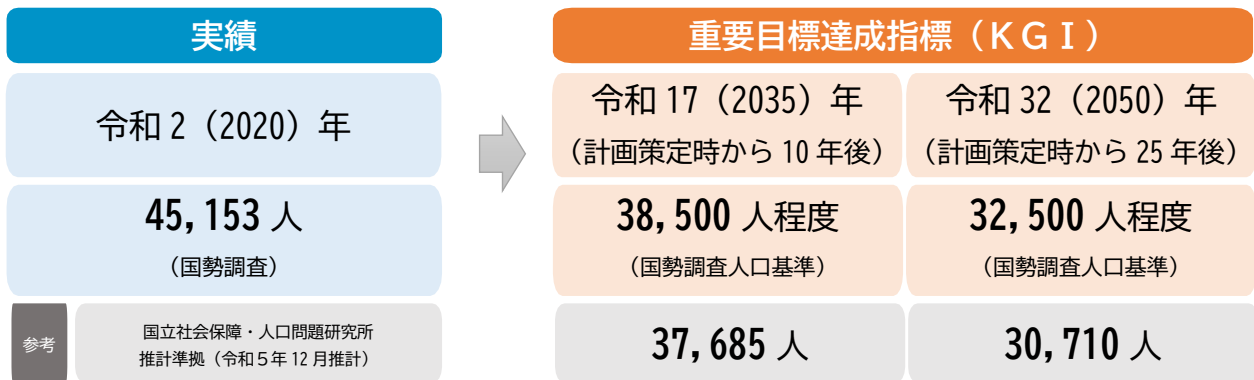
『みんなが主役』	これからのまちづくりは、市民の皆様をはじめとする多様な主体と行政の連携による“協働のまちづくり”が重要です。本市に関わるみんなが幸せを感じ、楽しむことができるまちを目指して、みんなで連携を深めながら取り組んでいきましょう。
『住んで楽しい』	温暖な気候と豊かな自然の中で、子ども達の笑い声があふれ、市民一人ひとりがいきいきと自分らしく、安心して暮らすことができるまちをみんなでつくっていきましょう。さらに、このまちで成長した若者の定住の地として、また、多くの方々の移住や二地域居住の地として選ばれるまちを目指します。
『来て楽しい』	本市は、夏は潮風が涼しく冬は温暖な恵まれた気候、海と山に囲まれた豊かな自然、東京都心からのアクセス性などの地域特性があります。まちの魅力をみんなで磨き上げていくことで、このまちに惹かれた国内外の人々が来訪を重ね、共にまちの価値を高めていく一員となっていただくことを目指します。
『まち・館山』	今後も変化し続ける社会情勢や本市のテーマに適切に対応しながら、持続可能なまちであり続け、市民の皆様の地元愛と幸福度を高めていくことが、本市の最終目標です。

(2) 達成すべき指標

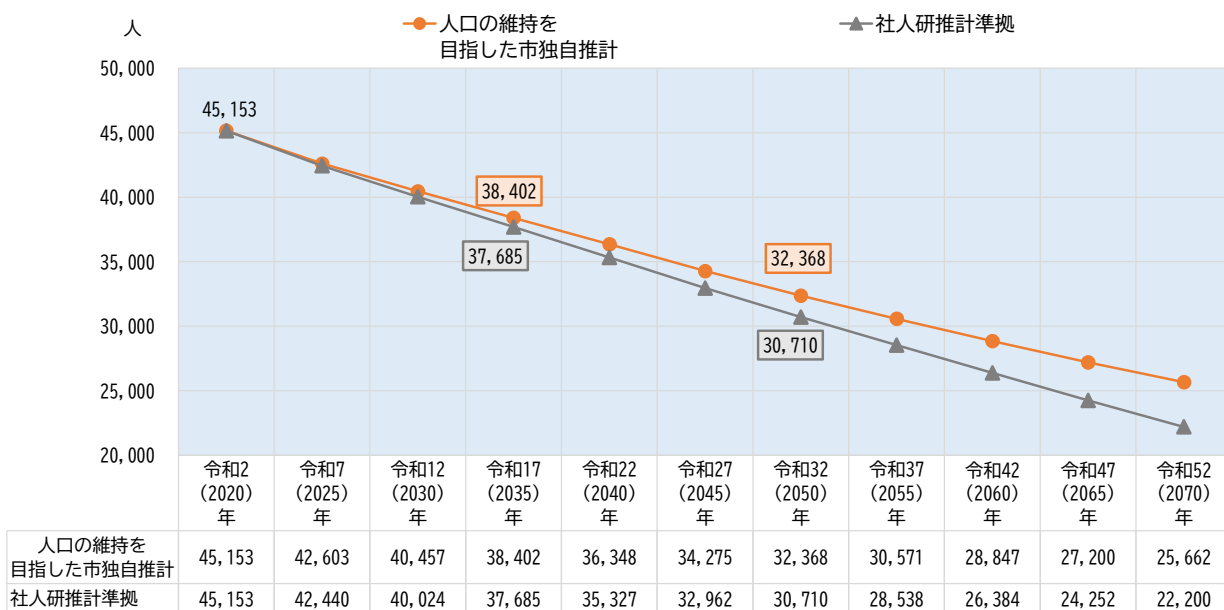
本計画全体で達成すべき指標（重要目標達成指標（KGI））として、急速な人口減少を抑制すること（将来人口）、本計画の推進により、市民のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）を高めること（幸福度）を定めます。

◇ 重要目標達成指標（KGI） ① 将来人口

国及び千葉県の人口が減少する中、本計画を着実に実施し、子育てしやすい環境の整備や地域産業の稼ぐ力の向上を図り、若い世代の移住・定住の実現をとおして、国立社会保障・人口問題研究所が算出した基準人口推計（令和5年12月推計）を上回る人口（国勢調査人口）の維持を目指します。



将来人口推計

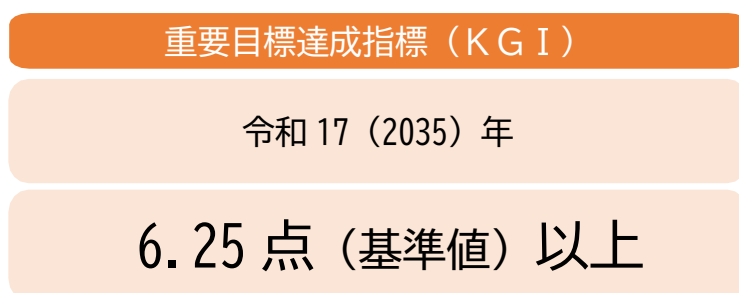


◇ 重要目標達成指標（KGI） ②幸福度

市民がそれぞれに幸せを実感し、本市で豊かな人生を過ごすことこそがまちづくりの本質です。

行政のできる範囲は限られているものの、経済基盤と生活環境の向上、市民の健康増進、医療環境や教育機会の充実、安全・安心なまちづくり、社会的つながりの再生等の計画的な推進をとおして、市民のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）を表す主観的な「幸福度」を高めることを目指します。

令和6年に実施した市民意識調査（16歳以上）による「幸福度」の平均点（※）を基準値として、令和17（2035）年は基準値以上を目指します。

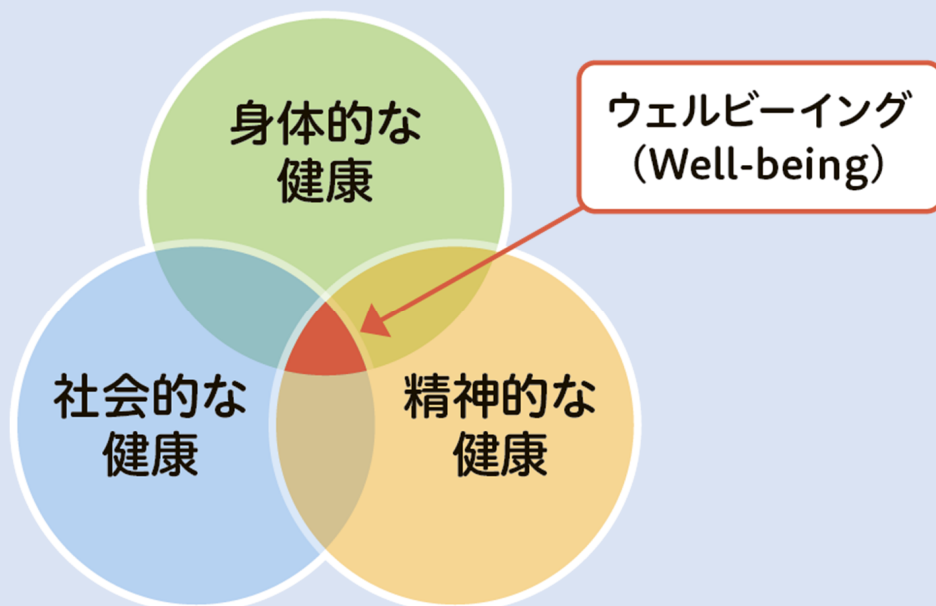


※平均点は幸福（10点）～ふつう（5点）～幸福ではない（0点）として各回答人数に乗じた合計点を点数回答者（0点～10点の総回答人数）で除して算出しました。



ウェルビーイングとは

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念のこと。





第2章 都市づくりの方向性

本市は、館山湾に沿って市街地が形成されているのが特徴であり、面積の約2割が住宅や商業施設、オフィスのほか、学校や公園等の公共施設などに利用されています。

特に、JR館山駅を中心に商業地や住宅地が形成され、国道や県道など幹線道路沿いにも広がっています。

また、近年では、東京都心からのアクセスの良さ、豊かな自然環境や農水産物などの地域資源を生かし、ワーケーションや二地域居住など、柔軟で多様な働き方や暮らし方に対応した土地や建物の利活用が進んでいます。

しかしながら、全国的な人口減少や少子高齢化の進展、激甚化・頻発化する自然災害、自然環境の保全など、社会情勢や周辺環境は変化し、今後のまちづくりに対する課題や要望は複雑多岐にわたっています。

土地は、市民が生活を営み、生産活動を行うための基盤であり、その利用方法は、地域の発展やまちづくりに深い関わりをもつことから、長期的な視点による適切な利用や基準に沿った適切な開発行為が求められます。

そのため、次に掲げる事項に留意して、引き続き市民の皆様が安心して暮らし、誇りと愛着をもって住み続けられるように、地域の特性と生活環境・産業環境・自然環境の均衡に配慮した計画的かつ持続可能な土地利用を進めていきます。

■ 人口減少・少子高齢化に対応したコンパクトで効率的な都市構造への転換

人口減少・少子高齢化の進展等の社会経済情勢に対応するため、JR館山駅周辺エリアを本市の中心エリアとして、商業や居住機能の集積を図るとともに、誰もが安全・安心に生活できるよう、歩道の確保や段差の解消など、ユニバーサルデザインに対応した歩行者空間の創出に努めます。

また、鉄道や路線バスなどの起点であるJR館山駅は、交通結節点として、利用者の利便性向上や中心エリア及び各地区の連携を強化することにより、コンパクト・プラス・ネットワークの形成を図ります。



■ 社会インフラ等を活用した多様な産業の受け皿の創出による地域振興

広域幹線道路の整備を促進し、多様で豊富な地域資源を生かした交流人口の拡大、東京都心からのアクセスの良さや地域の特性、魅力を生かした移住・二地域居住の促進、新たな雇用の創出や地域経済の振興を図ります。



■ 激甚化・頻発化する自然災害への対応

災害発生時における避難路の確保や緊急輸送道路の閉塞等を防止するため、館山市地域防災計画等に基づき、市街地の安全性の向上を図ります。



■ 質の高い生活環境の整備と自然環境の保全

集約型都市構造の形成や鉄道・バス等の公共交通の活用を促進するとともに、太陽光・風力などの再生可能エネルギーの導入を図るなど、エネルギーの効率的な利用を促進し、環境負荷の低減を図ります。

また、南房総国立公園区域については、自然公園法等に基づく適切な土地利用により、豊かな自然環境の保全と継承に努めます。



■ 農地の保全

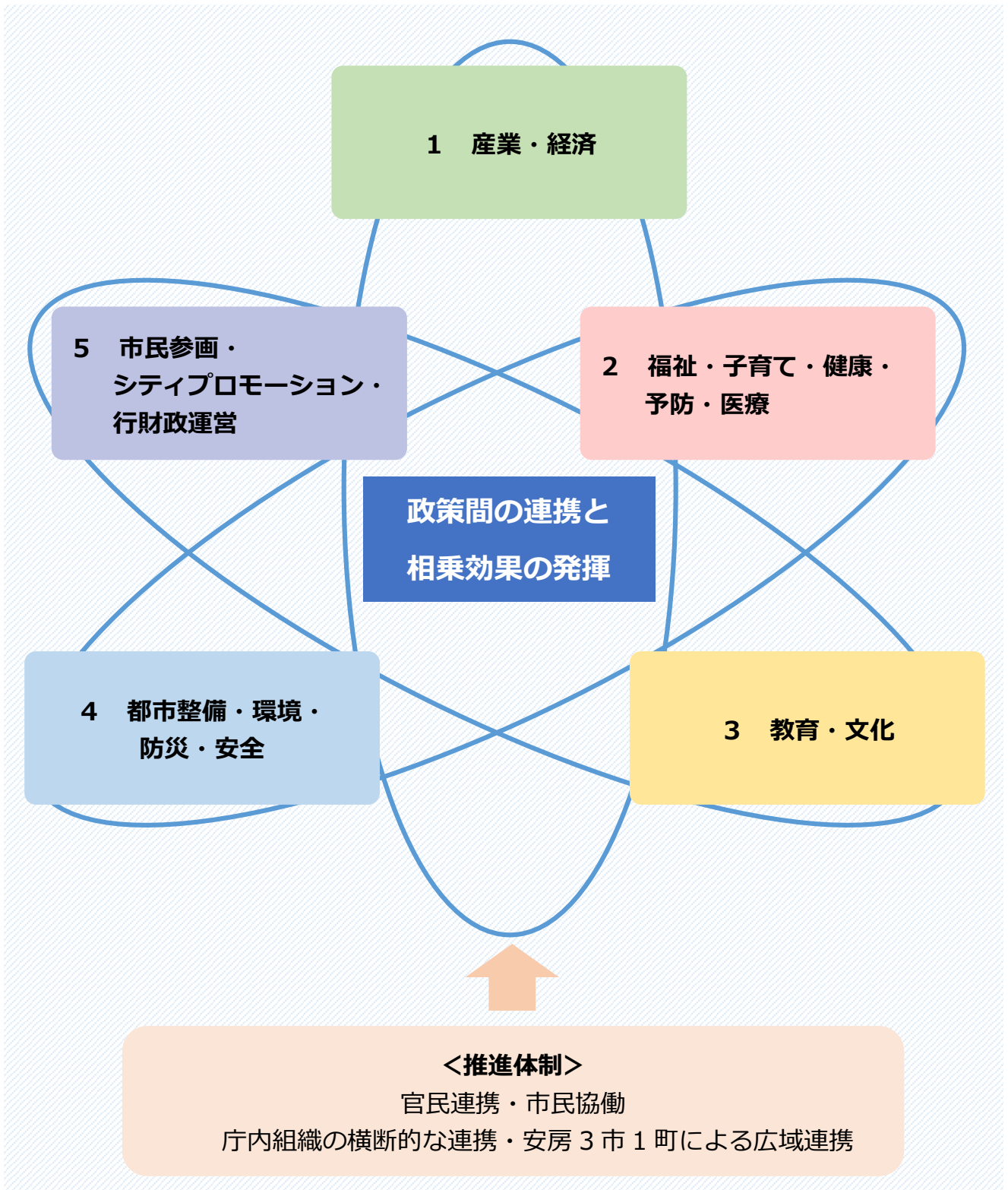
農地は、食料生産のほか、貯水による防災機能、水質浄化、生物多様性の維持といった多面的機能を有しており、単なる農業生産の場を超えて、社会や環境にとって重要な資源となっています。農地の利用に当たっては、無秩序な転用を抑制しつつ、持続可能な農業の推進や地域社会との連携により、耕作放棄地の再生など、農地の適切な管理を図ります。



第3章 基本目標

「まちの将来像」と「達成すべき指標」の実現・達成に向けて、5つの「基本目標」を定めます。

「基本目標」は、それぞれの目標達成を目指すとともに、政策間の連携を図り、相乗効果が発揮されることにより、本市の魅力や価値を高めます。



基本目標 1 産業・経済

10年後の姿▶

事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している

- 産学官民の分野横断的な協力と連携、産業全体のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の促進、観光・農水産業・商工業の連携・振興を進め、地域産業の生産性と収益力の向上による地域経済の成長と循環、市民所得の増加を目指します。
- 安房地域の多様な資源と地域特性（東京都心との近接性、一年を通じて温暖な気候）を生かし、サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致、起業・創業の促進、移住・二地域居住の促進とともに、柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方を推進し、市内外からの人材集積と定住促進に取り組みます。

基本目標 2 福祉・子育て・健康・予防・医療

10年後の姿▶

こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している

- 充実した医療環境、先端技術の活用、人の温もり（地域の支え合い）の融合を進め、一人ひとりに寄り添う支援・サービスの最適化とともに、お互いに支え合う「地域共生社会」の進化・深化を目指します。
- すべてのこども・若者の身体的・精神的・社会的に幸福な生活（ウェルビーイング）を目指す「こどもまんなか」社会の実現に向けて、豊かな海や山の自然を生かしてこども達が健やかに成長できる環境の充実と、こどもを産み育てやすい総合的な支援の充実を通じて、若い世代の幸福度の向上を目指します。

基本目標 3 教育・文化

10年後の姿▶

教育と歴史・文化、スポーツの力で活気あふれるまちが実現している

- 未来を担うこども達に良好な教育環境を提供するため、少子化の時代においても特色ある多様な規模の公立学校を設置し、一人ひとりの児童生徒が自分の良さや可能性を認識し、地域に誇りと愛着を持ち、豊かな人生を切り拓くことができるこども達を育みます。
- 「人生100年時代」にふさわしい生涯学習の推進、市民と共に地域の歴史と文化を守り育てるほか、新たな楽しみ方や自然環境を生かしたスポーツの推進を図るなど、関係人口の一層の拡大に取り組みます。

基本目標 4 都市整備・環境・防災・安全

10年後の姿▶

豊かな自然がいつもある、快適で安全なまちが実現している

- 市民生活を支えると同時に交流機能と防災機能を高めるインフラ（社会基盤施設・設備）の適切な維持管理を推進します。
- 快適な居住性と公共交通ネットワークの形成を連携して取り組むコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を目指し、地域公共交通網をはじめとする生活分野のDX（デジタル・トランスフォーメーション）に取り組めます。
- 地域コミュニティや関係機関等との連携により、市民が安心して暮らすことができるよう、空家等の発生の抑制や利活用、地域防災力の向上をはじめとする防災対策に取り組めます。
- 地球温暖化を抑制するゼロカーボンシティ（脱炭素都市）への転換を軸に、多様な主体との協働・連携により、持続可能な社会の構築を目指し、資源の効率的利用や環境保全を重要視する資源循環型社会や地域循環共生圏、GX（グリーン・トランスフォーメーション）を推進し、豊かな海と緑を感じる心地よい住環境の確保を目指します。

基本目標 5 市民参画・シティプロモーション・行財政運営

10年後の姿▶

まちづくりへの市民参画が活発となり、市民の幸福度を高める行財政運営が実現している

- 性別や年齢などの多様な背景や価値観を尊重する多文化共生（多様性と包摂性のある社会）の視点を軸に、シティプロモーション（地域ブランディング）を推進し、積極的な市民参画によるまちづくりを目指します。
- 市民の幸福度を高めるため、社会情勢に応じて市役所の業務や組織をアップデート（最適化）する行政運営や財政力の強化、コンプライアンスの強化、安房3市1町の広域連携に取り組めます。
- 今後も大変厳しい財政状況が続くと予想されることから、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの多様な財源を確保し、より良いまちづくりに向けて円滑に事業を行うことができる環境づくりに取り組めます。

第3部 前期基本計画

第1章 施策体系

基本構想	まちの将来像	みんなが主役 住んで楽しい	
	基本目標	基本目標1 産業・経済	基本目標2 福祉・子育て・健康・ 予防・医療
前期基本計画	10年後の姿	事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している	こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している
	リーディングプロジェクト ↳ 魅力的な たてやまをつくる ↳	プロジェクト1 たてやまの経済発展を	プロジェクト2 たてやまに愛着を持つ人を
		プロジェクト3 安全・安心なたてやまで	プロジェクト4 社会の変化に適応可能な
	目標別 施策	第1節 観光の振興 第2節 農水産業の振興 第3節 商工業の振興 第4節 新たな雇用の創出と 就業支援の強化 第5節 移住・定住の促進	第1節 地域福祉の推進 第2節 子育て環境の充実 第3節 高齢者福祉の充実 第4節 障害者福祉の充実 第5節 健康づくり・医療体制 の充実

来て楽しい まち・館山

基本目標3 教育・文化	基本目標4 都市整備・環境・ 防災・安全	基本目標5 市民参画・シティプロ モーション・行財政運営
教育と歴史・文化、スポーツの 力で活気あふれるまちが実現し ている	豊かな自然がいつもある、快適 で安全なまちが実現している	まちづくりへの市民参画が活発 となり、市民の幸福度を高める 行財政運営が実現している
めざす		
ふやす		
人をはぐくむ		
行政基盤をつくる		
第1節 学校教育の充実 第2節 青少年の健全育成強化 第3節 生涯学習の推進 第4節 歴史の継承と文化の振 興 第5節 スポーツの振興	第1節 都市整備の推進 第2節 脱炭素による持続可能 な社会の実現 第3節 資源循環型社会の構築 第4節 防災・消防・救急体制の 強化 第5節 生活安全対策の充実	第1節 市民協働とシティプロ モーションの推進 第2節 持続可能な行財政運営

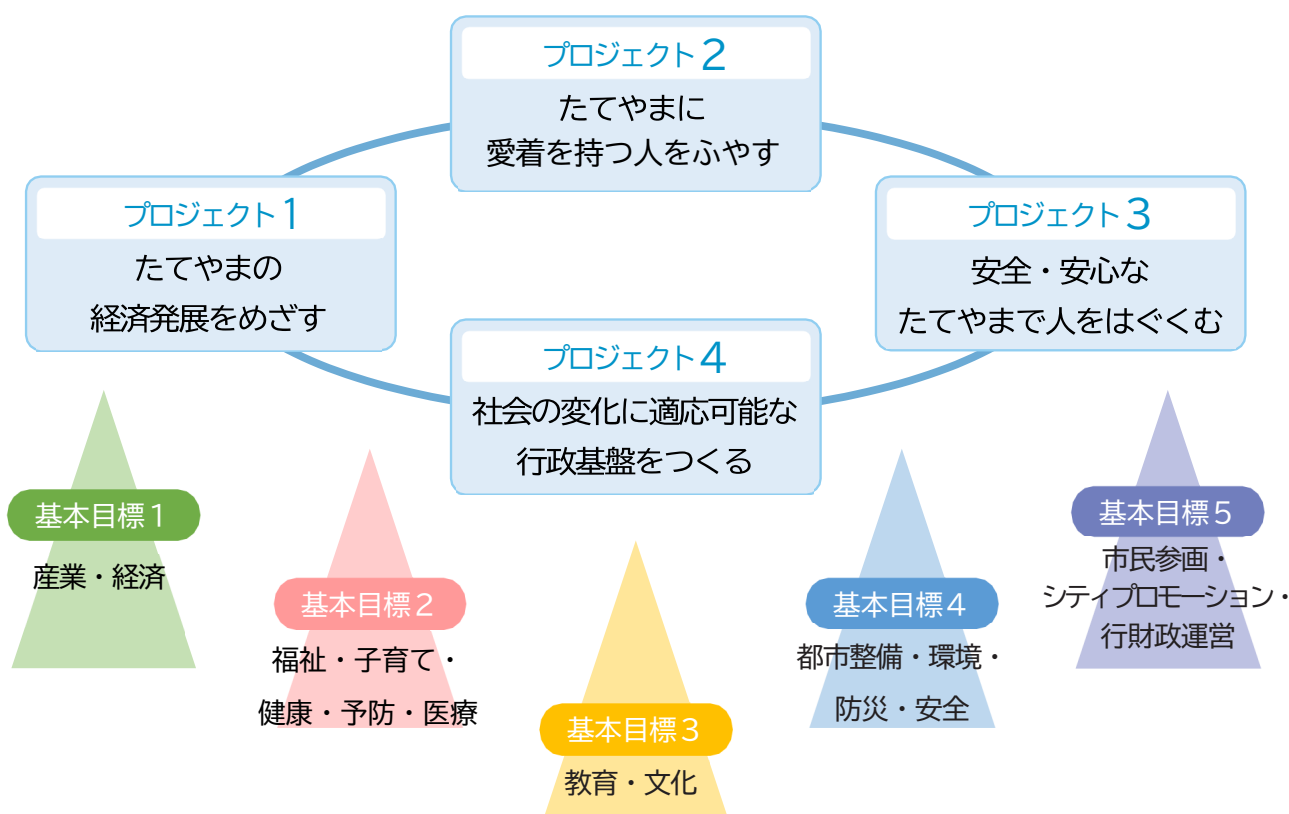
第2章 リーディングプロジェクト

～ 魅力的な たてやまをつくる ～

▶リーディングプロジェクトの趣旨

リーディングプロジェクトは5つの基本目標の枠組みを超えて分野横断的に事業を連動させ、本市のまちづくりのテーマに取り組むプロジェクトです。

リーディングプロジェクトは「第3期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けます。





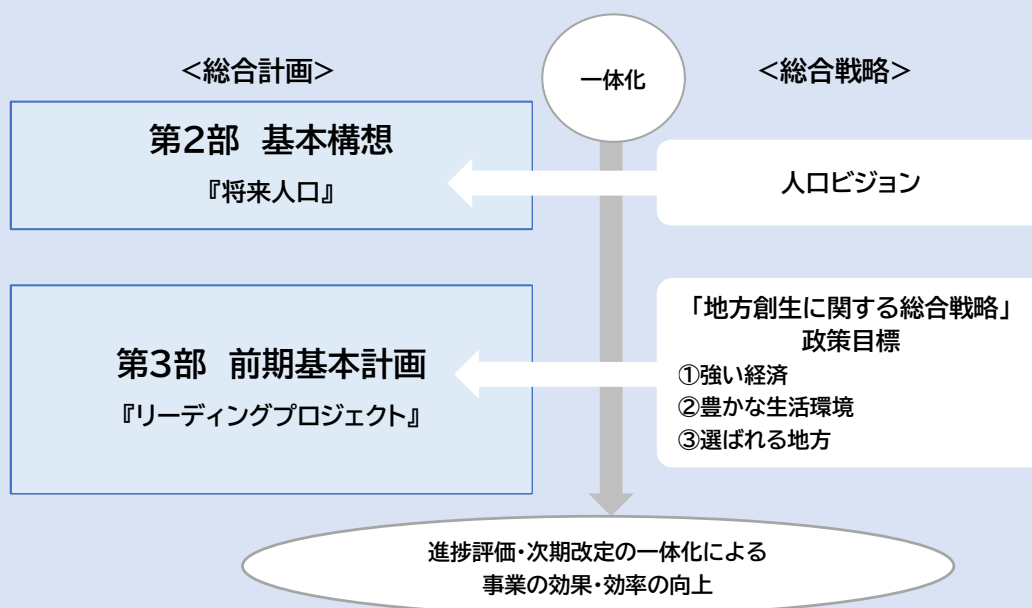
「総合計画」と「地方版総合戦略」の一体化

本市は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年11月制定）に則り、平成27年度から2期11年（令和7年度まで）にわたり、「館山市まち・ひと・しごと創生（館山市人口ビジョン）総合戦略」に基づき、人口減少社会の課題を克服する地方創生に取り組んできました。

令和7（2025）年12月、「地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～」が閣議決定されました。地方においては、国の総合戦略を勘案し、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するよう努めなければならないこととされています。

この国の方針に沿って本市は令和8（2026）年度を初年度とする「第3期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

なお、総合戦略で目指す将来像及び人口ビジョンは市政の最上位計画である総合計画（本計画）で示していること、総合戦略の取組は総合計画（本計画）にも位置付けられていることから、本計画と総合戦略を一体化して効率的・効果的な施策推進と進行管理を行います。



総合戦略の計画期間は、前期基本計画と同様、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度の5年間です。後期基本計画を策定する年度に総合戦略を改訂します。

▶リーディングプロジェクト、本市のテーマ、関連施策一覧

リーディングプロジェクト	たてやまの 経済発展をめざす	たてやまに 愛着を持つ人を ふやす	安全・安心な たてやま 人をはぐくむ	社会の変化に 適応可能な行政 基盤をつくる
本市のまちづくりにおける4つのテーマ	経済基盤の強化	急速な人口減少を抑制する	子育てしやすさ、安全・安心の暮らしの向上	行財政基盤の強化
「地方創生に関する総合戦略」政策目標	強い経済	選ばれる地方	豊かな生活環境	
基本目標1 産業・経済	第1節 観光の振興	●	●	●
	第2節 農水産業の振興	●		●
	第3節 商工業の振興	●		●
	第4節 新たな雇用の創出と就業支援の強化	●	●	●
	第5節 移住・定住の促進		●	●
基本目標2 福祉・子育て・健康・予防・医療	第1節 地域福祉の推進		●	●
	第2節 子育て環境の充実		●	●
	第3節 高齢者福祉の充実		●	●
	第4節 障害者福祉の充実		●	●
	第5節 健康づくり・医療体制の充実		●	●
基本目標3 教育・文化	第1節 学校教育の充実		●	●
	第2節 青少年の健全育成強化		●	●
	第3節 生涯学習の推進		●	●
	第4節 歴史の継承と文化の振興		●	●
	第5節 スポーツの振興		●	●
基本目標4 都市整備・環境・防災・安全	第1節 都市整備の推進		●	●
	第2節 脱炭素による持続可能な社会の実現		●	●
	第3節 資源循環型社会の構築		●	●
	第4節 防災・消防・救急体制の強化		●	●
	第5節 生活安全対策の充実		●	●
基本目標5 市民参画・シティプロモーション・行財政運営	第1節 市民協働とシティプロモーションの推進		●	●
	第2節 持続可能な行財政運営		●	●

「リーディングプロジェクト」の記載項目説明

プロジェクトの方向性
プロジェクトの目的と取組内容の概要を示しています。

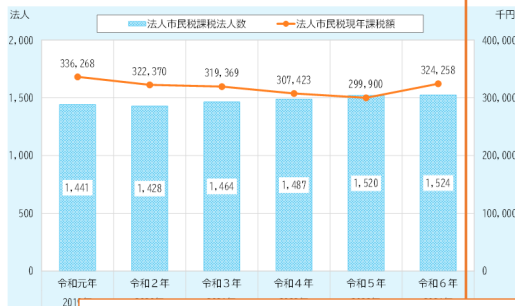
プロジェクト1 たてやまの経済発展をめざす

▶プロジェクトの方向性

地域経済の持続可能な発展と所得向上を図るため、多様な働き方を可能にする環境整備、第1次産業と中小企業の生産性と競争力の向上とともに、地域の特色や資源の活用を軸とした地域内外からのニーズに応えながら、地域経済の循環と成長を促します。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
1	法人市民税課税法人数	1,524件	1,600件
2	法人市民税現年課税額	324,258千円	328,000千円
3	観光消費額（推計値）	281.7億円	320億円



数値目標
プロジェクトが目指す状態(目標値)を示しています。

取組内容

プロジェクトを構成する取組名、具体的な事業、重要業績評価指標(KPI)※を示しています。

▶取組内容

① 新しい働き方を推進する

事業名	基本計画	
サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致	目標1第4節	
魅力ある雇用の創出と雇用のマッチング支援	目標1第4節	
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
企業誘致活動件数 (5年間累計)	延べ 192件	延べ 200件

② 地域産業の担い手を支援する

事業名	基本計画	
観光分野のDX推進	目標1第1節	
スマート農業の推進	目標1第2節	
持続可能な水産業の振興	目標1第2節	
中小企業のDX推進及びデジタル人材の育成	目標1第3節	
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
認定農業者数 (農業法人を含む)	104人	104人
認定農業法人数	21法人	28法人
新規漁業就業者数 (5年間累計)	13人	65人

③ 地域経済の成長・循環を促進する

事業名	基本計画	
食のまちづくりの推進による地域産業の活性化	目標1第2節	
農水産物の6次産業化の推進	目標1第2節	
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
農産物等を使用した加工品の新商品開発数 (5年間累計)	0品	50品
熊山ブランド認定数 (5年間累計)	3品	18品

基本計画(第3章)のどの施策に該当するか示しています。

※重要業績評価指標(KPI): 施策・事業を的確に評価するための客観的な評価基準。

数値目標、重要業績評価指標(KPI)の基準値と目標値

本計画では、

「基準値」はR6(2024)年度時点実績値

「目標値」はR12(2030)年度として記載しています。

*設定した目標値が基準値を下回っている指標については説明を加えています。

プロジェクト1 たてやまの経済発展をめざす

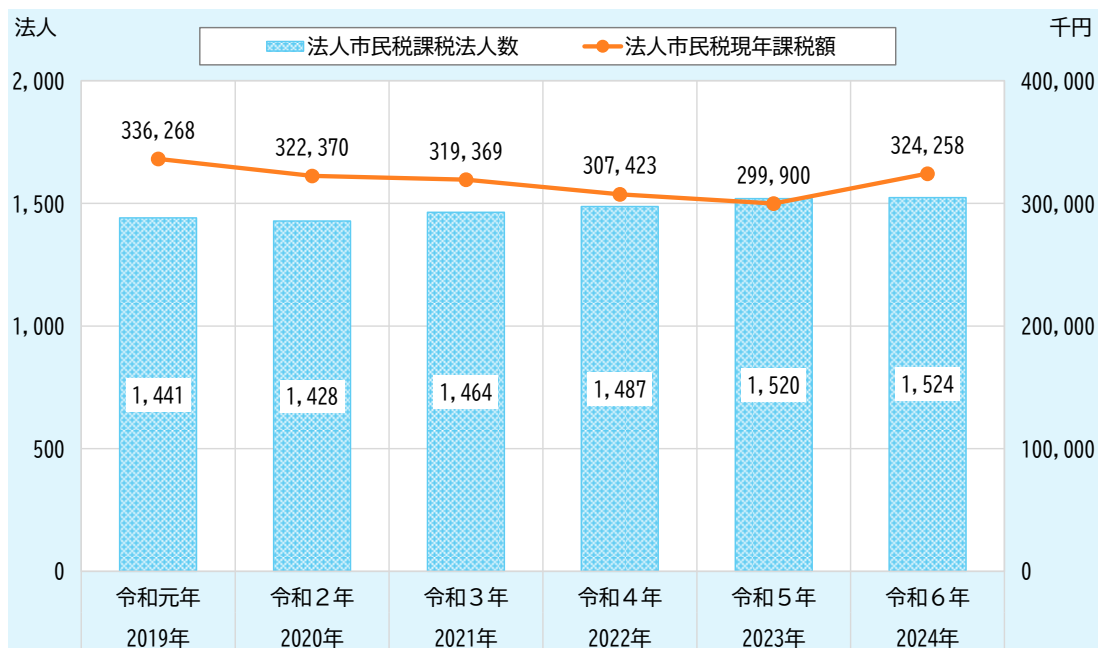


▶プロジェクトの方向性

地域経済の持続可能な発展と所得向上を図るため、多様な働き方を可能にする環境整備、第1次産業と中小企業の生産性と競争力の向上とともに、地域の特色や資源の活用を軸とした地域内外からのニーズに応えながら、地域経済の循環と成長を促します。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
1	法人市民税課税法人数	1,524 件	1,600 件
2	法人市民税現年課税額	324,258 千円	328,000 千円
3	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円



▶取組内容

① 新しい働き方を推進する

事業名		基本計画
サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致		目標1第4節
魅力ある雇用の創出と雇用のマッチング支援		目標1第4節
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
サテライトオフィスを含めた企業誘致件数 (5年間累計)	4件	5件

② 地域産業の担い手を支援する

事業名		基本計画
観光分野のDX推進		目標1第1節
スマート農業の推進		目標1第2節
持続可能な水産業の振興		目標1第2節
中小企業のDX推進及びデジタル人材の育成		目標1第3節
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
認定農業者数 (農業法人を含む)	104人	104人
認定農業法人数	21法人	28法人
新規漁業就業者数 (5年間累計)	13人	65人

③ 地域経済の成長・循環を促進する

事業名		基本計画
食のまちづくりの推進による地域産業の活性化		目標1第2節
農水産物の6次産業化の推進		目標1第2節
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
農産物等を使用した加工品の新商品開発数 (5年間累計)	0品	50品
館山ブランド認定数 (5年間累計)	3品	18品

プロジェクト2 たてやまに愛着を持つ人をふやす

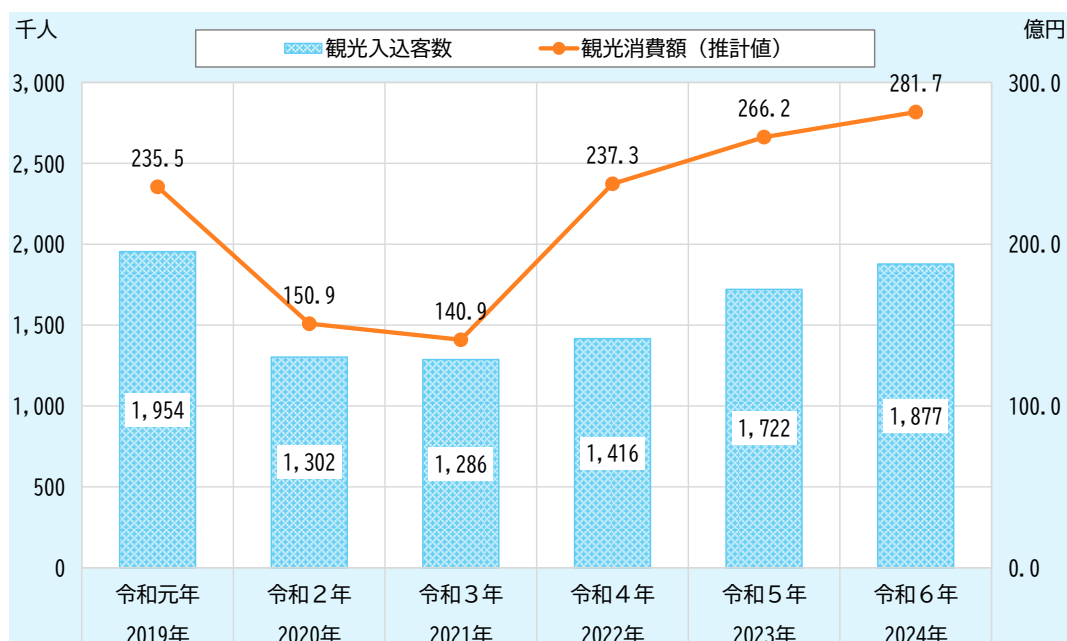


▶プロジェクトの方向性

市外から人を呼び込むため、地域の特色や資源を生かした観光による交流人口の増加、ふるさと納税を中心とする関係人口の拡大とともに、移住・定住の促進に重点的に取り組みます。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
4	観光入込客数	1,877 千人	2,000 千人
5	宿泊客数	414 千人	500 千人
6	外国人宿泊客数	2,512 人	3,000 人
7	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円
8	移住相談経由の移住者数（5年間累計）	200 人	200 人
9	転入者数（5年間累計）	1,687 人	8,400 人



▶取組内容

① 交流人口を増やす

事業名		基本計画	
食のまちづくりの推進		目標1第2節	
スポーツ観光の推進		目標3第5節	
花と景観を生かしたまちづくりの推進		目標4第1節	
重要業績評価指標（KPI）		基準値	目標値
“渚の駅” たてやま 年間来館者数		403千人	500千人
道の駅グリーンファーム館山 年間入込客数		240千人	400千人
スポーツ観光イベント参加者数		13千人	13千人

② 関係人口を増やす

事業名		基本計画	
海辺のまちづくりの推進		目標1第1節	
市内外への積極的な情報発信		目標5第1節	
ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の推進		目標5第2節	
重要業績評価指標（KPI）		基準値	目標値
LINE市アカウントフォロワー数		8,472人	14,000人
事前プレスリリース数		231件	270件
ふるさと納税返礼品登録地場産品数		540品	660品

③ 移住者を増やす

事業名		基本計画	
移住・定住の促進		目標1第5節	
柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方の推進		目標1第5節	
重要業績評価指標（KPI）		基準値	目標値
移住相談件数（5年間累計）		1,227件	1,250件

プロジェクト3 安全・安心なたてやまで人をはぐくむ

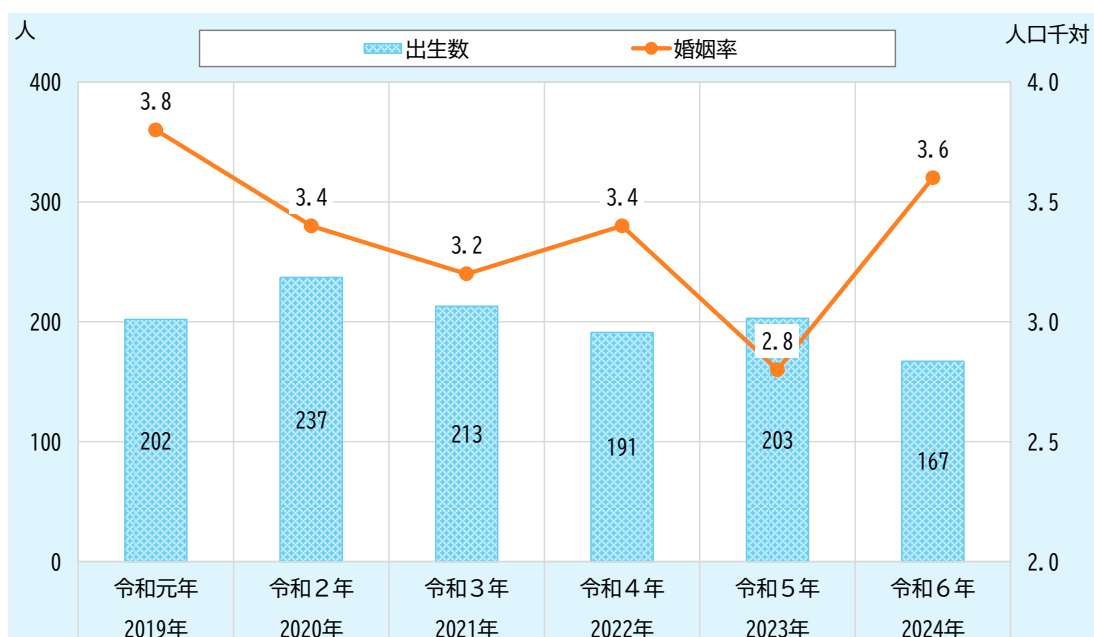


▶プロジェクトの方向性

子育て世代を含む、すべての世代が暮らしやすい環境づくりのため、少子化の流れを断ち切る子育て支援と学校教育の充実、市民の健康と介護を支える取組とともに、地域の支え合いによる防災力強化に重点的に取り組めます。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
10	婚姻率 ※目標値は令和元年から令和5年の平均値から設定しています。	3.6	3.3
11	合計特殊出生率	1.16	1.45
12	出生数（5年間累計）	167人	990人
13	常住人口	42,502人	40,500人



▶取組内容

① 子育て世代を支援する

事業名		基本計画
子育て支援の強化		目標2第2節
ICT活用による教育の推進		目標3第1節
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
「元気な広場」利用満足度の割合	99%	現状維持
公設学童クラブ利用満足度の割合	99%	現状維持
保護者のメール配信システム登録率	99%	現状維持
教師用デジタル教科書活用率	48%	80%

② 安全・安心なまちをつくる

事業名		基本計画
福祉の現場における生産性向上の支援		目標2第3節
健康づくりへの支援		目標2第5節
安全・安心な暮らしのための防災力の強化		目標4第4節
行政・防災の拠点となる市庁舎の整備		目標5第2節
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
ケアプランデータ連携システム導入事業所数 (5年間累計)	1事業所	20事業所
特定健診受診率	35.4%	44.0%
自主防災訓練実施率	38.4%	100%

プロジェクト4 社会の変化に適応可能な行政基盤をつくる

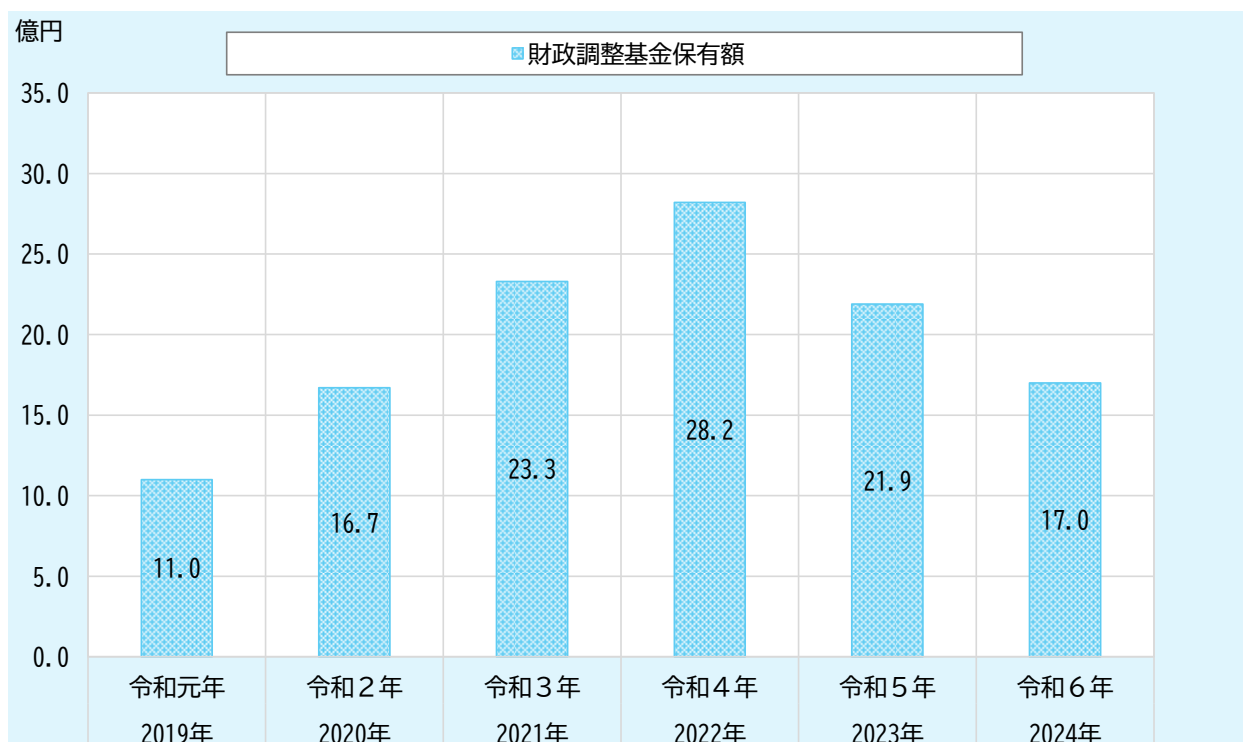


▶プロジェクトの方向性

人口減少による全国的な労働力不足や雇用環境の変化、働き手の価値観の多様化など、社会情勢が大きく変化する中、将来に渡り持続可能で、変化に柔軟に対応できる「組織（職員）」と「経営（財源）」の維持・強化を目指します。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
14	働きやすい・働き甲斐のある職場づくり (職員アンケートによる満足度調査)	数値なし	70.0%
15	財政調整基金保有額	17.0 億円	20.0 億円



▶取組内容

① 「コンパクトでしなやかな組織体制」 への変革

事業名		基本計画
組織改革（機構・業務・意識・制度）の実施		目標5第2節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
時間外勤務の年間時間数（職員1人当たり）	103時間	80時間

② 歳入確保・歳出削減の取組

事業名		基本計画
第4次館山市行財政改革方針に基づく取組		目標5第2節
市税（基幹税：市民税・固定資産税）の適正な課税と公平な徴収による自主財源の確保		目標5第2節
公共施設等総合管理計画の推進		目標5第2節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
ふるさと納税額	6.3億円	9.3億円
『第4次館山市行財政改革方針』に掲げた実施計画（78項目）の達成率	数値なし	100%
公共施設の延床面積（減少）	148,660㎡	118,928㎡

第3章 目標別施策

「目標別施策」の記載項目説明

基本目標1

第1節 観光の振興

5年後の姿

計画期間の5年後に施策が目指す状態を示しています。

5年後の姿

国内外から多くの方々が観光に訪れ、市民も誇りを持って受入れ、交流が深まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

1.1.1 海の魅力向上とイメージアップ

観光みなど課

- クルーズ船や高速ジェット船による海路の充実、海辺の賑わい創出、館山夕日栈橋の整備促進等により、本市最大の観光資源である海の魅力を官民連携で高めています。
- 市の財産である美しい砂浜・海岸の魅力向上、海水浴場の安全対策と利用者のマネー向上に取り組み、本市のイメージアップにつなげます。

1.1.2 地域経済の活性化につながる観光の振興

観光みなど課、農水産課

- DMO (Destination Management/ Marketing Organization : 観光地域づくり法人) を設立し、データに基づく戦略的観光プロモーションと観光分野のDXを推進し、持続可能な経済社会を作ります。
- インバウンド誘致の展開を図り、国内外への情報発信力を高めます。
- 海、スポーツ、自然、食、歴史文化等の多彩な地域資源を生かして様々な分野が連携した体験型ツーリズムの開発や回遊性を向上させる環境整備に官民を挙げて取り組み、何回も訪れるリピーターの獲得と地域経済の活性化につなげます。

5年後の姿を達成するための施策

計画期間に推進する施策名、施策の概要、主な所管部署を示しています。

評価指標
 施策が目指す状態（目標値）を示しています。
 指標は、客観指標（統計データ）と主観指標（アンケート）※の2種類を設定しています。

関連する SDGs
 施策と関連の深いSDGsの目標を示しています。

関連する SDGs



▶ **評価指標**

番号	評価指標	基準値	目標値
1	観光入込客数	1,877 千人	2,000 千人
2	宿泊客数	414 千人	500 千人
3	外国人宿泊客数	2,512 人	3,000 人
4	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円
5	「観光の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	23.1%	48.1%

▶ **主な個別計画・方針等**

- 館山港港湾振興ビジョン
- 館山湾振興ビジョン
- 観光立市たてやま行動計画
- （仮称）観光地経営戦略プラン（令和8（2026）年策定予定）

施策と関連する個別計画・方針等（令和7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む）を記載しています。



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。
 （ご意見は一部要約して掲載しています）



観光資源を使い、経済を回す。
 （高校生アンケート／将来像実現に向けたアイデア）

観光客がたくさん訪れるにぎやかな街。
 （市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

施策に関連する市民のみなさまからのご意見を記載しています。

主観指標（市民意識調査）の目標値

市民意識調査における各項目について、これからのまちづくりを進めていく上で「重要である」「やや重要」と回答があった率を基に、5年後の目標値を定めています。

重要度が設定されていない項目については、5年間で達成することが必要と考えられる目標値を定めています。

基本目標 1

産業・経済

10年後の姿

事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している

	現状	課題
観光	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍の影響で観光全体が打撃を受けた後遺症から徐々に回復しています。 ● 外国人宿泊客数は台湾を中心に増加傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市域を超えた広域観光プロモーションを展開していますが、南房総の外国人知名度は依然として低く、戦略的な取組が必要となっています。
農水産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 6次産業化や担い手育成の支援、道の駅グリーンファーム館山を拠点に官民連携による「食」のブランド化や体験観光を進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化に伴い認定農業者や漁業従事者の減少、漁獲量の減少等、農漁業経営が厳しさを増す中、持続可能な産業振興の取組が重要となっています。
商工業	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣市と連携し、起業支援、中小企業の安定した経営や房州うちわをはじめとする伝統産業の振興等に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域内中小企業者の人材不足等解消のために、IT技術の導入や在宅ワークを推進し、業務効率化等を目指す必要があります。
雇用・就業	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関や近隣市町と連携した求職セミナーの開催や求人情報の提供、地方進出を検討する企業への誘致活動等に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある安定した雇用の場の創出とともに、求人・求職のミスマッチ解消を図り、働き手を確保していく必要があります。
移住・定住	<ul style="list-style-type: none"> ● 南房総市やNPO法人と連携した移住相談対応やトライアルステイ（お試し移住）に加え、テレワーク・ワーケーションの推進等に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの移住施策に加え、移住への足掛かりとなる関係人口の創出・拡大や二地域居住の促進につながる施策にも注力していく必要があります。



Koji Fujii / TOREAL

第 1 節 観光の振興

5年後の姿

国内外から多くの方々が観光に訪れ、市民も誇りを持って受入れ、
交流が深まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

1.1.1 海の魅力向上とイメージアップ

観光みなと課

- クルーズ船や高速ジェット船による海路の充実、海辺の賑わい創出、館山夕日栈橋の整備促進等により、本市最大の観光資源である海の魅力を官民連携で高めていきます。
- 市の財産である美しい砂浜・海岸の魅力向上、海水浴場の安全対策と利用者のマナー向上に取り組み、本市のイメージアップにつなげます。

1.1.2 地域経済の活性化につながる観光の振興

観光みなと課、農水産課

- DMO（Destination Management/ Marketing Organization：観光地域づくり法人）を設立し、データに基づく戦略的観光プロモーションと観光分野のDXを推進し、持続可能な経済社会を作ります。
- インバウンド誘致の展開を図り、国内外への情報発信力を高めます。
- 海、夕日、スポーツ、自然、食、歴史文化等の多彩な地域資源を生かして様々な分野が連携した体験型ツーリズムの開発や回遊性を向上させる環境整備に官民を挙げて取り組み、何回も訪れるリピーターの獲得と地域経済の活性化につなげます。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
1	観光入込客数	1,877 千人	2,000 千人
2	宿泊客数	414 千人	500 千人
3	外国人宿泊客数	2,512 人	3,000 人
4	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円
5	「観光の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	23.1%	48.1%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山港港湾振興ビジョン
- 館山湾振興ビジョン
- 観光立市たてやま行動計画
- （仮称）観光地経営戦略プラン（令和8（2026）年策定予定）



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



観光資源を使い、経済を回す。
（高校生アンケート／将来像実現に向けたアイデア）

観光客がたくさん訪れるにぎやかな街。
（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

第 2 節 農水産業の振興

5年後の姿

農水産物の競争力が高まり、販売が伸びています。
新たに農水産業を担う人・企業が増えています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

1.2.1 稼げる農業への転換支援

農水産課

- 多様な経営体による農業・畜産の生産体制の強化、スマート農業の導入や農地集積・集約化による効率化と品質向上を中心に農地保全と経営の成長化を支援し、魅力ある農業への転換を促進します。

1.2.2 持続可能な水産業の振興

農水産課

- 漁獲量の減少を補う養殖漁業の導入を支援し、漁業資源の増大を図ります。
- 関係団体と連携して漁業の生産性向上や市場競争力の強化、地域のにぎわい創出につながる漁港の利活用に取り組みます。

1.2.3 食のまちづくりを通じた地域活性化の推進

農水産課

- 地域ブランド品開発や拠点施設の活用により、本市の豊富な農水産資源、食文化、体験メニュー等、地域の食の魅力を高め、食を通じた関係人口の広がりに取り組みます。
- 拠点施設を中心に生産者ネットワークの拡大と地場産品の情報発信を進め、地域経済の循環と活性化を促進します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
6	認定農業者数（農業法人を含む）	104人	104人
7	認定農業法人数	21法人	28法人
8	耕作放棄地	177ha	177ha
9	新規漁業就業者数（5年間累計）	13人	65人
10	道の駅グリーンファーム館山 年間売上額	253,910千円	377,193千円
11	館山ブランド認定数（5年間累計）	3品	18品
12	「農水産業の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	15.5%	40.5%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市船形海業推進事業基本計画
- たてやま食のまちづくり計画



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



農業を支援し、館山市の美味しい食材を広める。
（高校生アンケート／将来像実現に向けたアイデア）

若い世代の移住希望者（特に農業、漁業などに携わる人）が増えて、食料自給率の高い市として全国的に有名になる（館山ブランドの米、野菜、海産物）。

（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

第 3 節 商工業の振興

5年後の姿

地域内経済循環への理解促進により、地場産品への関心が高まり、シビックプライドの醸成が図られています。

市内企業の経営力強化や生産性向上が図られ、事業の継続や起業・創業がしやすい環境になっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

1.3.1 事業意欲を後押しする取組の実施

雇用商工課

- 地域経済の回復と地域内経済が円滑に循環するよう、商工団体等を通じて消費者のニーズに合う商品・サービスの提供や経営力強化を図るため事業者を応援します。

1.3.2 市内の起業・創業を応援する取組の実施

雇用商工課、企画課

- 市内での起業や創業を支援し、市内企業の育成と地域経済の活性化につなげます。



関連する SDGs

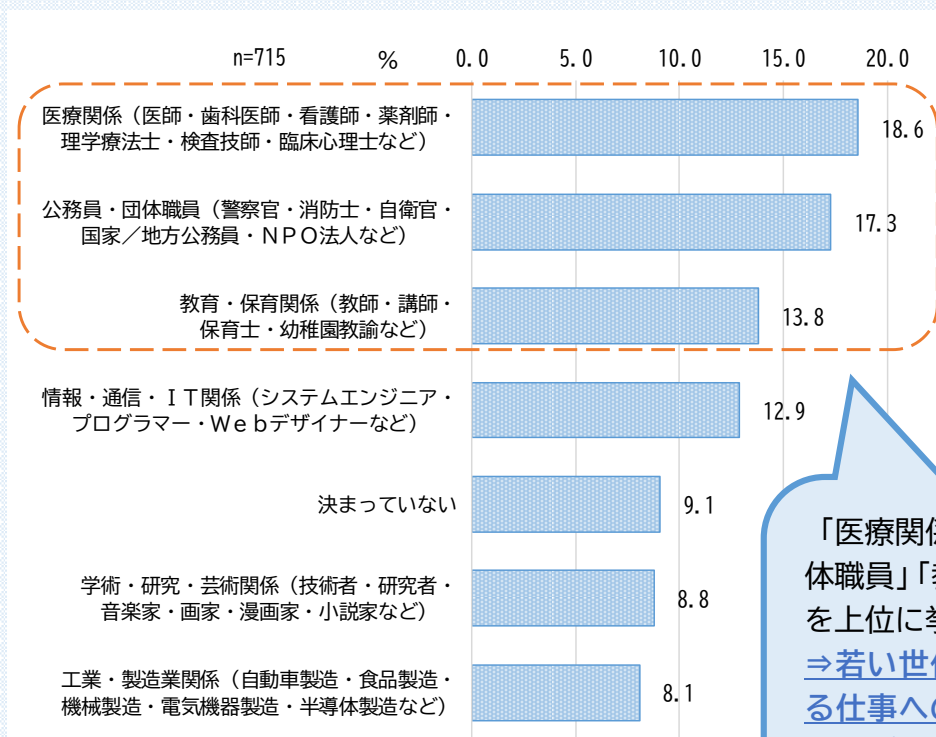


▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
13	ふるさと納税返礼品登録地場産品数	540品	660品
14	起業・創業支援者数（5年間累計）	3件	10件
15	「商工業の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	9.8%	34.8%



高校生アンケート▶ 将来、就きたい職業（複数回答・上位7項目）



「医療関係」「公務員・団体職員」「教育・保育関係」を上位に挙げています。
 ⇒若い世代の地域を支える仕事への想いを叶える環境づくりに取り組みます。

第4節 新たな雇用の創出と 就業支援の強化

5年後の姿

若者が魅力を感じ、安心して働ける職場が増えています。
企業誘致等により、希望する就業機会や
選択できる職種が増えています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

1.4.1 新たな雇用の創出と就業支援の強化

雇用商工課

- 館山市の魅力や特性を生かし、サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致を推進し、新たな雇用の創出、地域課題の解決や地域経済の振興を図ります。
- ハローワークや近隣市町と連携し、地域の雇用ニーズを捉えた求職セミナーの開催や求人情報の提供等、求人・求職のマッチング機会を確保し、就業支援の強化を図ります。

1.4.2 介護・福祉人材の安定した人材確保

高齢者福祉課

- 超高齢社会を迎える市民生活に福祉分野の人材不足が大きく影響することを考慮し、介護・福祉分野の人材確保に向けて働きやすい環境整備と就業支援の充実を図ります。



関連する SDGs



▶ 評価指標

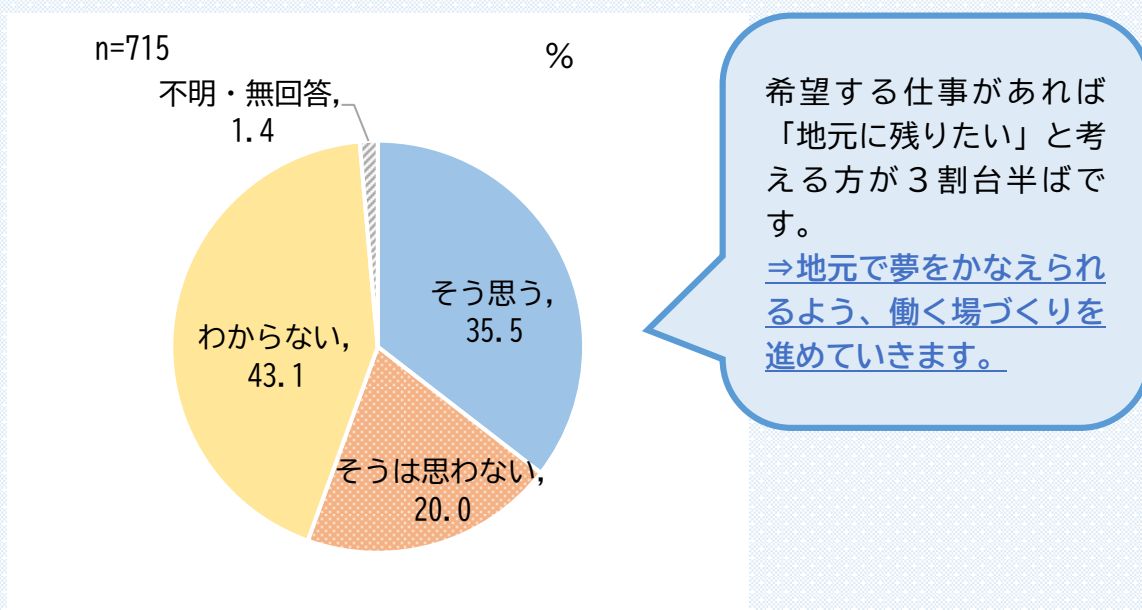
番号	評価指標	基準値	目標値
16	サテライトオフィスを含めた企業誘致件数(5年間累計)	4件	5件
17	求職者を対象としたセミナー開催数(5年間累計)	26回	30回
18	介護職員初任者研修等受講費助成件数(5年間累計)	30件	100件
19	「新たな雇用の創出と就業支援の強化」に満足(「満足」と「やや満足」の合計)と回答した市民の割合	6.2%	31.2%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市サテライトオフィス誘致戦略



高校生アンケート▶希望する仕事在地元にあった場合、「地元に残って」あるいは「地元に戻ってきて就職したい」と考えるか



第 5 節 移住・定住の促進

5年後の姿

館山市民の幸福度が高まり、多世代が住み続けたいと思うまち、憧れの移住先として評価されています。
時間や場所にとらわれない柔軟で多様な働き方や暮らし方が進み、地域内外の多様な人材が活躍しています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

1.5.1 移住・定住、二地域居住の促進

地域づくり課・雇用商工課

- 館山市の魅力や特性を生かし、移住・定住や二地域居住を促進するとともに、テレワークやワーケーション等、柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方を推進します。
- 若者のUターン促進や将来の選択肢の拡大につながる取組、顔の見える経済循環の取組を官民連携で推進します。

1.5.2 移住・定住の実現を応援する取組の充実

企画課

- 多様な世代・主体間の交流を通じて本市への関心を高める取組を推進します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

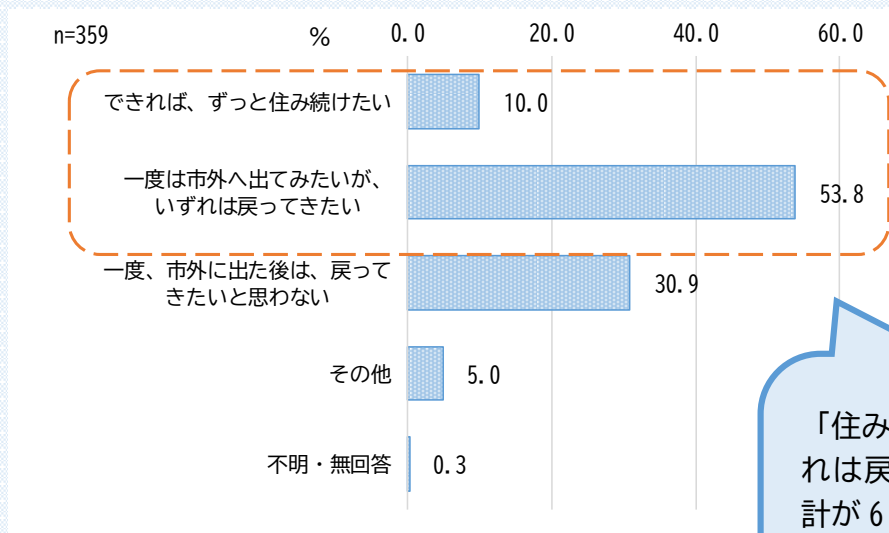
番号	評価指標	基準値	目標値
20	館山市ワーケーション推進施設数	20 件	30 件
21	移住相談件数（5 年間累計）	1,227 件	1,250 件
22	将来を含めた居住意向がある（「できれば、ずっと住み続けたい」と「一度は市外へ出てみたいが、いずれは戻ってきたい」の合計）と回答した高校生（市内）の割合	63.8%	81.9%
23	「移住・定住の促進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	12.1%	32.1%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山リノベーションまちづくり構想



高校生アンケート▶ 今後も『館山市』に住みたいと思いますか（市内在住者）



「住み続けたい」と「いずれは戻ってきたい」の合計が6割強です。
 ⇒「ここで暮らしたい」と思えるまちの魅力を高めていきます。

基本目標 2

福祉・子育て・健康・予防・医療

10年後の姿

こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している

	現状	課題
地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合い活動等の福祉分野に共通する取組を地域や関係団体等と連携して進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立の問題をはじめ、分野横断的に複雑化・多様化するニーズに対応する仕組みを充実する必要があります。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> 近年の出生数は減少傾向、合計特殊出生率も低迷しており、少子化がさらに進んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠・出産・子育てに関する相談支援の充実、保育環境の充実、子育て世帯の精神的・経済的な負担軽減が一層求められています。
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 団塊の世代が後期高齢者になり、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加、介護ニーズの増加が見込まれます。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者本人の介護予防支援と同時に、住民同士の助け合いを組み込んだ地域全体で支える仕組みの充実が求められています。
障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 障害者数全体は横ばいです。その中で療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所等の社会資源が周辺市町も含めて少ないため、限りある資源の連携と活用を一層図る必要があります。
健康づくり 医療	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の延伸を目指して、フレイル予防や生活習慣病等の重症化予防の取組を進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもの頃から適切な生活習慣を身に付ける必要があります。 安定的な地域医療体制を維持する必要があります。



第1節 地域福祉の推進

5年後の姿

地域全体で支え合い、誰もが地域とつながる仕組みができています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

2.1.1 福祉の基盤となる包括的支援体制の充実

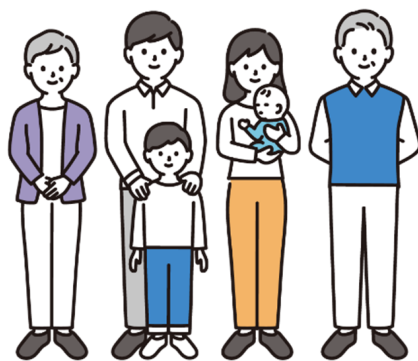
社会福祉課、高齢者福祉課

- 地域活動や関係団体等の多様な主体と連携のもと、誰一人も“置いてきぼり”にしないよう、多様化・複合化する福祉課題に対応できる包括的支援体制の充実を図ります。

2.1.2 “暮らしにくさ”に寄り添う体制の充実

社会福祉課

- 誰もが安心して暮らし続けられるよう、一人ひとりの“暮らしにくさ”に伴走しながら支援できる分野横断的な体制の充実を図ります。



関連する SDGs



▶ 評価指標

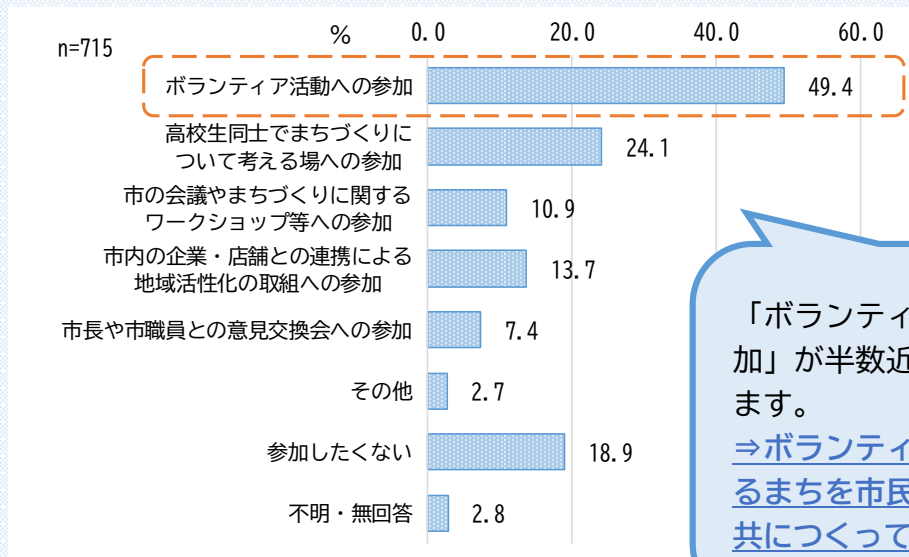
番号	評価指標	基準値	目標値
24	民生委員・児童委員定数充足率	92.0%	100%
25	協議体の新規設置数（5年間累計）	2 団体	10 団体
26	「地域福祉の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	10.9%	30.9%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市地域福祉計画・地域福祉活動計画



高校生アンケート▶まちづくりに参加する形（複数回答）



「ボランティア活動への参加」が半数近くに上っています。
⇒ボランティアの輪が広がるまちを市民のみならずと共につくっていきます。

第2節 子育て環境の充実

5年後の姿

こどもを安心して産み育てる環境が整い、
子育てをする安心感が高まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

2.2.1 安心して妊娠・出産・育児のできる環境づくり

健康課、
こども家庭センター、こども課

- 妊婦及び乳幼児のいる家庭に切れ目のない支援を展開し、妊娠・出産・育児を通じて育児不安の軽減や孤立を防ぎ、乳幼児の健康の保持増進を図ります。

2.2.2 こどもが健やかに育つ環境づくり

こども課

- 就学前及び小学校入学後の子育て支援の充実を図ります。
- 学校再編と連動し、保育園・幼稚園・こども園・学童クラブを計画的に整備します。

2.2.3 子育て家庭を守り支える環境づくり

こども家庭センター、こども課

- 家庭で安心して子どもを育てられるよう関係機関等と連携し、すべてのこどもが健やかに成長できる家庭支援を継続します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

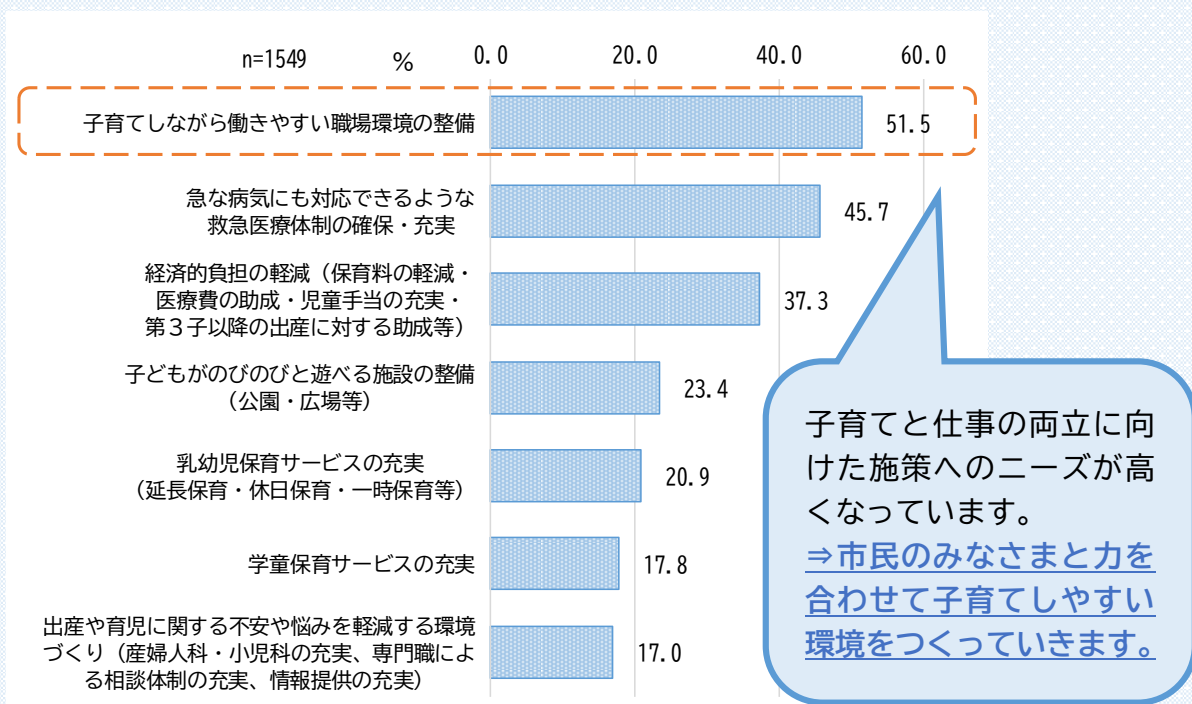
番号	評価指標	基準値	目標値
27	乳幼児健診受診率	93.1%	100.0%
28	「元気な広場」利用満足度の割合	99%	現状維持
29	公設学童クラブ利用満足度の割合	99%	現状維持
30	「子育て環境の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	16.0%	41.0%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市こども計画



市民アンケート▶ 出産・子育て支援の重要施策（複数回答・上位7項目）



第3節 高齢者福祉の充実

5年後の姿

いくつになっても住み慣れた地域で暮らせる
安心感が高まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

2.3.1 高齢者を支える地域包括ケアの充実

高齢者福祉課

- 地域包括支援センターの機能強化と地域連携を進め、地域の中で人権を守り、支え合いながら暮らせる「長寿健康のまち」の実現を図ります。

2.3.2 高齢者の生活支援の推進

高齢者福祉課

- 介護保険制度の持続的・安定的な運営を図りながら、高齢化に伴う在宅サービスと施設サービスの確保と質の向上に取り組みます。



関連する SDGs



▶ 評価指標

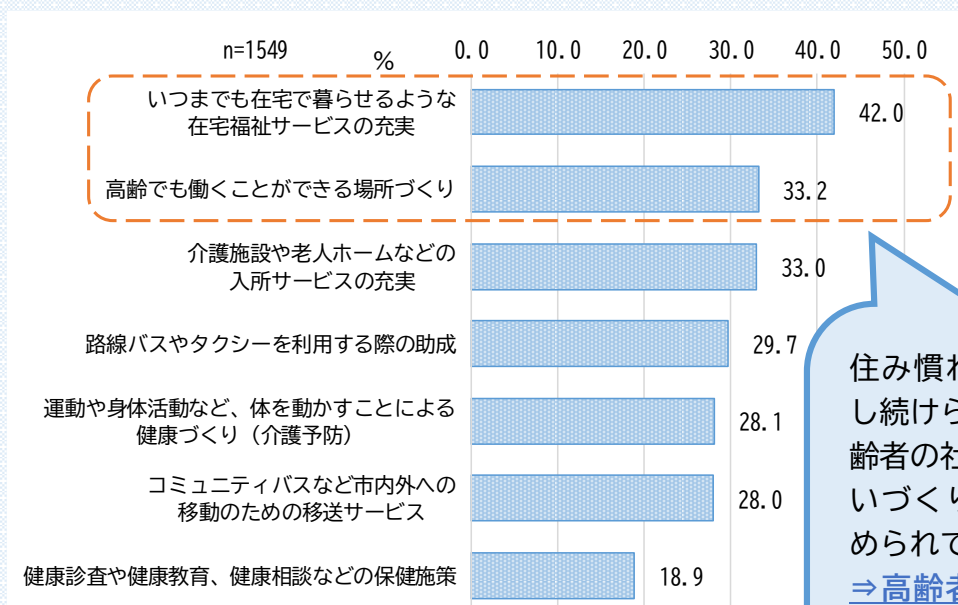
番号	評価指標	基準値	目標値
31	元気ができる体操教室 新規立ち上げ数（5年間累計）	2件	10件
32	認知症サポーター 新規受講者数（5年間累計）	290人	1,250人
33	「高齢者福祉の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	19.0%	44.0%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画



市民アンケート▶ 高齢者支援の重要施策（複数回答・上位7項目）



住み慣れた地域で暮らし続けられる社会や、高齢者の社会参加、生きがいづくりへの支援が求められています。
 ⇒ 高齢者が安心して暮らし、生きがいを感じるまちを目指します。

第4節 障害者福祉の充実

5年後の姿

障害に対する市民の理解が深まり、誰もが自分らしい暮らし方をできる地域に一步一步近づいています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

2.4.1 障害者とその家族の暮らしを支える支援の充実

社会福祉課

- 関係機関との連携や地域資源の活用を一層進めながら、障害者とその家族の暮らしを支える各種支援サービスや、相談支援体制等の充実を図ります。

2.4.2 障害者の生活の質（QOL）の向上

社会福祉課

- 就労、地域活動、学習・スポーツ活動への参加を可能にし、自分の望む生き方を選べる環境づくりを推進します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
34	就労継続支援事業の利用者数	293人	増加
35	地域活動支援センターの利用者数（一月当たり）	49人	増加
36	「障がい者福祉の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	10.7%	30.7%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市地域福祉計画・地域福祉活動計画
- 館山市障害者基本計画、館山市障害福祉計画及び館山市障害児福祉計画



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



もっと福祉を充実したら、今増えている発達障害の子供をもっている親たちも助かると思う。

（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

障害福祉の充実。市と千葉県立安房特別支援学校の関わりがもう少しあっても良いのではと感じる。

（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

第5節 健康づくり・医療体制の充実

5年後の姿

市民が自ら行う健康づくりと疾病予防（病気にならない行動）を支える環境ができています。

広域的な医療体制の確保と医療人材の育成ができています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

2.5.1 市民が主体的に行う「適切な生活習慣」の普及

健康課

- 市民一人ひとりが自らの健康を守る生活習慣を身につけ、生涯にわたって健康づくりと疾病予防に主体的に取り組むための支援の充実を図ります。

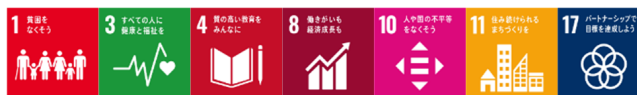
2.5.2 地域医療体制の維持

健康課、市民課

- 市民の健康の保持・増進を支える国民健康保険と後期高齢者医療制度の適切な運営と、休日や夜間を含めた地域医療体制の維持を図ります。



関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
37	特定健診受診率	35.4%	44.0%
38	「保健・医療体制の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	25.2%	50.2%
39	「健康づくりの推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	20.5%	40.5%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市健康増進計画～健幸たてやま 21～



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



高校生以下の医療費を無料にする。
（高校生アンケート／将来像実現に向けたアイデア）

全世代の人たちが健康で充実した日々が送れるまち
になって欲しいと願います。
（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

基本目標 3

教育・文化

10年後の姿

教育と歴史・文化、スポーツの力で活気あふれるまちが実現している

	現状	課題
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育の充実により、児童生徒の「生きる力」の育成を図っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化の時代においても一定の学校規模を継続的に維持し、児童生徒の教育環境の整備・充実に努める必要があります。
青少年健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民の協力で放課後子供教室やふるさと体験活動にたくさんの子ども達が参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化が進む中、地域資源を生かして幅広い体験・学習機会を創出していく必要があります。
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央公民館、図書館、博物館が専門性を生かし、市民ニーズに応える多くの講座・イベントを開催しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人生100年時代を迎え、大人の学び直しや学習環境の充実と、学習成果を地域で発揮できる仕組みを強化していく必要があります。
文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 郷土資料の収集や市民の芸術文化活動支援を通じて、地域独自の歴史・文化の振興に取り組んでいます。 ● 博物館本館・館山城は毎年5～6万人が来館し、本市の歴史・文化に触れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形・無形文化財の保存と同時に、多くの人に郷土の魅力を発信していく必要があります。 ● 地域の歴史・文化を伝える資料を次世代へ継承するため、博物館施設の改修等を含む老朽化への対策が求められます。
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民のスポーツの習慣化を目的に地域に密着したスポーツ・レクリエーション活動を推進するとともに、スポーツ観光の視点から各種イベントの開催・支援をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ推進委員や指導者の減少、スポーツ大会エントリー数の伸び悩み、社会体育施設の老朽化への対策が求められます。



第1節 学校教育の充実

5年後の姿

質の高い教育環境の構築が着実に進むとともに、児童生徒の個性を尊重して「生きる力」を育成する教育が行われています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

3.1.1 「生きる力」を育成するための教育活動の充実

教育総務課

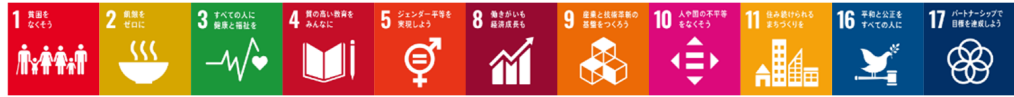
- 「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育み、「生きる力」を育成するための教育活動を推進します。
- 児童生徒の興味・関心や体験的な活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ります。
- 一人ひとりの特性に応じた学習が行われるよう指導内容・方法の工夫改善を図ります。

3.1.2 質の高い教育環境の実現

教育総務課

- 少子化に対応した適切な教育環境に向けて、館山市立小中学校再編計画に基づく取組を着実に推進します。
- 児童生徒の快適な学習環境の整備と、安全に安心して学べる教育環境の確保を図ります。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値	
40	館山市立小中学校における標準規模校の割合	23.1%	40.0%	
41	特色ある学校づくりの推進 (小規模特認校・学びの多様化学校)	0校	2校	
42	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した割合 (「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	児童	83.1%	増加
		生徒	83.3%	増加
43	自分にはよいところがあると思うと回答した割合 (「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	児童	81.7%	増加
		生徒	82.3%	増加

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市教育基本計画
- 館山市立小中学校再編計画



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

(ご意見は一部要約して掲載しています)

自然や環境についての教育を実施する。

(高校生アンケート/将来像実現に向けたアイデア)



小学生が道で会うと「こんにちは」と大きな声で挨拶をしてくれる。ああ、なんと気持ちのいい子供たちだろう。私も「お帰りなさい、車に気を付けてね」と大きな声で返事をする。笑顔で挨拶が出来るだけでいい。豊かな自然に育まれて教育を受けて、人間も暮らしも豊かである。

(市民アンケート/10年後になってほしいまちの姿)

第2節 青少年の健全育成強化

5年後の姿

10代の郷土への愛着が高まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

3.2.1 地域資源を生かした体験活動の推進

生涯学習課

- 自然、歴史、文化、産業等の地域資源を生かし、地域と連携して児童生徒の体験の場・学びの場を広げます。

3.2.2 地域と連携した青少年健全育成活動の推進

生涯学習課

- 若者にまちの次代を担う心が育まれるよう、PTA、子ども会、青少年相談員、社会教育関係団体等の自主的な青少年健全育成活動を支援します。

関連する SDGs

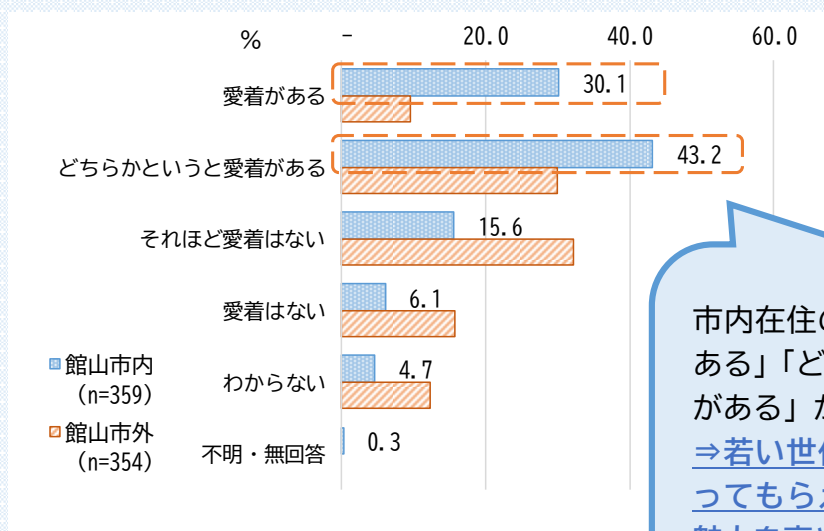


▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
44	放課後子供教室実施割合 *感染症等で中止になることを想定して設定しています	96.8%	95.0%
45	「青少年の健全育成強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	13.5%	33.5%
46	館山市に「自分たちのまち」としての愛着を感じている（「愛着がある」と「どちらかというとな愛着がある」の合計）と回答した高校生（市民）の割合	73.3%	86.7%



高校生アンケート▶館山市への愛着度



市内在住の高校生は「愛着がある」「どちらかというとな愛着がある」が7割強です。
⇒若い世代にもっと好きになってもらえるように、まちの魅力を高めていきます。

第3節 生涯学習の推進

5年後の姿

生涯を通じて学び続けることができる環境と、
学びを地域活動に生かせる仕組みになっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

3.3.1 郷土の継承・発展に資する生涯学習の支援

生涯学習課、図書館

- 市民ニーズに応える多様な学習機会の創出と市民主体の学習活動を支援します。
- 市民一人ひとりの知識や経験等を郷土の継承・発展に生かす仕組みの充実を図ります。

3.3.2 図書館の教育・情報拠点化の充実

図書館

- 図書を通じたこども達の豊かな学びを支援します。
- 生涯学習の教育・情報拠点としてレファレンスサービスと蔵書の充実を図ります。



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
47	生涯学習出前講座 開催件数 *過去5年の平均値から目標値を算出しています	110 件	100 件
48	公民館講座参加者割合	8.6%	11.6%
49	図書館イベント参加者数 (千人当たり)	19.4 人	20.4 人
50	図書貸出数 (人口一人当たり)	2.6 冊	2.8 冊
51	「生涯学習の推進」に満足(「満足」と「やや満足」の合計)と回答した市民の割合	13.0%	28.0%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市図書館の基本的運営方針
- 館山市子ども読書活動推進計画



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

(ご意見は一部要約して掲載しています)



中高生に授業で地域の活性化にはなにが必要かを考えてもらう授業を展開したりするのが良いと考えます。
(高校生アンケート/将来像実現に向けたアイデア)

図書館が充実し、自分の力で常に学べる環境が整っている。
(市民アンケート/10年後になってほしいまちの姿)

第4節 歴史の継承と文化の振興

5年後の姿

郷土の歴史と文化を大切にする意識が広がり、
多様な文化交流につながっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

3.4.1 歴史・文化の保存と活用

博物館

- 文化財保存活用地域計画を策定し、有形無形の文化財の発掘・保存とともに、戦国大名里見氏をはじめとする、歴史・文化資源を活用したシビックプライドの醸成、地域独自の観光・学習の場を創出します。
- 稲村城跡について、各種団体との連携を図り適切な保存管理体制を構築した上で、整備活用の方向性について検討します。
- 博物館では、郷土資料を収集するとともに、展示や講座等により、市内外の幅広い世代が地域の歴史・文化を学ぶ機会を提供します。

3.4.2 芸術文化活動の活性化、多様な文化交流の推進

生涯学習課

- 芸術文化活動の学習の場と発表の場を提供し、市民の自主的な芸術文化活動を支援します。
- 芸術文化活動の振興を通じて郷土の魅力発信と多様な文化交流を推進します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
52	博物館本館・館山城入館者数 * 基準年度は例年と比べて入館者数が突出していたことから、過去の入館者数の推移から目標値を設定しています	64,932 人	61,000 人
53	赤山地下壕跡入壕者数	28,248 人	31,000 人
54	たてやまフィールドミュージアム（インターネット） 年間閲覧者数	49,007 人	75,000 人
55	博物館講座参加者数	1,252 人	1,300 人
56	「歴史の継承と文化の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	19.3%	39.3%

▶ 主な個別計画・方針等

- 文化財保存活用地域計画（令和8（2026）年度策定予定）



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



祭りなどの伝統文化は継続しつつ、多様性を意識してどんな人が来ても楽しめる。

（高校生アンケート／将来像実現に向けたアイデア）

伝統ある館山のお祭りを続けていき、活気のある市
（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

第5節 スポーツの振興

5年後の姿

市民一人ひとりがスポーツを自主的・継続的に親しむ気運が広がり、
スポーツの持つ力が地域活性化につながっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

3.5.1 スポーツを生涯楽しめる環境づくり

スポーツ課

- 誰もが生涯にわたって安心して安全にスポーツを楽しめるよう、指導者養成と団体活動の支援、地域資源を生かしたスポーツの普及に努めます。
- 人口減少に対応した、スポーツをより楽しめる環境の整備に向けて活動拠点（施設）の再編成を推進します。

3.5.2 スポーツによるまちの活性化

スポーツ課

- 地域資源等を最大限に生かした多様なスポーツイベントを開催・支援し、スポーツを「する、支える、応援する」文化の普及と交流人口の拡大に取り組みます。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
57	スポーツ用具の貸出件数	80 件	92 件
58	館山若潮マラソン 市民エントリー件数	650 件	1,000 件
59	館山若潮マラソン 市外からのエントリー件数	5,500 件	6,300 件
60	社会体育施設の市内利用者数	47 千人	47 千人
61	社会体育施設の市外利用者数	12 千人	14 千人
62	市内のスポーツイベント開催数（主催・共催・後援）	48 回	48 回
63	「スポーツの振興によるまちづくり」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	17.8%	32.8%



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



ウォーキングやサイクリングで体力づくりができる街。
マリンスポーツでももっともっと賑やかになってほしい。
（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

基本目標 4

都市整備・環境・防災・安全

10年後の姿

豊かな自然がいつもある、快適で安全なまちが実現している

	現状	課題
都市整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路や河川、排水路の適切な維持管理を行い、施設の安全確保に取り組んでいます。 ● 市街地循環バス、事前予約制乗合送迎サービスの運行、公共ライドシェアの実証運行等、公共交通網の維持・確保を進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パトロールや定期点検により、状況把握に努めていますが、毎年、補修・整備等を要する箇所が発生しています。 ● 暮らしの利便性を高める多様な移動手段が求められています。
脱炭素社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第五次館山市地球温暖化対策実行計画」に基づき、市役所における地球温暖化防止を進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境の保全とカーボンニュートラルの実現に向けた地球温暖化対策を官民一体で取り組む必要があります。
資源循環型社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人1日当たりごみ排出量は若干減少しており、資源ごみ再資源化率は増加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民一人ひとりが環境への負荷を意識し、日常的にごみの減量化・再資源化に一層取り組むことが求められています。
防災消防救急	<ul style="list-style-type: none"> ● 被害想定等の最新情報も踏まえながら、市民及び観光客の安全確保に取り組んでいます。 ● 消防団の団員数は減少傾向となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 激甚化・頻発化する自然災害に備えて、自助・共助・公助それぞれの取組をこれまで以上に進める必要があります。
生活安全	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内交通事故件数は減少傾向にありますが、高齢者の事故割合が多くを占めている状況です。また、犯罪の複雑化・凶悪化により被害が深刻化しています。 ● 空き家件数は2,000件以上あり、その内、周辺に影響を及ぼすおそれのある空き家は約400件あると推計されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の事故防止、犯罪被害を未然に防ぐ環境づくり、消費生活相談員や関係機関と連携した消費トラブルの防止に一層の取組が求められています。 ● 良好な住環境を目指し、効果的な空き家対策を進めることが求められています。



第1節 都市整備の推進

5年後の姿

インフラの適切な管理と長寿命化により生活環境が整っています。
交流と賑わいにつながる公共交通網整備が着実に進んでいます。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

4.1.1 交流機能と防災機能を高めるインフラ整備の推進

建設課、都市計画課

- 市道や橋梁、トンネルの改良・維持補修、河川や排水路の整備を財政運営と連動しながら計画的に推進します。
- 幹線道路ネットワークである国道・県道・高規格道路の早期整備に向けて関係機関と連携して要望していきます。

4.1.2 暮らしの利便性を高める地域公共交通網の構築

都市計画課

- 持続可能性と利便性の視点から市民の移動ニーズと市内の回遊性を高める地域公共交通網の見直しやバス路線の再編、新たなサービス形態への転換を検討します。
- 地域の関係者との連携と協働を通じて、地域公共交通の利便性・持続可能性を高めます。

4.1.3 魅力を高める都市空間の創出

都市計画課、建設課

- 都市機能の集約を図り、市民・来訪者の利便性向上を図ります。
- 花と景観を生かし、交流と賑わいにつながる都市空間を創出します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

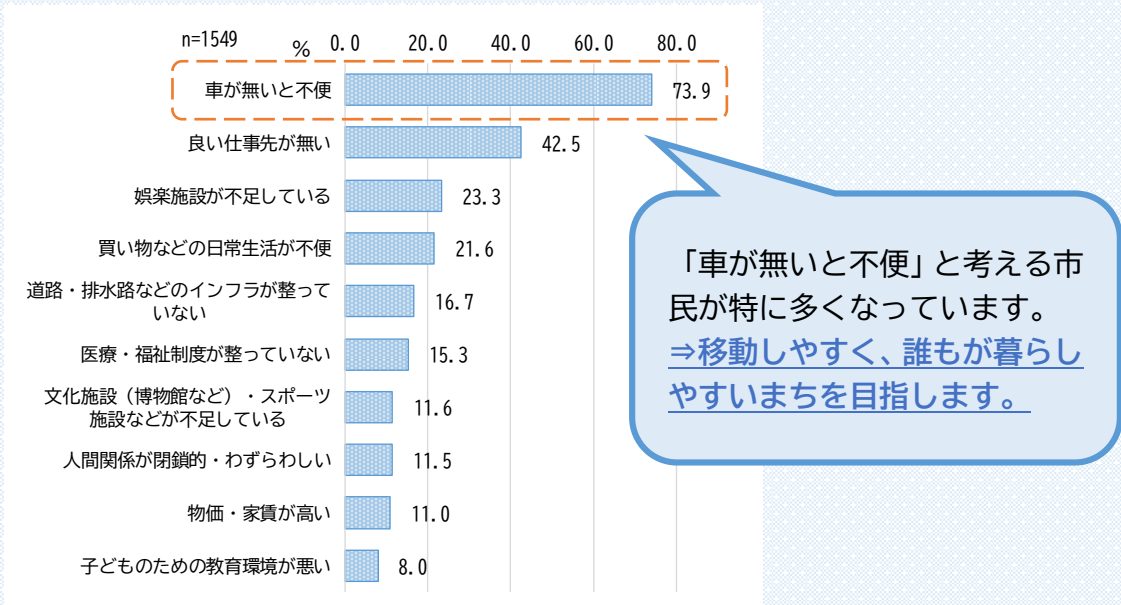
番号	評価指標	基準値	目標値
64	船形バイパス工事進捗率	29.5%	90%
65	道路排水整備延長（5年間累計）	0m	300m
66	道路舗装施工延長（5年間累計）	622.3m	1,500m
67	公共交通の年間利用者数（鉄道・路線バス・高速バス）	1,677千人	現状維持
68	「交通体系の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	10.2%	35.2%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市都市計画マスタープラン（令和9（2027）年改訂予定）
- 館山市立地適正化計画（令和9（2027）年策定予定）
- 館山市景観計画
- 南房総・館山地域公共交通計画



市民アンケート▶ 館山市が住みにくいと思う点（複数回答・上位10項目）



第2節 脱炭素による持続可能な社会の実現

5年後の姿

郷土の豊かな自然環境を守り、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた関心が高まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

4.2.1 持続可能な地域づくりの推進

環境課、環境センター、
農水産課、下水道課

- 館山市特有の豊かで多様な自然環境を未来につないでいくために、自然環境の保全を推進するとともに、生物多様性についても維持保全を推進します。
- 行政が率先して地球温暖化防止対策と脱炭素化を進め、温室効果ガスの排出量の削減に努めます。
- 市民・事業者の自主的なCO₂削減に向けたエネルギー利用の効率化・最適化を促進し、住宅用省エネルギー設備等への支援を通じて、脱炭素化を推進します。
- 再生可能エネルギーの地域内循環について、先進事例等を注視しつつ、研究していきます。



関連する SDGs



▶ 評価指標

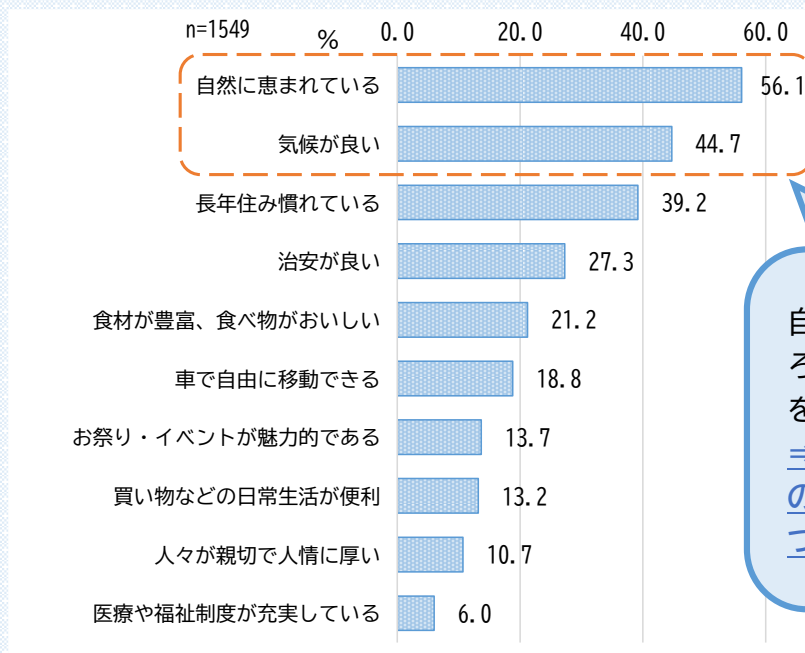
番号	評価指標	基準値	目標値
69	公共施設のCO ₂ 排出量（減少）	16,366.1 t-CO2	14,402.1 t-CO2
70	住宅用省エネ設備等の設置件数	47 件	60 件
71	「環境・衛生対策の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	21.2%	41.2%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）



市民アンケート▶ 館山市が住みやすいと思う点（複数回答・上位10項目）



自然に恵まれているところや、気候が良いところを高く評価しています。
 ⇒市民のみなさまと自然の中で住みやすいまちをつくっていきます。

第3節 資源循環型社会の構築

5年後の姿

資源の有効活用とまちの環境美化に対する理解と実践が広がっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

4.3.1 4Rの一層の普及

環境課、環境センター

- 資源の有効活用を進めるため、家庭ごみや事業ごみの分別や適正搬出に向けた意識啓発を図ります。
- 環境負荷を軽減し、資源ごみ再資源化率を高めるため、より効率的な再資源化処理技術の導入を検討します。

4.3.2 地域ぐるみで進める清潔な環境の維持

環境課

- 市民の協力を得ながら、地域全体で環境美化を推進します。
- 美しい自然環境を次世代に引き継ぐため、環境学習に取り組みます。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
72	1人1日当たりごみ排出量	1,125 g	1,059 g
73	資源ごみ再資源化率	13.3%	17.2%
74	「資源循環型社会の構築」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	12.4%	32.4%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市一般廃棄物処理基本計画
- 君津地域・安房地域循環型社会形成推進地域計画



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



家のまわりやよく通る場所の草取り・ゴミ拾いを習慣にして欲しい。子供たちに対してお手本になる大人がたくさんいたらいいです。

（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

観光に来る人たちがまた来たいと思うような環境づくり（バイパスの草をきれいに常にしていたり、海岸をきれいにする）ができる地域であってほしい。

（市民アンケート／10年後になってほしいまちの姿）

第4節 防災・消防・救急体制の強化

5年後の姿

市民と行政が一体となり、災害に強く安心して暮らすことのできる
地域強靱化が進んでいます。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

4.4.1 官民を挙げた防災力の強化

危機管理課

- 大規模災害発生時の応急対応から災害復旧に至る一連の公助機能を発揮する体制の充実や施設整備を関係機関と連携して推進します。
- 市民・地域の自助・共助（近助）の力を高めるため、避難支援体制や自主防災組織の体制強化に取り組みます。

4.4.2 消防・救急体制の強化

危機管理課

- 安房郡市広域市町村圏事務組合による消防・救急業務の体制強化を図ります。
- 消防団が迅速・安全に消防活動ができるよう、地域の協力のもとで消防団員の確保を促進するとともに、施設整備を推進します。



関連する SDGs



▶ 評価指標

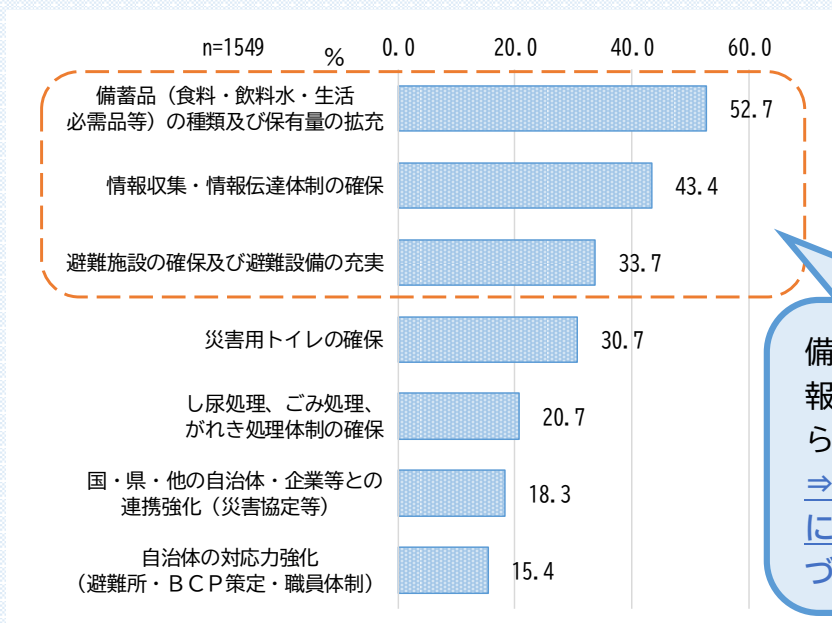
番号	評価指標	基準値	目標値
75	自主防災訓練実施率	38.4%	100%
76	旧耐震基準により建築された消防団詰所の更新（5年間累計）	0棟	2棟
77	「防災体制の強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	23.9%	48.9%
78	「消防・救急の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	38.9%	63.9%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市地域防災計画
- 館山市津波避難計画
- 館山市業務継続計画
- 館山市受援計画
- 館山市国土強靱化地域計画



市民アンケート▶ 災害に強いまちづくりのために重要な施策
（複数回答・上位7項目）



備蓄品の充実、迅速な情報、避難できる環境が求められています。
⇒市民のみなさまと一緒に安心して暮らせるまちづくりを進めます。

第5節 生活安全対策の充実

5年後の姿

交通安全、防犯、災害に強い住宅に対する関心が高まっています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

4.5.1 安全なくらしを支える交通安全・防犯の推進

危機管理課

- 交通事故危険箇所の交通安全施設整備、地域の協力による防犯活動、消費者トラブルの未然防止対策を通じて安全な市民生活の維持に取り組みます。

4.5.2 住宅等の耐震化、空き家対策の推進

建築施設課

- 災害時に自分と家族の生命を守る住宅等の耐震化への理解を高め、迅速な工事着手につなげます。
- 住環境の向上と地域全体の活性化を図るため、空き家の発生の抑制と利活用の促進に取り組みます。

関連する SDGs



▶ 評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
79	交通事故発生件数（暦年）	113 件	減少
80	犯罪発生件数（暦年）	235 件	減少
81	空家バンク新規登録物件数（5 年間累計）	3 件	50 件
82	特定空家等の件数（減少）	80 件	65 件
83	「交通安全・防犯体制の強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	25.4%	50.4%



市民のみなさまからお寄せいただいたご意見を生かしてまちづくりを進めます。

（ご意見は一部要約して掲載しています）



うるさいバイクを取り締まる。
（高校生アンケート／将来像実現に向けたアイデア）

安心安全で若い人も住みたいと思う町に。
（市民アンケート／10 年後になってほしいまちの姿）

基本目標 5

市民参画・シティプロモーション・ 行財政運営

10年後の姿

まちづくりへの市民参画が活発となり、
市民の幸福度を高める行財政運営が実現している

市民協働 シティプロ モーション

現状

- 館山市市民協働条例に基づき選定された団体による事業を毎年度実施しています。
- 男女共同参画や女性活躍・男性の育児参加等の推進を目的とした「コーラル会議」を開催し、多様な視点から議論を行い、市政に反映しています。
- 市内外へ向けたシティプロモーションを展開しています。

課題

- 人口減少、少子高齢化、未加入者の増加から町内会等の運営が困難な状況に直面しています。
- 移住促進や観光振興につながるシティプロモーションの視点からの施策展開が必要になっています。

行財政運営 広域行政

現状

- 市民サービス向上のため、マイナンバーカードの普及等、自治体DXの推進や人口減少社会に応じた公共施設の統廃合の取組を行っています。
- 全国的な労働力不足や雇用環境の変化、働き手の価値観の多様化等、行政組織を取り巻く社会情勢が大きく変化しています。将来に渡り持続可能で変化に柔軟に対応できる「組織（職員）」と「経営（財源）」の体制づくりを進めています。
- 館山市・南房総市・鴨川市・安房郡鋸南町の3市1町で様々な分野の社会課題の解決に取り組んでいます。

課題

- 持続可能な行財政運営に向けて、行財政改革の一層の推進と歳出の削減が必要となっています。
- 将来に渡り必要な施策を着実に実行するため、持続可能な「組織づくり」と「行財政改革の一層の推進」が求められています。
- 令和4年9月策定の「館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン」等を踏まえ、広域の共通課題に対する一層の連携が求められています。



第1節 市民協働と シティプロモーションの推進

5年後の姿

市民の地域活動に関わる意欲、まちに愛着を感じる割合が高まっています。
まちに関心や愛着を持つ人を広げる取組が展開されています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

5.1.1 持続可能な地域づくりの推進

地域づくり課、企画課

- 地域づくりの基盤となる地域団体が直面する諸課題の解決と地域活動の充実に向けて市民と一緒に検討します。
- 人口減少等に伴う地域課題への対処・解決に向けて多様な主体（市民、NPO、企業、大学等）の技術・専門的知見を生かす取組を推進します。

5.1.2 男女共同参画と多文化共生による地域づくりの推進

地域づくり課

- 年齢や性別、障害の有無、文化的背景、性的指向・性自認等、多様性を尊重する気運が醸成され、すべての人が自分らしく個性を発揮できる地域づくりに市民とともに取り組みます。

5.1.3 シティプロモーションの推進

- 国内外との民間レベルの交流、郷土の魅力の掘り起こし・再発見を通じて、市民のシビックプライドを醸成します。
- 市民・関係団体と連携してシティプロモーションの方向性・取組を創造し、継続性・統一性のある市民向け・市外向けのプロモーションを展開します。

関連するSDGs



▶ 評価指標

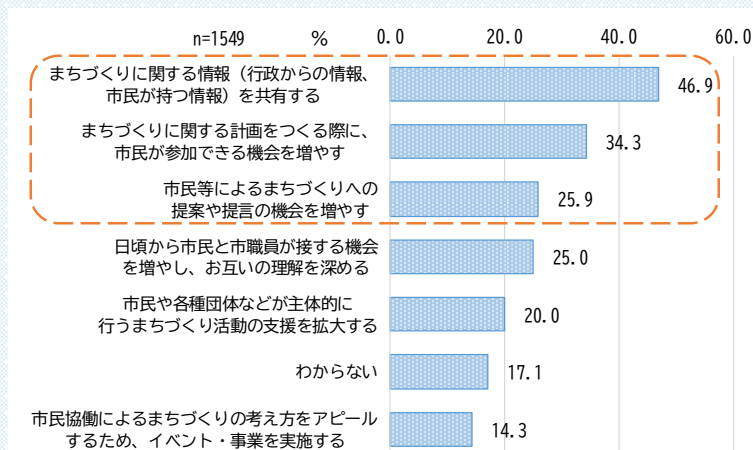
番号	評価指標	基準値	目標値
84	市の審議会等の女性委員割合	28.74%	30%
85	LINE市アカウントフォロワー数	8,472人	14,000人
86	事前プレスリリース数	231件	270件
87	館山市に「自分たちのまち」としての愛着を感じている（「愛着がある」と「どちらかという愛着がある」の合計）と回答した市民の割合	77.6%	88.8%
88	まちづくり活動に「参加していない」と回答した市民の割合（減少）	42.8%	21.0%
89	まちづくり活動に「参加したくない」と回答した高校生（市民）の割合（減少）	16.7%	8.0%
90	「男女共同参画の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	8.1%	23.1%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市男女共同参画推進プラン



市民アンケート▶市民等との協働のまちづくり推進のために重要な施策
(複数回答・上位7項目)



まちづくり情報の発信・共有や市民参画の機会が求められています。
⇒市民のみなさまの声を生かしたまちづくりを進めます。

第 2 節 持続可能な行財政運営

5年後の姿

市民満足度の高い行政サービスが実施され、
安定した組織運営と自治体経営が図られています。

▶ 5年後の姿を達成するための施策

5.2.1 安定的で質の高い行政サービスの実施

- マイナンバーの持つ利便性とデジタル技術を活用しながら、質の高い窓口サービス及び行政サービスを実施します。
- 安定的な行政サービスを継続するための環境を整備します。
- デジタル技術やビッグデータ等の活用、企業や大学等との官民連携を一層進めながら、事業の選択と集中による効果的な投資を計画的に実行する行政運営を行います。

5.2.2 行財政運営の健全化

行革財政課、総務課、
資産経営課、雇用商工課

- 複雑・多様化する行政課題に向き合い、基礎自治体として真に必要な業務を着実に実行できる「コンパクトでしなやかな組織体制」を構築します。
- 経験者や専門職の採用を拡充するとともに、年齢・性別・経歴にとらわれず、職員の能力や特性を生かした人材育成・人員配置を推進します。
- 人口減少社会の中、人口規模に見合った公共施設のあり方や社会情勢の変化に対応した歳出削減、ふるさと納税をはじめ多様な手段による財源確保に取り組みます。

5.2.3 持続可能な地域づくりに向けた広域連携の推進

企画課

- 共通の課題を抱える安房 3 市 1 町と様々な分野の広域連携を一層強化し、持続可能で活力ある南房総地域を目指して効果的・効率的な取組を実施します。

関連する SDGs



▶ 評価指標

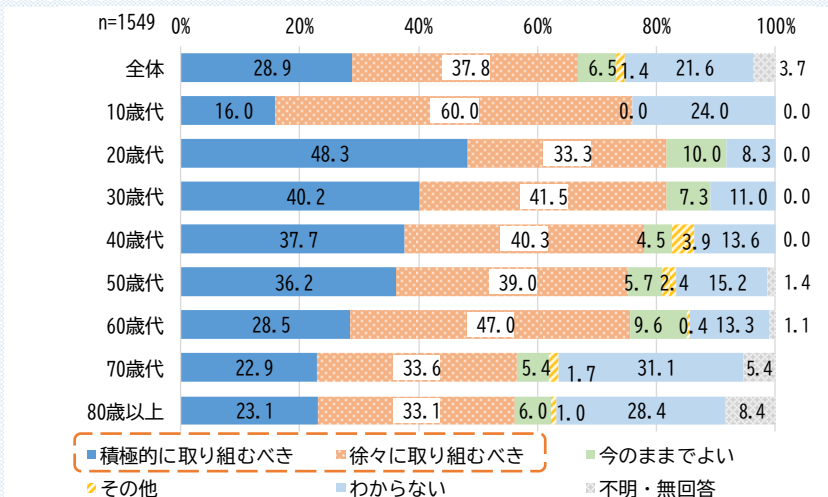
番号	評価指標	基準値	目標値
91	マイナンバーカード保有率	81%	現状維持
92	時間外勤務の年間時間数（職員1人当たり・減少）	103時間	80時間
93	ふるさと納税額	6.3億円	9.3億円
94	財政調整基金保有額	17.0億円	20.0億円
95	「戦略的な行財政運営」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	6.4%	26.4%
96	「広域行政の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	8.1%	28.1%

▶ 主な個別計画・方針等

- 館山市行財政改革方針
- 館山市公共施設等総合管理計画
- 館山市定員適正化計画
- 館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン
- 館山市職員人材育成基本方針



市民アンケート▶ 行政サービスのデジタル化推進に対する考え



20～40歳代を中心に、すべての世代で「積極的に取り組むべき」「徐々に取り組むべき」が多くなっています。
 ⇒幅広い世代の声に
 え、まちの未来へつな
 げていきます。



第4章 計画とSDGsとの連動

SDGs（Sustainable Development Goals）は平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際社会共通の目標であり、国連加盟国で平成27（2015）年に採択されました。SDGsは「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指し、国際社会全体で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものであり、我が国も官民一体となってSDGsの実現を目指しています。

本市も国際社会の一員としての役割を担い、まちづくり施策とSDGsの目指す17の目標（ゴール）を関連付けることにより、計画推進をSDGsの目標達成につなげます。



▶国際社会全体で目指す持続可能な開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- 1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 2 飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 4 すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
- 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化（エンパワメント）を行う
- 6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- 9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 10 各国内及び各国間の不平等を是正する
- 11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 12 持続可能な生産消費形態を確保する
- 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 15 陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

▶目標別施策とSDGsの目標（ゴール）との関係

							
SDGsの17のゴール		1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
目標別施策							
基本目標1 産業・経済	第1節 観光の振興						
	第2節 農水産業の振興		●				
	第3節 商工業の振興						
	第4節 新たな雇用の創出と就業支援の強化	●			●	●	
	第5節 移住・定住の促進	●			●		
基本目標2 福祉・子育て・健康・予防・医療	第1節 地域福祉の推進	●	●	●	●		
	第2節 子育て環境の充実	●	●	●	●	●	
	第3節 高齢者福祉の充実	●	●	●		●	
	第4節 障害者福祉の充実	●	●	●	●		
	第5節 健康づくり・医療体制の充実	●		●	●		
基本目標3 教育・文化	第1節 学校教育の充実	●	●	●	●	●	
	第2節 青少年の健全育成強化			●	●		
	第3節 生涯学習の推進				●		
	第4節 歴史の継承と文化の振興				●		
	第5節 スポーツの振興			●	●		
基本目標4 都市整備・環境・防災・安全	第1節 都市基盤の推進	●		●			●
	第2節 脱炭素による持続可能な社会の実現	●		●			●
	第3節 資源循環型社会の構築			●	●		●
	第4節 防災・消防・救急体制の強化	●			●	●	●
	第5節 生活安全対策の充実	●		●	●		
基本目標5 市民参画・シティプロモーション・行財政運営	第1節 市民協働とシティプロモーションの推進			●	●	●	
	第2節 持続可能な行財政運営	●	●	●		●	

第5章 地区別ビジョン

◇ 地区別ビジョンの趣旨

本市が持続的なまちづくりを進める上では、市内各地区の個性を生かしながら発展を図ることが重要です。そのため、市内を歴史的な成り立ちや地理的条件等を踏まえて 10 地区に区分し、各地区において「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山」を実現するために、地区別ビジョンを策定します。

地区別ビジョンでは、市民意識調査や地区別懇談会等で上げられた市民の声を参考にして各地区の特色、現状や課題とともに、市民・関係団体・企業等と行政がそれぞれの役割を果たしながら、「魅力の更なる磨き上げ」や「生活環境の向上」の実現に向けて連携・協働するための方向性を示します。

◇ 位置付け

地区別ビジョンは、第5次館山市総合計画、館山市都市計画マスタープラン・館山市立地適正化計画、その他の個別計画との整合を図ります。

◇ 更新時期

地区別ビジョンは、第5次館山市総合計画との整合を図るため、「後期基本計画」の策定に合わせて、市民の意見を踏まえて更新します。

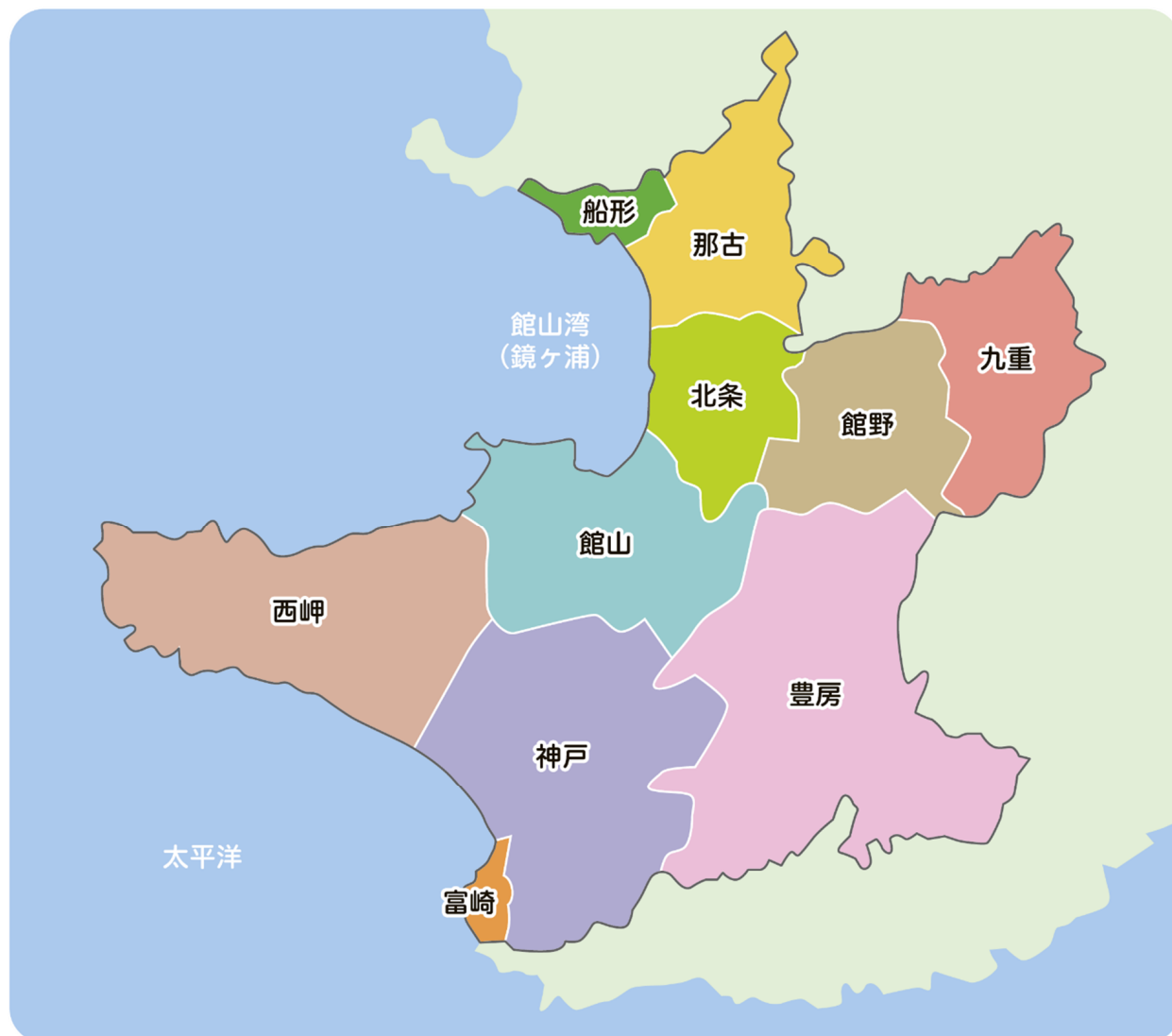
◇ 各地区が直面する共通課題

本市におけるまちづくりには、地区を超えた共通の課題が存在しています。

- 人口減少や少子高齢化の進行
- 地域コミュニティの希薄化
- 産業や地域活動の担い手の確保
- インフラの整備や老朽化対策
- 災害による被害の防止や避難所の確保
- 空き地・空き家・耕作放棄地の増加
- 地域内・地域間の移動手段の脆弱性
- 公共施設の再編に伴う跡地の利活用

こうした共通課題とあわせて、各地区における課題の解決に向けて取り組んでいく必要があります。

◇ 市内10地区



◇ 館山市の成り立ち

年号(西暦)	できごと
明治22(1889)	町村制の施行に伴い、北条町・館山町・豊津村・尻原村・船形村・西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村が成立する
明治26(1893)	尻原村が町制を施行して「那古町」となる
明治30(1897)	船形村が町制を施行して「船形町」となる
大正3(1914)	館山町と豊津村が合併して「館山町」となる
昭和8(1933)	館山町と北条町が合併して「館山北条町」が誕生する
昭和14(1939)	館山北条町・那古町・船形町が合併して「館山市」が誕生する
昭和29(1954)	館山市・西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村が合併し、現在の「館山市」となる

館山

〈 特色 〉

- 本地区は、本市の中央部に位置しています。「館山」という地名は、現在の城山に古来領主の館が建っていたことに由来しています。
- 沼地域では、今から約6,000年前のサンゴの化石を含む地層が見られ、「沼サンゴ層」として千葉県天然記念物の指定を受けています。
- 戦国時代に里見氏が築いた館山城の城下町として、また港町として栄えました。近世以降は安房地域の中心地として発展し、館山藩の陣屋が置かれました。
- 昭和初期に海軍航空隊が設置されるなど、軍事と深い関わりを持ち、赤山地下壕跡をはじめとした戦争遺跡が各所に残っています。
- 市民の憩いの場である城山公園には館山城（八犬伝博物館）や市立博物館本館があり、「文化を育む城のまち」として賑わっています。
- 海水浴や散策等を目的とする多くの観光客が訪れる沖ノ島や、みなとオアシス“渚の駅” たてやま、館山夕日栈橋等が立地するなど、「海辺のまちづくり」の中心となっています。

〈 現状や課題 〉

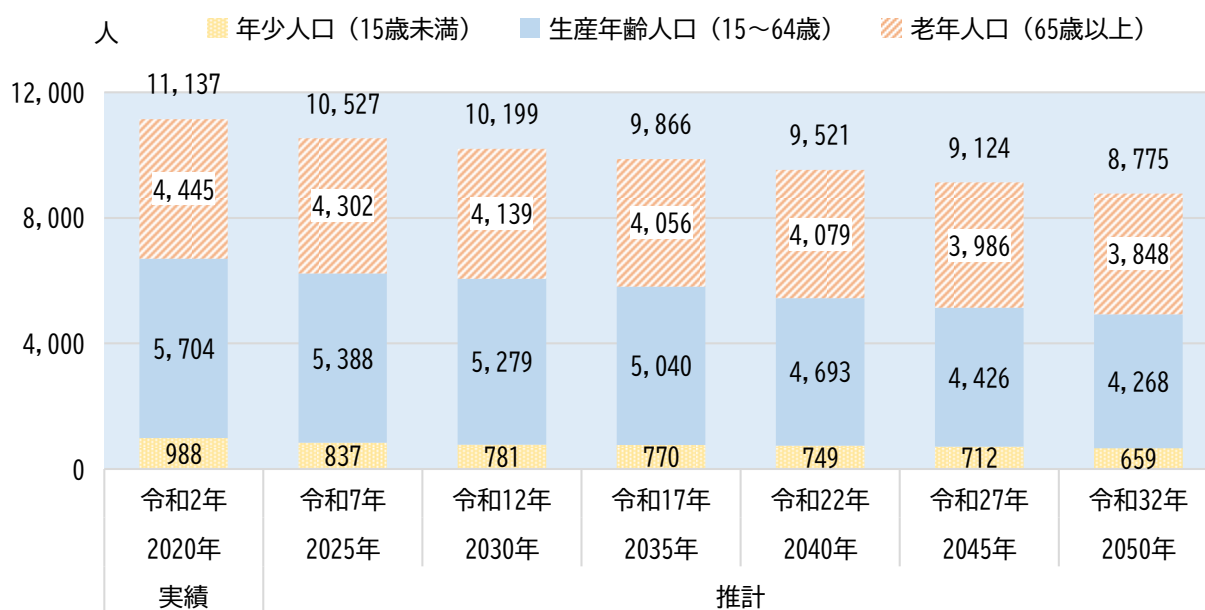
- 地域コミュニティの中心となる場所や、子育て世代を中心とした市民が楽しめる憩いの空間や環境づくりを求める声が上がっています。
- 貴重な地域資源である沖ノ島等の自然環境の保全を行うとともに、観光地として、また、地域住民の憩いの場として利活用を図っていく必要があります。
- 観光シーズンには多くの観光客が訪れていますが、駐車場の不足や周辺の交通渋滞、水上オートバイ等の危険航行等の迷惑行為が問題になっています。



住んで楽しい 来て楽しい 館山地区に向けて

- 城山公園内の施設を含め、子育て世代を中心とした市民が集い、安心して楽しむことができるレクリエーションの場の充実を図ります。
- 豊かな自然環境の保全を推進しながら、魅力の向上を図ります。
- みなとオアシス“渚の駅” たてやまを中心としたエリア一帯で、賑わいや交流を創出する「海辺のまちづくり」をより一層推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



北 条

〈 特色 〉

- 本地区は平久里川と汐入川にはさまれた館山湾（鏡ヶ浦）に沿った平野部に位置する本市の中心地です。「北条」という地名は、古代から中世にかけて行われた条里制（水田の管理制度）の名残であるとも言われています。
- 江戸時代には北条藩の陣屋が置かれ、その後、明治時代には安房郡役所、北条町役場等が建てられました。
- 明治時代以降は安房地域の政治経済の中心地であり、特に、大正8（1919）年の国鉄安房北条駅（現JR館山駅）の開業により、地域一帯は大きく発展を遂げました。
- 現在はJR館山駅やバイパス沿いを中心に、商業地や住宅地が広がっています。また、様々な行政・司法・金融機関が本地区に多く立地しています。

〈 現状や課題 〉

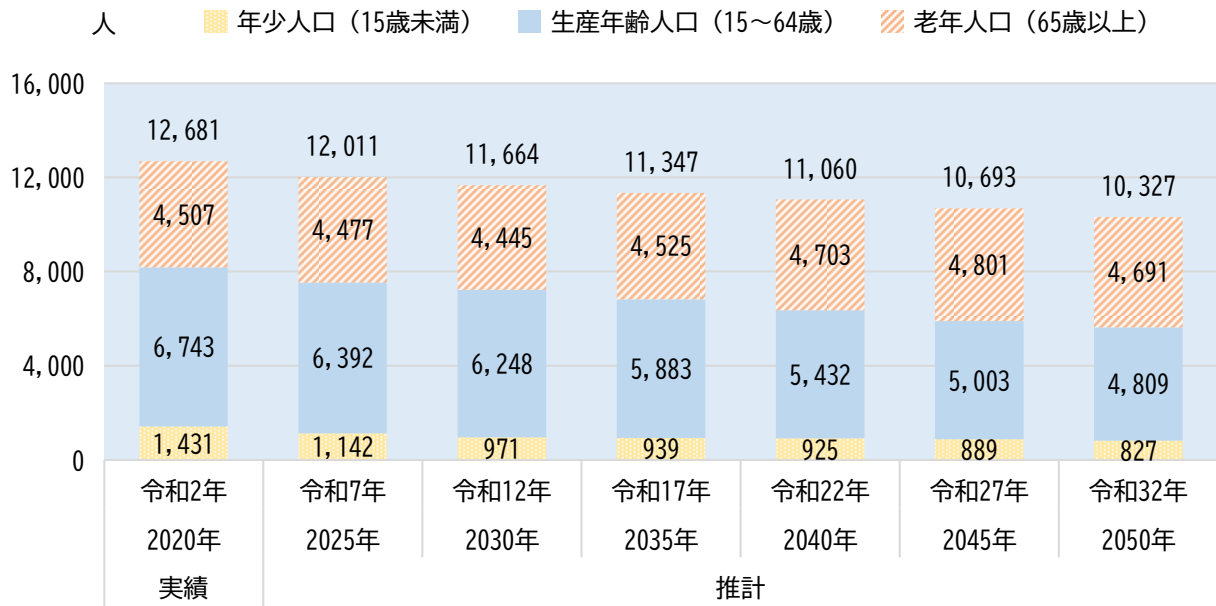
- 子どもたちが遊べる場所の充実が求められています。
- 交通結節点であるJR館山駅においては、鉄道や路線バスの公共交通機関の接続性を高めるなど、更なる利便性の向上が必要です。
- 海岸利用者のマナーが問題になっています。



住んで楽しい 来て楽しい 北条地区に向けて

- 地域の活性化や世代間交流につながるイベントや行事の実施を促進し、子ども達が楽しく遊べる場所の充実を図ります。
- JR館山駅周辺エリアの活性化を推進します。また、鉄道や路線バス、タクシー、公共ライドシェア等が効率的に接続する公共交通網を構築するほか、案内標示等の乗り継ぎしやすい環境の整備を行い、交通結節点としての利便性向上を図ります。
- 館山湾（鏡ヶ浦）を中心とした魅力の向上につながる取組を進め、市民・来訪者ともに楽しむことができるまちを目指して、「海辺のまちづくり」をより一層推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



那古

〈 特色 〉

- 本地区は平久里川の北に位置し、西側は館山湾（鏡ヶ浦）に面しています。「那古」という地名の由来ははっきりとはわかっていませんが、全国的には海辺の集落に「なご」という読みをする地名があるとされています。
- 縄文時代早期の遺跡である稲原貝塚からはイルカの骨や黒曜石が出土しています。当時の人々が黒曜石の産出地である伊豆半島等と交易をしていたことなどがわかっています。
- 奈良時代に開かれたと伝わる那古寺があり、古くから那古寺の門前町として栄えていました。那古寺の裏山（那古山）の林は、「那古山自然林」として市の天然記念物の指定を受けています。
- 明治時代に東京との交通に汽船が使われるようになると、那古の海岸に栈橋が造られ、人や荷物の発着で賑わい、町並みが海岸方面にも広がっていきました。
- 本地区の北側は山地、南側は平地で、稲作を中心に野菜や酪農、果樹栽培が行われています。

〈 現状や課題 〉

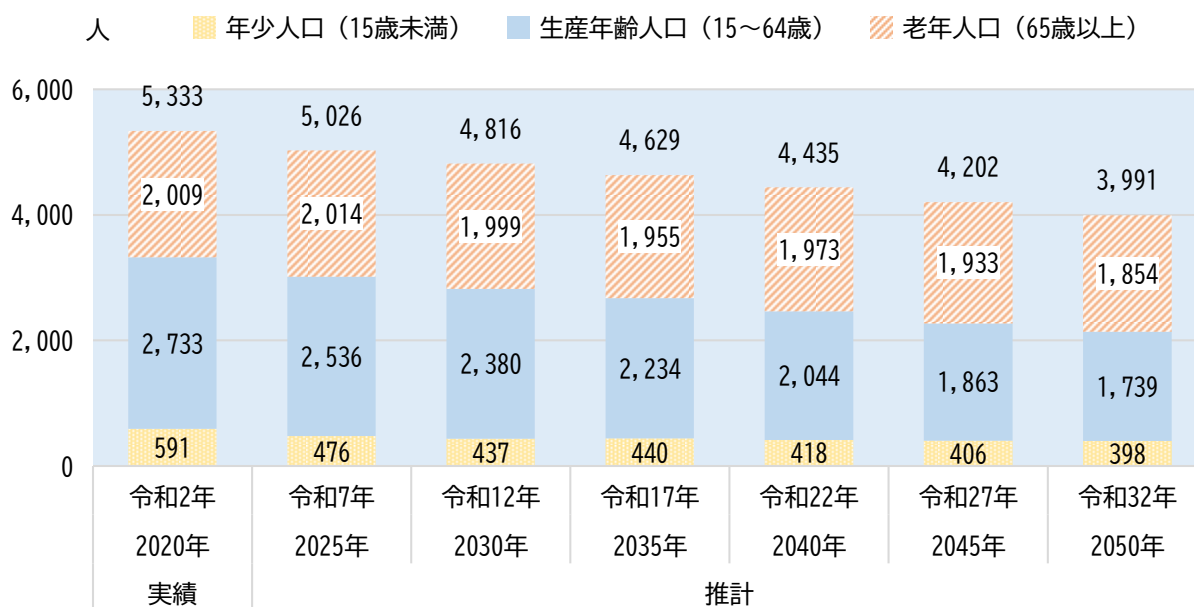
- 近年、台風等の大雨により排水路が溢れ、浸水被害が発生する箇所があります。
- 海岸では水上オートバイ等の危険航行等の迷惑行為が問題になっています。



住んで楽しい 来て楽しい 那古地区に向けて

- 那古下水路を改修するなど、排水対策を推進し、居住環境の向上を図ります。
- 市民・来訪者ともに楽しむことができるまちを目指して、「海辺のまちづくり」を推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



船形

〈 特色 〉

- 本地区は本市の北部に位置しています。「船形」という地名は、背後の堂山が船を伏せた形に似ていることに由来するとされています。
- 古くから漁業が盛んで、平安時代に造られた崖観音（大福寺）は漁民の信仰を集めてきました。
- 江戸時代には干鰯や薪等を江戸に送る廻船業で栄え、現在も館山有数の漁業基地である船形漁港があります。
- J R 那古船形駅は大正 7（1918）年に開業しました。本市に唯一残っている木造の駅舎です。
- 平成 15（2003）年に経済産業省の伝統的工芸品の指定を受けた房州うちわの生産地として知られています。

〈 現状や課題 〉

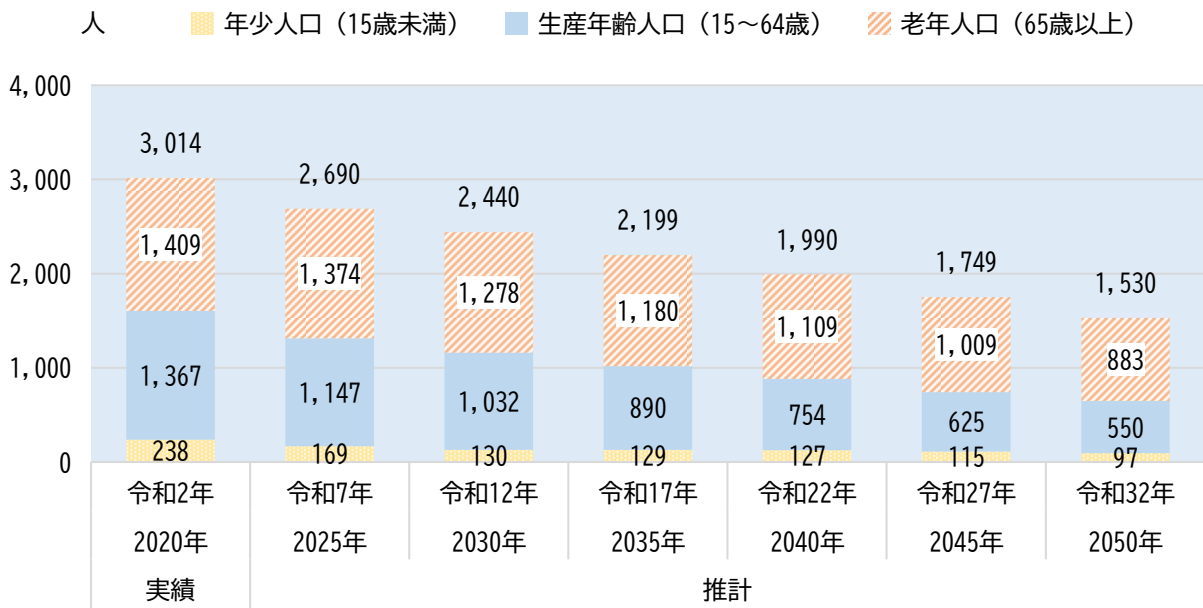
- 災害時の避難経路として、また、観光客の海浜部への誘導並びに船形漁港の拠点機能の充実等による地域の活性化や船形漁港から沖ノ島までを結ぶ「海辺のまちづくり」の一体的な推進のために、船形バイパスの早期竣工が必要です。
- J R 那古船形駅の利用者が減少していることに加え、駅舎の老朽化が進んでいます。
- 漁業就業者の高年齢化や後継者の不足により、漁業就業者が減少しています。



住んで楽しい 来て楽しい 船形地区に向けて

- 船形バイパスを整備することにより、災害時における安全確保と、観光客の海浜部への誘導等により、地域の活性化を図ります。
- J R 那古船形駅を地域の拠点や交通結節点として機能させるべく、鉄道事業者等と連携し、利活用の方策を検討します。
- 館山市船形海業推進事業基本計画による取組を促進し、地域の活性化を図ります。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



西 岬

〈 特色 〉

- 本地区は本市の西側に大きく突き出した位置にあり、三方を海に囲まれています。
「西岬」という地名は、東京湾に岬のように突き出していることに由来して、明治時代に名づけられました。
- 東京湾の入り口にある洲崎には、大正8（1919）年に洲崎灯台が建てられています。
- 千葉県指定史跡である鉈切洞穴は縄文時代後期の土器とともに鮪等の魚の骨が出土しており、当時の人々がかなり遠方まで漁をしに行ったことがわかっています。
- 洲崎神社・洲宮神社（神戸地区）で祀られている天比理乃咩命（あめのひりのめのみこと）は、安房神社（神戸地区）の祭神である天太玉命（あめのふとだまのみこと）の後神（きさきがみ）です。
- 古くから農業・漁業が盛んで、神社仏閣で豊漁・豊作を祈願する行事が行われています。
- 本地区の南側では、温暖な気候を生かした花きの栽培が盛んです。

〈 現状や課題 〉

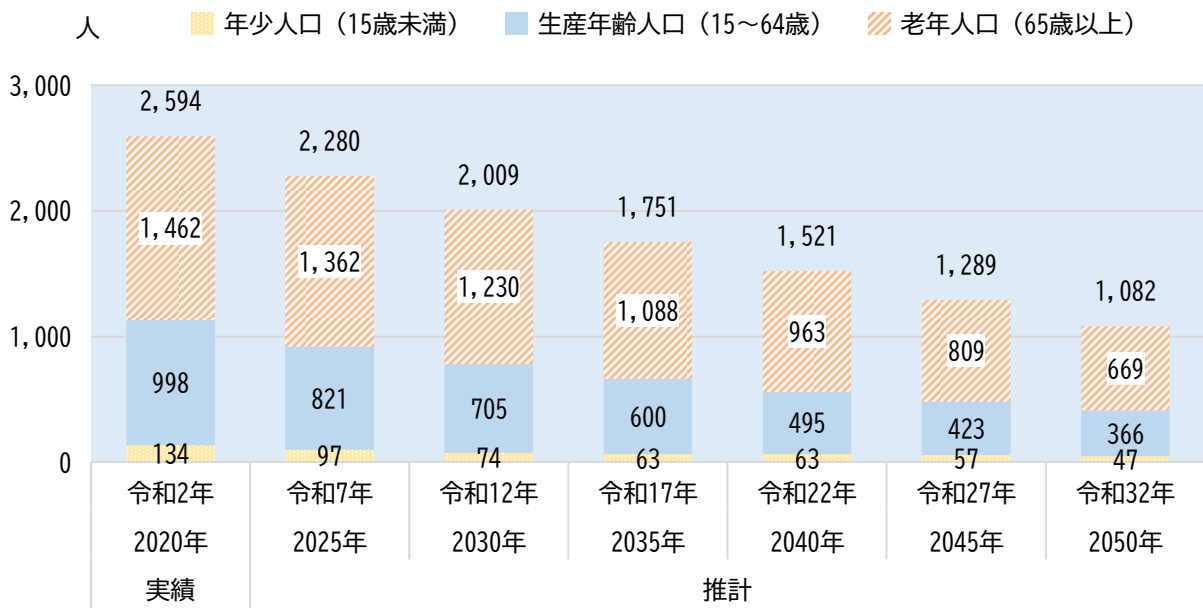
- 海岸付近の道路では飛砂が問題になっています。
- 地区内に大型の商業施設がなく、自家用車を利用できない方の買い物等のための移動手段を確保する必要があります。
- 三方を海に囲まれた立地を生かした観光分野の取組が求められています。



住んで楽しい 来て楽しい 西岬地区に向けて

- 道路の適切な維持・管理を行い、居住環境の向上を図ります。
- 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。
- 洲崎灯台や、地区の歴史・文化を今に伝える神社仏閣、良好な自然景観を生かしたまちづくりを推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



神戸

〈 特色 〉

- 本地区は本市の南側に位置しています。
- 古代、阿波の忌部（いんべ）氏が上陸し、先祖の天太玉命（あめのふとだまのみこと）を祀ったのが、安房国一宮である安房神社です。「神戸」という地名は、安房神社を支える人たちの家があったことに由来しています。
- 砂防林によって守られてきた農地では野菜や花きの栽培が盛んに行われています。
- 本地区ではレタス栽培が戦後からはじめられ、館山ブランド認定品である「かんベレタス」の特産地として知られています。本市は国から冬レタスの「野菜指定産地」の指定を受けています。

〈 現状や課題 〉

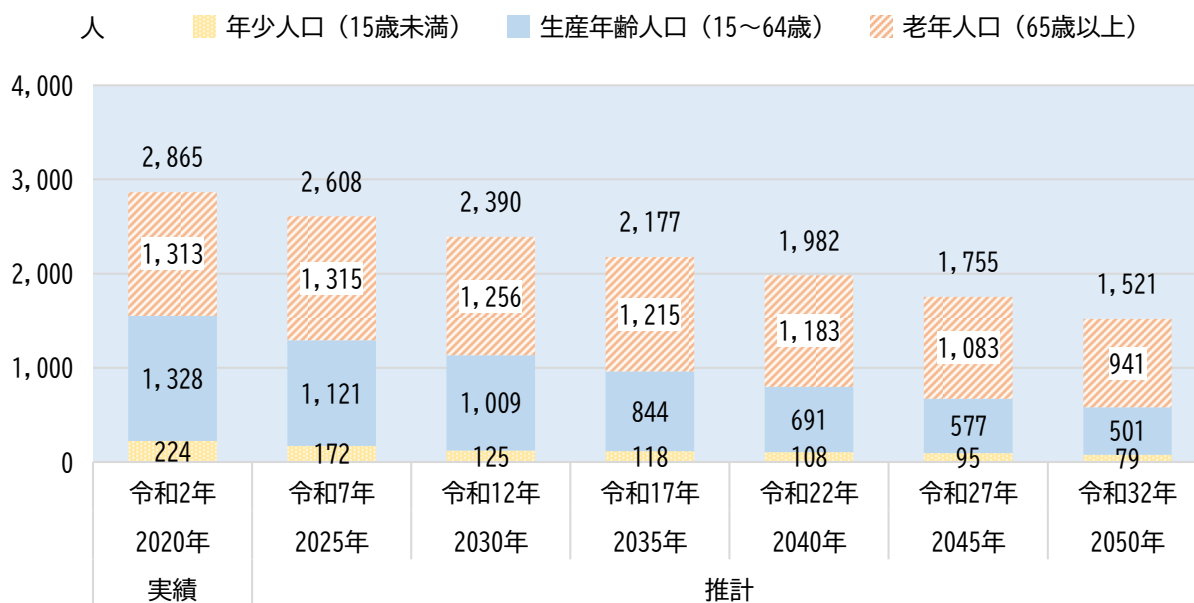
- 他の地区につながる道路には狭隘な箇所があります。
- 地区内に医療機関がなく、自家用車を利用できない方の通院等のための移動手段を確保する必要があります。
- 営農者の高齢化に伴い、認定農業者が減っています。
- 千葉県立館山運動公園周辺の旧ウエルネスリゾートパーク計画事業用地の利活用が求められています。



住んで楽しい 来て楽しい 神戸地区に向けて

- 緊急車両も通行しやすい道路を整備することにより、居住環境の向上を図ります。
- 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。
- 館山ブランド認定品である「かんベレタス」の生産体制の維持・強化を図り、他の特産品のブランド化を目指すとともに、担い手の確保に努めます。
- 地域住民の意向を踏まえながら、地域の活性化につながるよう、旧ウエルネスリゾートパーク計画事業用地の活用を図ります。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



富 崎

〈 特色 〉

- 本地区は本市の南端に位置しています。「富崎」という地名は、布良崎神社に祀られている安房開拓の祖と伝えられている天富命（あめのとみのみこと）が上陸した岬という神話に基づいて、明治時代に名づけられました。
- 江戸時代中期に鮪の延縄漁が始まり、今も漁業が盛んな地区です。
- 明治時代を代表する洋画家 青木繁(1882年～1911年)が、布良にある小谷家住宅(市指定有形文化財)に滞在して「海の幸」(国指定重要文化財)を描いたことでも知られています。
- 人口減少により隣接する地区の小学校と統合された小学校施設は民間事業者による活用が進められ、雇用の創出や農福連携の推進、地域の活性化に寄与しています。

〈 現状や課題 〉

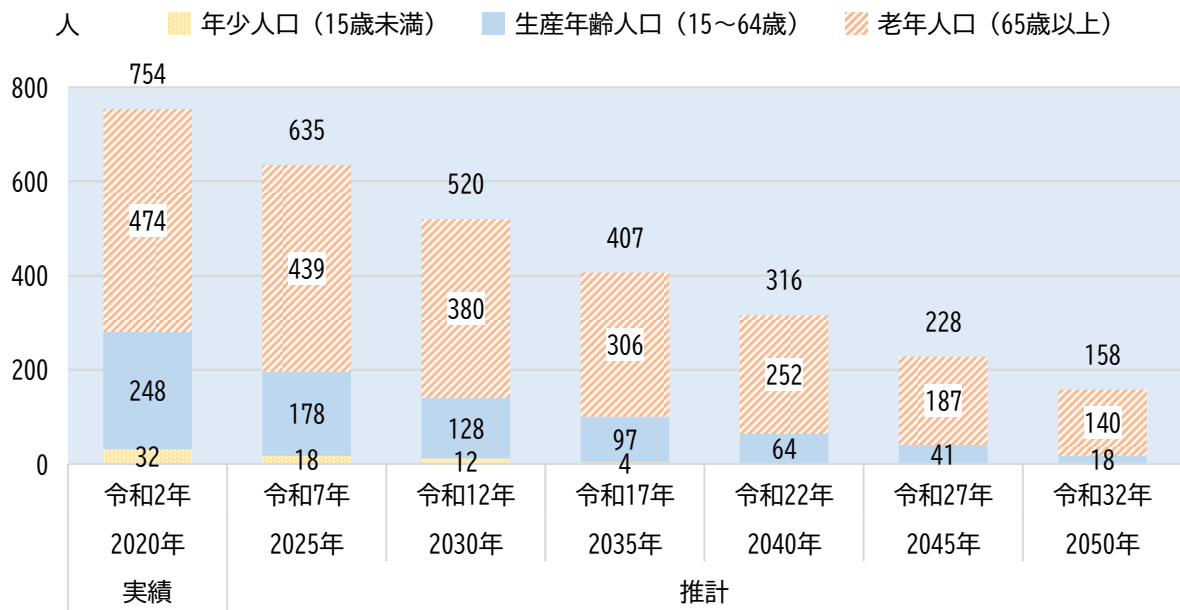
- 市内で最も高齢化が進行しており、人口減少が顕著となっているため、地域コミュニティの維持に努める必要があります。
- 地区内に医療機関や商業施設がないため、自家用車を利用できない方の通院や買い物のための移動手段の確保が必要です。
- 地域特有の文化・歴史を伝える建造物等の適切な維持管理が求められています。



住んで楽しい 来て楽しい 富崎地区に向けて

- 地域の課題や困りごとを住民同士の助け合いによって解決するための仕組みづくりを支援します。
- 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。
- 小谷家住宅をはじめとする地域資源の保全・活用に努めます。

〈 地域の人口推移と予測 〉



(※令和 22 (2040) 年以降の年少人口は 0 人と推計しています。)

〈 地域資源と交通 〉



豊 房

〈 特色 〉

- 本地区は本市の南東部にある山あい位置しています。「豊房」という地名は、安房で最もたくさんの作物が実る豊かな土地となることを願って明治時代に付けられました。
- 安房神社に仕える神戸の人々が増えたために、新しく開拓した場所が神余であると言われています。
- 古墳時代の横穴墓や祭祀遺跡、中世の城跡等が点在しています。鎌倉にある寺社が治めていた土地もあり、鎌倉と深いつながりを持っていたことがわかっています。
- 土地が豊かであることから、昔から稲作を中心に農業が行われてきました。畑地区は有数の千両の産地として知られています。
- 地区内の小学校が近隣住民のコミュニティの中心となっています。

〈 現状や課題 〉

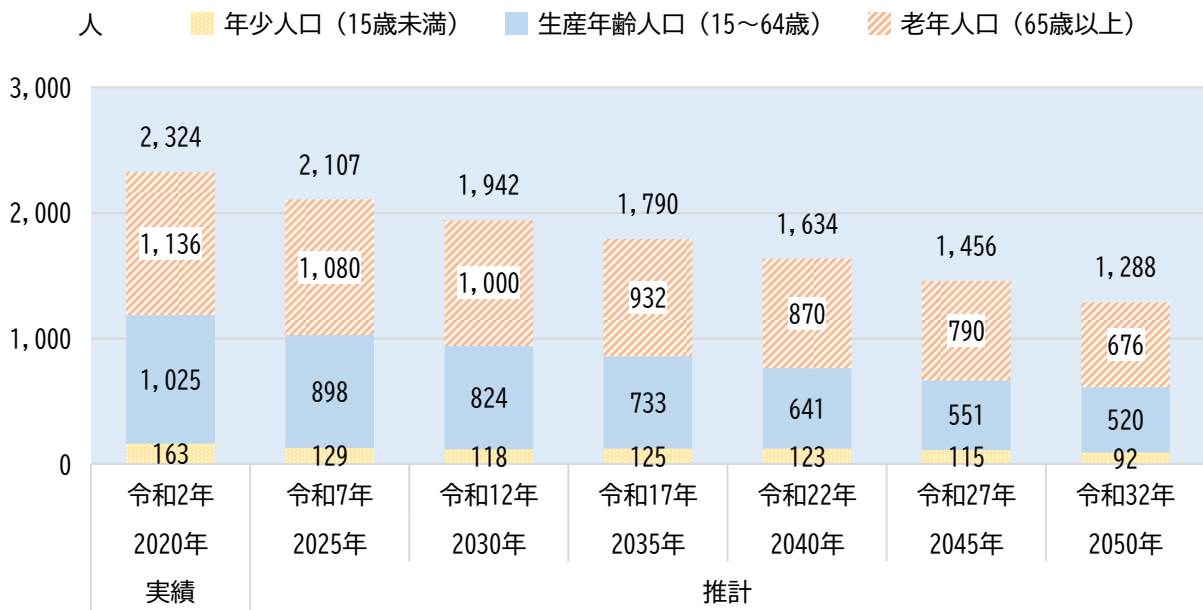
- 本地区内を路線バスが運行していますが、集落とバス停が離れているところがあります。
- 高齢化の進行により、祭礼等の地域の文化を次世代に受け継ぐことが困難になっています。



住んで楽しい 来て楽しい 豊房地区に向けて

- 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。
- 地域の活性化につながる取組を行う地域住民を支援します。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



館野

〈 特色 〉

- 本地区は本市東部の平地に広がっています。「館野」という地名は、平安時代に朝廷から孝心を賞された伴直家主（とものあたいやかぬし）の居館があったといわれる地が、館野原と称されたことに因んで明治時代に命名されました。
- 奈良時代には国分寺が置かれ、古代安房の中心として発展しました。
- 16世紀前半に里見氏が居城とした稲村城跡（国指定史跡）や、正徳元（1711）年に万石騒動と呼ばれる農民一揆により処刑された「三義民」に関する三義民刑場跡及び墓（市指定史跡）等の史跡があります。
- 農業が盛んで、昭和20年代後半に本格的なイチゴの栽培が始まりました。毎年1月から5月頃にかけて、イチゴ狩りに多くの観光客が訪れます。
- 令和6（2024）年に、「食のまちづくり」を進める拠点施設として「道の駅グリーンファーム館山」が開業しました。

〈 現状や課題 〉

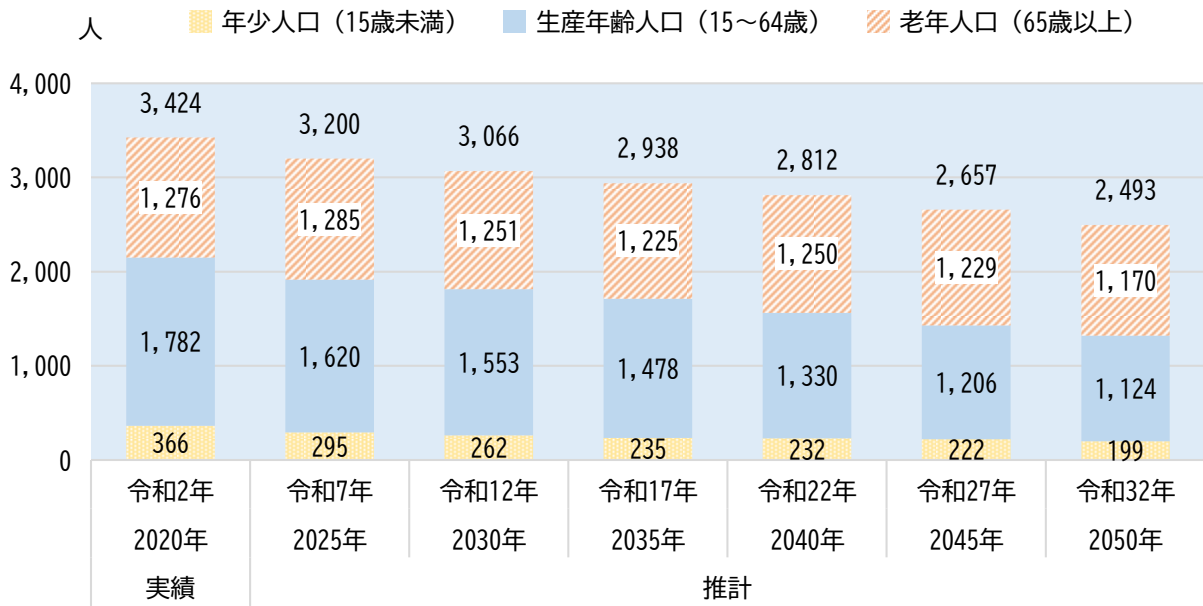
- 「里見氏城跡 稲村城跡」の環境を整備する必要があります。
- 農業をはじめとした地域産業の振興や地域の活性化のため、「道の駅グリーンファーム館山」の更なる活用が必要です。



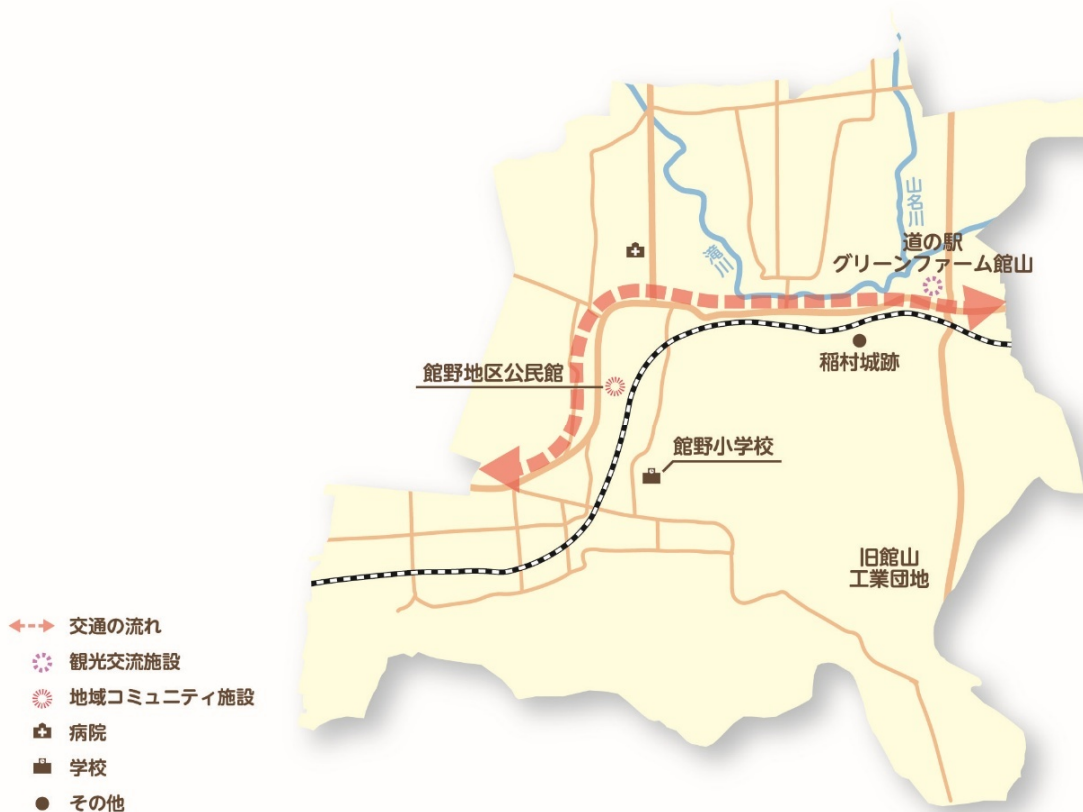
住んで楽しい 来て楽しい 館野地区に向けて

- 稲村城跡について、各種団体との連携を図り適切な保存管理体制を構築した上で、整備活用の方向性について検討します。
- 「道の駅グリーンファーム館山」の機能を強化・拡充し、6次産業化や地産地消、地域内流通の更なる推進を図るとともに、消費者が農作業や新鮮な農産物を通じて食の魅力が感じられる「食と体験のテーマパーク」を目指します。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉



九重

〈 特色 〉

- 本地区は本市の一番東側に位置しています。「九重」という地名は、明治 22（1889）年に当時の 9 か村が合併して九重村ができたことに由来しています。
- 平城京跡（奈良県）から出土した木簡（荷札）に地名が確認できることから、奈良時代に平城京へ大井・片岡地区から税を納めていたことが推測されています。
- 奈良時代から土地開発が進んだ地域です。水岡やぐら群（市指定史跡）をはじめとするやぐらや仏像等からは鎌倉文化の影響を受けていたことや、中世には豪族たちが活発に活動していたことがわかっています。
- J R九重駅は大正 10（1921）年に開業しました。
- 丘陵に囲まれた平野部では稲作を中心に、レンコンやナシ等の野菜・果樹、酪農等の多様な農業が行われています。

〈 現状や課題 〉

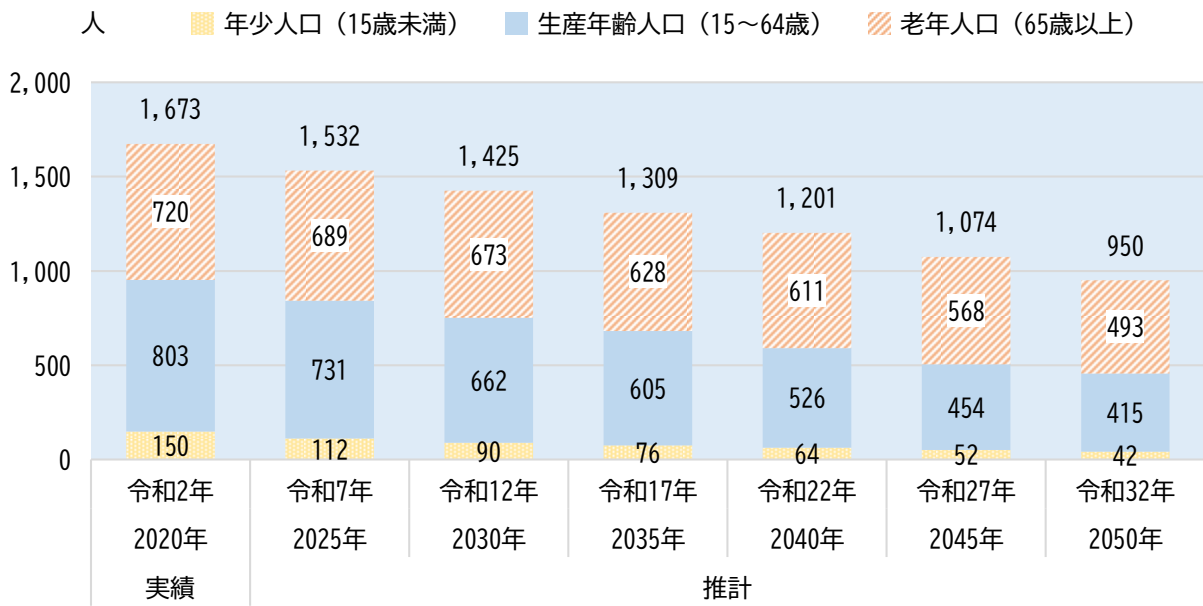
- J R九重駅の利用者が減少していることから、利便性の向上を図るとともに交通拠点としての機能の強化が必要です。
- 稲（館野地区）・寶貝にまたがる旧館山工業団地用地の利活用が求められています。



住んで楽しい 来て楽しい 九重地区に向けて

- J R九重駅周辺エリアの活性化を推進するとともに、地域の拠点や交通結節点として機能させるべく、鉄道事業者等と連携し、利活用の方策を検討します。
- 里山の豊かな自然を保全しながら、地域の活性化につながるよう、旧館山工業団地用地の活用を図ります。

〈 地域の人口推移と予測 〉



〈 地域資源と交通 〉





資料編

◇第5次館山市総合計画策定方針

(1) 策定の趣旨

本市では、平成28(2016)年度から令和7(2025)年度までの10年間を計画期間とする「第4次館山市総合計画」に基づき、将来都市像に掲げた『笑顔あふれる 自然豊かな「あったか ふるさと」館山』の実現を目指して、まちづくりを進めています。

人口減少や少子高齢化が急速に進む中で、地域の特徴を生かした持続可能な社会づくりを目指す地方創生の進展や、暮らしやすい地域社会を実現するために市民協働が推進されてきました。一方で、令和元(2019)年9月には、令和元年房総半島台風の襲来によって、沿岸部をはじめとする市内各地に甚大な被害がもたらされ、また、令和2(2020)年以降は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行により、市民を取り巻く社会経済環境は大きく変わりました。

このような状況の中、令和7(2025)年には、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者になるなど、社会保障関連経費のさらなる増加が見込まれるほか、これまでに整備した公共施設等の老朽化に伴う対応が必要となるなど、新たに生じる様々な課題に対応し、本市が今後も存在し続けるためには、長期的な視点を持ち、これまで以上に効率的で身の丈に合った行財政運営が求められます。

そのため、令和7(2025)年度をもって計画期間が終了する「第4次館山市総合計画」に代わり、館山市を取り巻く様々な状況の変化に対応する新たな「第5次館山市総合計画」を策定します。

(2) 策定の視点

第5次館山市総合計画は、次の基本的な視点に基づき策定します。

①社会経済情勢に即した計画づくり

人口減少や少子高齢化のさらなる進行など、本市を取り巻く環境の分析を通じて課題を正しく認識し、時代の潮流を考慮した計画を策定します。

②多様な市民の意見や考えを反映した計画づくり

様々な方法を用い、多様な市民の声を把握した上で計画を策定します。特に、次代を担う若者の意見や考えへの傾聴に努めます。

③市長が公約に掲げた施策の取り込み

基本構想の実現に繋がる、市長が公約に掲げた施策の推進を図ります。

新たに施策を追加する際は、厳しい財政状況を踏まえ、その実現性を最大限考慮して行うこととします。

④総合戦略との関係

地方版総合戦略は、第5次館山市総合計画と関連性が高く、一体的に推進する必要があることから、第5次館山市総合計画に包含します。

⑤現実を見据え、実効性のある計画づくり

厳しい財政状況を踏まえ、限られた資源の有効活用に留意し、選択と集中による事業の優先順位の明確化を図ります。また、各項目に掲げる目標の達成に向けた成果指標を設定し、個別事業の実施・評価を行いやすい計画を策定します。

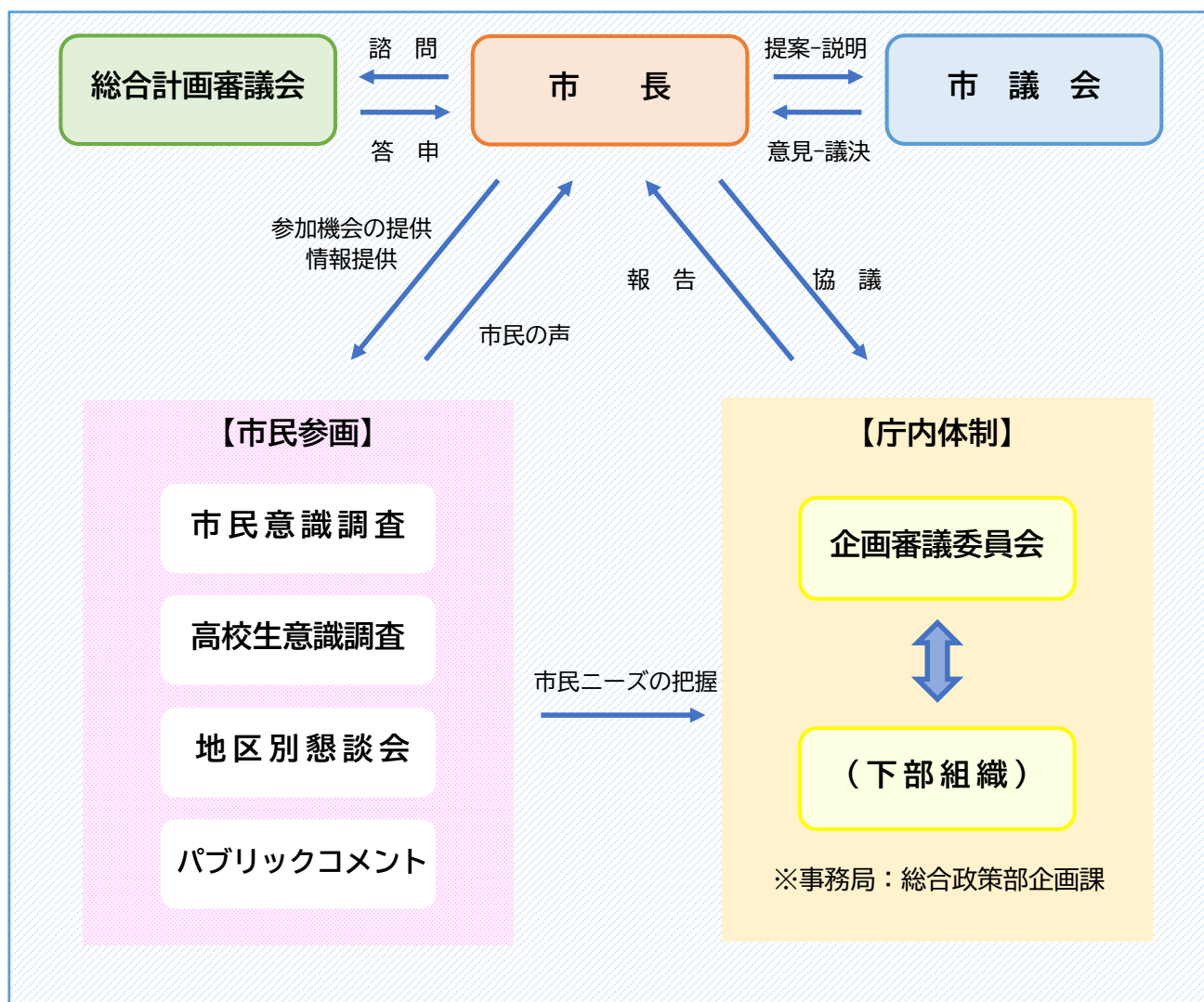
⑥市民協働によるまちづくりを推進する計画づくり

市民、事業者、各種団体、行政などがまちづくりの基本理念を共有し、市民協働の観点から役割を分担し、それぞれが責務を全うすることで、持続可能なまちの実現に繋がる計画づくりに取り組みます。

⑦市民にもわかりやすい計画づくり

計画の構成や施策の体系、成果指標の設定、表現方法については、市民の目線に立ち、わかりやすい計画づくりに努めます。

▶第5次館山市総合計画策定体制イメージ



◇館山市附属機関設置条例（抜粋）

（目的）

第1条 この条例は、法令に特別の定めあるものを除き、市長の権限に属する事務を処理するための組織について必要な事項を定めることを目的とする。

（附属機関の定義）

第2条 附属機関とは地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第138条の4第3項の規定により設置され市長の諮問に応じて審査又は調査をするための機関をいう。

（設置）

第3条 本市に別表に掲げる附属機関を置き、当該附属機関において担任する事務、組織、委員の構成、定数及び任期は、同表右欄に掲げるとおりとする。

（会長及び副会長）

第4条 会長又は委員長（以下「会長」という。）及び副会長又は副委員長（以下「副会長」という。）は、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、当該附属機関の事務を総理し、当該附属機関を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

4 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故のあるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指定する者が会長の職務を代理する。

（委員の任命等）

第5条 委員は市長が任命又は委嘱する。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第6条 附属機関の会議は、市長の諮問に応じて会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（会議の運営等）

第7条 この条例で定めるもののほか、附属機関の議事及び運営に関し必要な事項は会長が定める。

（特例）

第8条 この条例の規定にかかわらず法第138条の4第3項の規定に基づき設置された館山市特別職報酬等審議会、館山市情報公開・個人情報保護審議会及び館山市情報公開・個人情報保護審査会の設置、組織及び運営については、それぞれ館山市特別職報酬等審議会条例（昭和39年条例第49号）、館山市情報公開条例（平成16年条例第1号）及び館山市情報公開・個人情報保護審査会条例（令和4年条例第16号）に定めるところによる。

（市長への委任）

第9条 この条例に定めるもののほか必要な事項は、市長が定める。

～以下略～

別表（第3条） ～抜粋～

附属機関名	担任する事務	組織	委員の構成	定数	任期
館山市総合計画審議会	館山市総合計画及び館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略を審議し、これらの実施に関し必要な調査を行い、市長に答申し、又は建議すること。	会長 副会長 委員	市議会議員 産業関係者 行政関係者 教育関係者 金融関係者 労働関係者 報道関係者 知識経験者	25 人以内	2 年

◇館山市総合計画審議会委員名簿

【任期】令和6年7月25日～令和8年7月24日

(◎は会長、○は副会長)

※順不同，敬称略

委員構成	氏名	役職	委嘱替え 任期
市議会議員	鈴木 ひとみ	市議会議員	
	東 洋 平	市議会議員	
産業関係者	◎ 安 田 信 之	館山商工会議所 推薦	
	鈴木 久 雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦	
	高 橋 實	安房農業協同組合 推薦	R6. 7. 25～ R7. 3. 21
	谷 貝 孝 雄		R7. 3. 22～
	中 島 桂 子	公益社団法人安房医師会 推薦	
	上 條 長 永	一般社団法人館山市観光協会 推薦	R6. 7. 25～ R7. 5. 20
	酒 井 伸 一		R7. 5. 21～
	田 上 重 光	館山市地域公共交通会議 推薦	
	福 原 巧 太	一般社団法人館山青年会議所 推薦	R6. 7. 25～ R6. 12. 31
三 平 英 司	R7. 1. 1～		
行政関係者	高 嶋 洋 幸	千葉県安房地域振興事務所 推薦	
教育関係者	守 安 委久予	館山市教育委員会 推薦	R6. 7. 25～ R7. 9. 30
	小 谷 恵 子		R7. 10. 1～
金融関係者	○ 小笠原 潤	館山市金融団（二十日会） 推薦	
労働関係者	伊 熊 雅 美	館山公共職業安定所 推薦	
報道関係者	本 間 裕 二	館山記者クラブ 推薦	
知識経験者	秋 山 一 夫	社会福祉法人館山市社会福祉協議会 推薦	R6. 7. 25～ R7. 6. 12
	中 間 正一郎		R7. 6. 13～
	眞 汐 眞 一	館山市町内会連合協議会 推薦	
	石 渡 秀 嗣	館山市子ども・子育て会議 推薦	
	児 玉 秀 一	公募委員	
	加 藤 美 里	公募委員	
高校生	椎 葉 美 咲	千葉県立安房高等学校	R6. 7. 25～ R7. 3. 31
	石 川 暖	千葉県立館山総合高等学校	R6. 7. 25～ R7. 3. 31
	本 吉 優 海	千葉県立館山総合高等学校	R7. 5. 27～ R8. 3. 31
	芝 田 千 花	千葉県安房西高等学校	R7. 5. 27～ R8. 3. 31

◇第5次館山市総合計画の策定について（諮問）

館企第18号
令和6年7月25日

館山市総合計画審議会
会長 安田 信之 様

館山市長 森 正一

「第5次館山市総合計画」の策定について（諮問）

「第5次館山市総合計画」を策定するに当たり、貴審議会のご意見をいただきたく、諮問いたします。

【諮問理由】

本市では、平成28（2016）年度から令和7（2025）年度までを計画期間とする「第4次館山市総合計画」に基づき、将来都市像に掲げた『笑顔あふれる 自然豊かな「あったか ふるさと」館山』の実現を目指して、まちづくりを進めています。

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の特徴を生かした持続可能な社会づくりを目指す地方創生の進展や、暮らしやすい地域社会を実現するための市民協働が推進されてきました。その一方で、令和元年房総半島台風の襲来や新型コロナウイルス感染症のまん延により、市民を取り巻く社会経済環境は大きく変化しました。

このような状況の中、令和7（2025）年には、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者になるなど、社会保障関連経費のさらなる増加が見込まれるほか、これまでに整備した公共施設等の老朽化に伴う対応が必要となるなど、新たに生じる様々な課題に対応し、本市が今後も存在し続けるためには、長期的な視点を持ち、これまで以上に効率的で身の丈に合った行財政運営が求められます。

そのため、令和7（2025）年度をもって計画期間が終了する現総合計画に代わり、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間を計画期間とする「第5次館山市総合計画」を策定するため、貴審議会委員の皆様から多角的かつ専門的なご意見をいただきたく、諮問いたします。

◇第5次館山市総合計画について（答申）

令和7年11月18日

館山市長 森 正一 様

館山市総合計画審議会
会 長 安田 信之

「第5次館山市総合計画」について（答申）

令和6年7月25日付け館企第18号をもって諮問のあった「第5次館山市総合計画」の策定について、次のとおり答申します。

答 申

当審議会では、市民意識調査や高校生意識調査、地区別懇談会、パブリックコメントなどを通じ、広く市民の意見を取り入れながら、総合計画に係る審議を慎重に重ね、令和8年度から令和17年度までを計画期間とする総合計画案を取りまとめました。

まちの将来像とした「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山」の実現に向け、下記事項に留意しながら、変化し続ける社会情勢にしなやかに対応し、急速な人口減少の抑制や市民の幸福度の向上を目指した施策の展開が図られることを要望します。

記

1. 市民をはじめ、関係団体や企業などの多様な主体と行政とが連携を深め、組織の枠組みにとらわれず、一体となって協働することにより計画を推進されたい。
また、広域的な課題への対応に当たっては、千葉県や関係市町との連携を強化されたい。
2. 地域の特色や資源に磨きをかけ、当市の新たな魅力や価値を創出することで交流人口や関係人口の拡大を図り、地域経済の更なる発展を目指すとともに、当市への愛着を高め、定住の地として選ばれるまちとなるよう効果的な取組を推進されたい。
3. 人口減少や少子高齢化への対応と、激甚化・頻発化する自然災害等による被害を最小限に抑えるために、コンパクトで効率的かつすべての世代の市民が暮らしやすいと感じられるまちづくりを推進されたい。
4. 将来にわたって持続可能なまちになるべく、長期的な視点に立った事業の選択と集中により、人口規模や財政状況に応じた戦略的な行財政運営に努められたい。
5. 市政の長期ビジョンを示す総合計画に係る審議の過程で顕在化した課題については、市民のより良い生活の実現に資するよう、その解消に最大限努められたい。

以上

◇策定経過概要

▶令和6年度

月 日	会議名等	内容、検討事項等
6月19日	令和6年度第1回企画審議委員会	令和6年度第1回館山市総合計画審議会議事内容の検討
7月25日	令和6年度第1回館山市総合計画審議会	① 会長の選任及び会長の職務代理者の指定について ② 『第4次館山市総合計画』及び『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について ③ 『第4次館山市総合計画「後期基本計画」』について ④ 『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について ⑤ 『デジタル田園都市国家構想交付金』事業について ⑥ 『第3期館山市デジタル田園都市構想総合戦略』を含む『第5次館山市総合計画』策定に係る諮問について ⑦ 『第5次館山市総合計画策定方針（案）』について ⑧ 『第5次館山市総合計画等策定スケジュール』について ⑨ 『館山市 市民意識調査アンケート』について ⑩ 『地区別懇談会（ワークショップ）』について
8月28日～ 9月20日	市民意識調査 （市民まちづくりアンケート）	【対象者】市内在住16歳以上の市民4,000人（無作為抽出） 【有効回収数】1,549人（有効回収率38.7%）
10月9日	令和6年度第2回企画審議委員会	令和6年度第2回館山市総合計画審議会議事内容の検討
10月23日	令和6年度第2回館山市総合計画審議会	① 「館山市市民意識調査」について ② 『第5次館山市総合計画』の構成 について ③ 指標及び評価方法について ④ 市民参画について
10月26日 11月4日	地区別懇談会 （ワークショップ）	全3回開催 ①館山地区、北条地区、那古地区、船形地区（参加9人） ②西岬地区、神戸地区、富崎地区（参加7人） ③豊房地区、館野地区、九重地区（参加8人）
12月2日～ 12月15日	高意思識調査 （市民まちづくりアンケート）	【対象者】市内及び近隣市の高校に通う高校生1,509人 【有効回収数】715人（有効回収率47.4%）
1月21日	令和6年度第3回企画審議委員会	①地区別懇談会について ②高校生アンケートについて ③序論及び基本構想（案）について
1月24日～ 2月6日	第5次館山市総合計画の策定に係る意見照会（書面）	①序論及び基本構想（案） ②第5次館山市総合計画に係る「将来像」について
2月20日	令和6年度第4回企画審議委員会	令和6年度第3回館山市総合計画審議会議事内容の検討
3月12日	令和6年度第3回館山市総合計画審議会	①「市民意識調査」及び「高校生アンケート」の結果報告 ②地区別懇談会（ワークショップ）の結果報告 ③『第5次館山市総合計画「序論・基本構想」』（原案） ④「将来像」の選考 ⑤パブリックコメントの実施
3月19日～ 4月18日	パブリックコメント （基本構想案）	意見提出56件
3月24日	市議会全員協議会	「第5次館山市総合計画」の策定状況について

▶令和7年度

月 日	会議名等	内容、検討事項等
4月16日～ 4月30日	「まちの将来像」に係る高校生アンケート	【対象者】館山市内及び近隣の高校に在学の生徒 (館山総合高校、安房高校、安房西高校、安房拓心高校) 【回答数】560人
5月13日	令和7年度第1回企画審議委員会	令和7年度第1回館山市総合計画審議会議事内容の検討
5月27日	令和7年度第1回館山市総合計画審議会	①『第5次館山市総合計画』策定スケジュールについて ②『第4次館山市総合計画「後期基本計画」』について ③『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について ④『第5次館山市総合計画』について
6月23日	令和7年度第2回企画審議委員会	①前期基本計画(素案)について ②委員への書面による意見照会について
6月25日～ 7月10日	第5次館山市総合計画の策定に係る意見照会(書面)	①前期基本計画(素案)について
7月23日	令和7年度第3回企画審議委員会	令和7年度第2回館山市総合計画審議会議事内容の検討
8月5日	令和7年度第2回館山市総合計画審議会	①デジタル田園都市国家構想交付金効果検証について ②『第5次館山市総合計画「序論」「基本構想」』最終案について ③『第5次館山市総合計画「前期基本計画」』について ④『第5次館山市総合計画「実施計画」』について
8月22日～ 9月2日	第5次館山市総合計画の策定に係る意見照会(書面)	①前期基本計画(原案)(第4章まで) ②地区別ビジョン(素案)
9月17日	令和7年度第4回企画審議委員会	令和7年度第3回館山市総合計画審議会議事内容の検討
9月29日	令和7年度第3回館山市総合計画審議会	①デジタル田園都市国家構想交付金効果検証について ②『第5次館山市総合計画「前期基本計画」』(原案)について ③『第5次館山市総合計画「実施計画」』について
10月1日～ 10月31日	パブリックコメント(前期基本計画)	意見提出87件
11月7日	令和7年度第5回企画審議委員会	令和7年度第4回館山市総合計画審議会議事内容の検討
11月18日	令和7年度第4回館山市総合計画審議会	①『第5次館山市総合計画「前期基本計画」』について ②『第5次館山市総合計画「実施計画」』について ③『第5次館山市総合計画』答申(案)について
11月18日	答申	第5次館山市総合計画について(答申)
11月20日	館山市議会全員協議会	第5次館山市総合計画の策定について
12月22日	令和7年第4回市議会定例会	基本構想議決

◇市民意識調査の結果概要（抜粋）

（１）調査概要

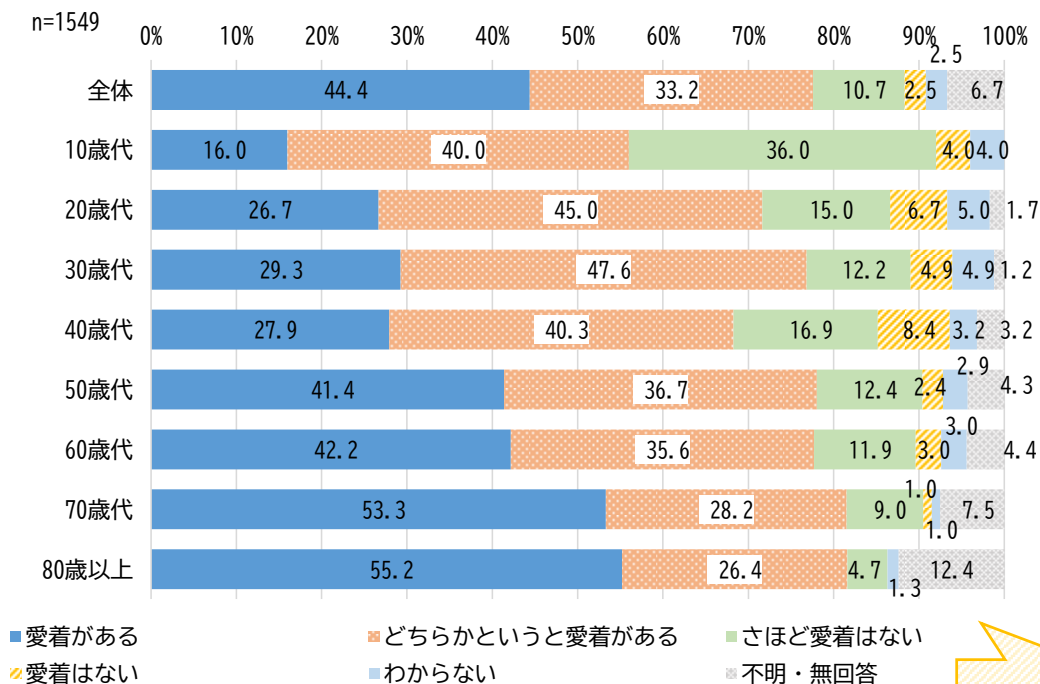
調査対象	16歳以上の市民 4,000人（無作為抽出）
調査方法	配付方法：自宅への調査票郵送 回答方法：WEB回答もしくは郵送提出（いずれか1つを選択）
調査時期	令和6年8月28日（水）～9月20日（金）
有効回収数	1,549人（有効回収率38.7%） ※内訳 WEB回答：273人、郵送回答：1,276人

（２）調査結果概要

▶ 問1 館山市への「自分たちのまち」としての愛着度

全体では、「愛着がある」「どちらかというとな愛着がある」を合わせた『愛着がある』と答えた人が77.6%となっています。

年代別では、50歳代以降では「愛着がある」が最も多くなっていますが、10歳代から40歳代の若い世代では「どちらかというとな愛着がある」が最も多くなっています。また、『愛着がある』が10歳代で56.0%と、他の年代に比べ低くなっています。



年代が上がるにつれて、『愛着がある』の割合が高い傾向にあります。

▶ 問3 あなたが考える10年後の館山市のイメージ（複数回答）

全体では、「医療・福祉・介護が充実し、自分らしく暮らせるまち」が48.4%と最も多く、次いで「自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち」が33.3%、「豊かな自然と人々が調和した、持続可能なまち」が28.7%となっています。

年代別では、10歳代で「すべての人が元気ですこやかに暮らすまち」、20歳代で「自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち」がそれぞれ最も多くなっています。

また、20歳代から40歳代で「地域ぐるみで安心して子育てができるまち」が他の年代に比べ高くなっているほか、「生活基盤や防災体制が整い、安心して暮らせるまち」が、年代が上がるにつれて高くなっています。

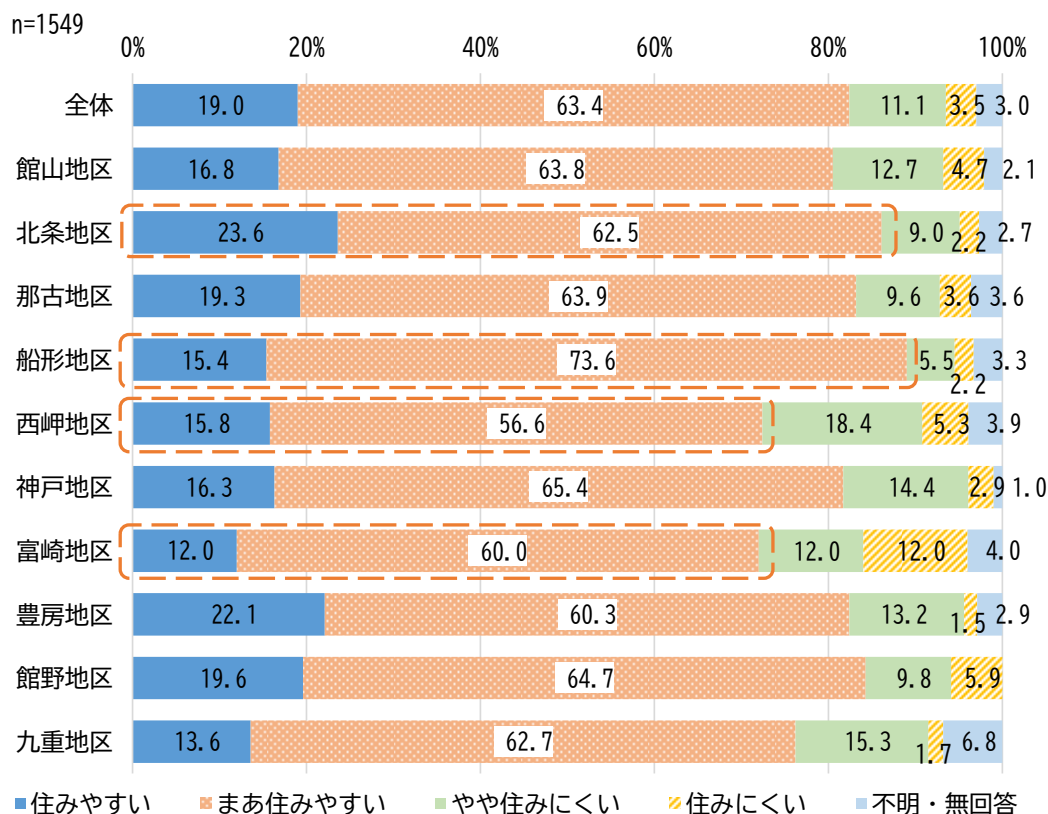
割合 (%)	合計 (人)	すべての人が元気ですこやかに暮らすまち	豊かな自然と人々が調和した、持続可能なまち	地域ぐるみで安心して子育てができるまち	助け合い・支え合いで、みんなで共生できるまち	医療・福祉・介護が充実し、自分らしく暮らせるまち	教育・文化活動やスポーツ活動が盛んなまち	地域に根差した歴史や文化が生きるまち	自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち
全体	1549	25.9	28.7	13.3	16.6	48.4	6.6	7.4	33.3
10歳代	25	40.0	20.0	12.0	20.0	24.0	12.0	24.0	28.0
20歳代	60	18.3	36.7	33.3	6.7	31.7	10.0	15.0	40.0
30歳代	82	12.2	34.1	24.4	11.0	36.6	8.5	8.5	31.7
40歳代	154	16.9	34.4	22.1	10.4	36.4	5.2	7.8	29.9
50歳代	210	17.6	28.6	13.8	13.8	43.8	5.2	8.1	32.4
60歳代	270	26.7	29.3	11.9	15.9	43.7	6.7	8.9	36.3
70歳代	411	30.9	29.2	8.3	17.3	56.2	6.6	6.8	32.8
80歳以上	299	32.8	23.4	9.4	23.7	59.9	5.7	3.3	34.4
%	合計 (人)	活力ある産業と豊かな暮らしを感じられるまち	海辺に人がにぎわう、人や情報の交流が活発なまち	みんなで支え合う、災害に強いまち	生活基盤や防災体制が整い、安心して暮らせるまち	住環境や生活基盤の整う、利便性の高いまち	その他	不明・無回答	
全体	1549	15.0	9.9	11.0	28.1	14.7	3.7	2.9	
10歳代	25	4.0	24.0	12.0	8.0	12.0	-	4.0	
20歳代	60	6.7	20.0	16.7	15.0	15.0	-	1.7	
30歳代	82	9.8	17.1	12.2	18.3	17.1	3.7	2.4	
40歳代	154	12.3	14.3	4.5	19.5	10.4	9.7	2.6	
50歳代	210	16.2	13.3	8.6	22.4	18.1	5.2	2.9	
60歳代	270	15.2	7.8	11.5	29.6	13.0	4.1	1.1	
70歳代	411	15.1	8.3	10.9	31.9	14.8	2.4	3.9	
80歳以上	299	20.4	4.3	13.7	35.5	13.7	2.3	2.7	

年代によって、将来の館山市のイメージに差が見られます。

▶ 問5 館山市の住みやすさ

全体では、「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせた『住みやすい』が82.4%となっています。

地区別では、「北条地区」や「船形地区」では『住みやすい』が高くなっていますが、「西岬地区」や「富崎地区」では他に比べ低くなっています。

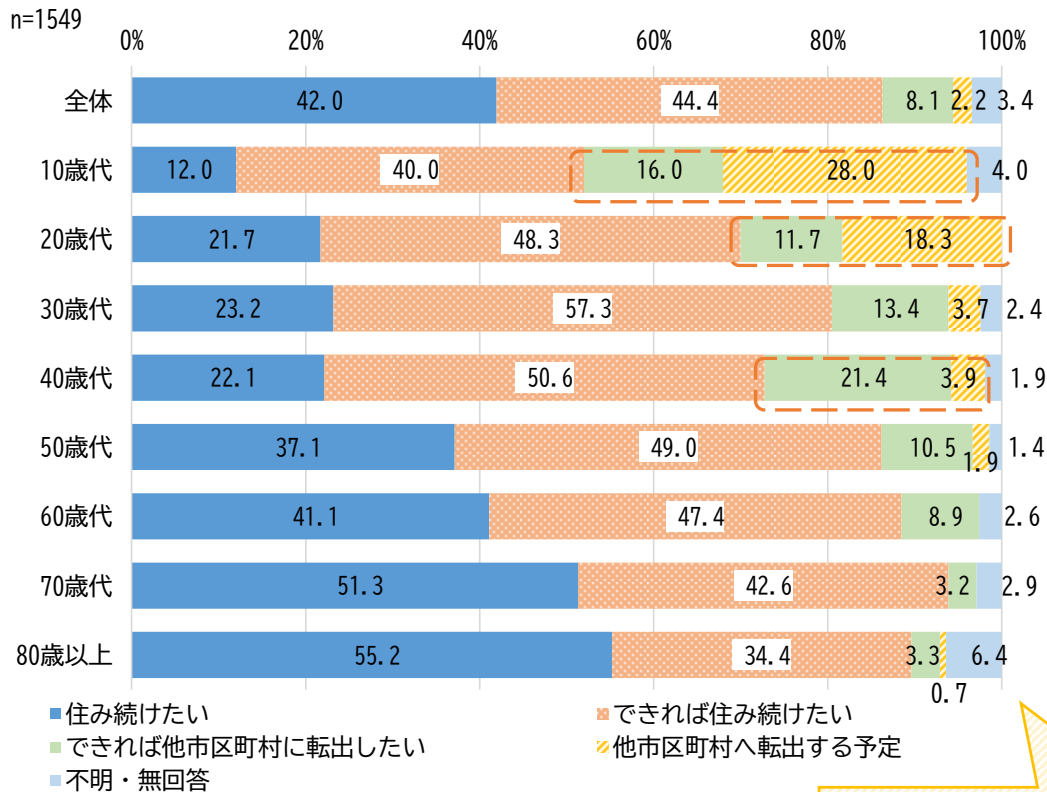


住みやすさについては、地区によって差が見られます。

▶ 問 6 館山市に住み続けたいか

全体では、「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』が86.4%となっています。

年代別では、年代が上がるにつれて『住み続けたい』が多くなっています。また、10歳代から20歳代で「他市地区町村へ転出する予定」が多くなっています。



10、20、40歳代の比較的若い年代で、転出の意向が多くなっています。

▶ 問 6-1 転出を考えている主な理由（自由回答）

福祉・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉、子育ての環境が良くない ・小児科が少なすぎる ・医療機関も選択の余地がなく、非常に生活しづらい
交通・移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物が不便 ・交通、電車が不便 ・車の運転が出来ないとどこへも行けない ・夜間タクシーがないので緊急時病院にたどりつけない
仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・勤め先がない ・給与の水準が低すぎる
教育・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学がない ・高校など限られた所しかなく子どもの将来が不安 ・進学のため
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣トラブル ・人間関係が独特 ・地域の祭りや行事の強制参加を強いる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・家賃が高い ・実家があるため ・結婚し、転居するため

▶ 問7 まちづくりの「満足度」とこれからの「重要度」

※施策分野毎に「満足度」と「重要度」のそれぞれの平均点(※)を算出した結果は次のとおりです。

満足度	選択肢	点数	重要度	選択肢	点数
満足	1	5	重要である	1	5
やや満足	2	4	やや重要	2	4
どちらともいえない	3	3	どちらともいえない	3	3
やや不満	4	2	あまり重要でない	4	2
不満	5	1	重要でない	5	1

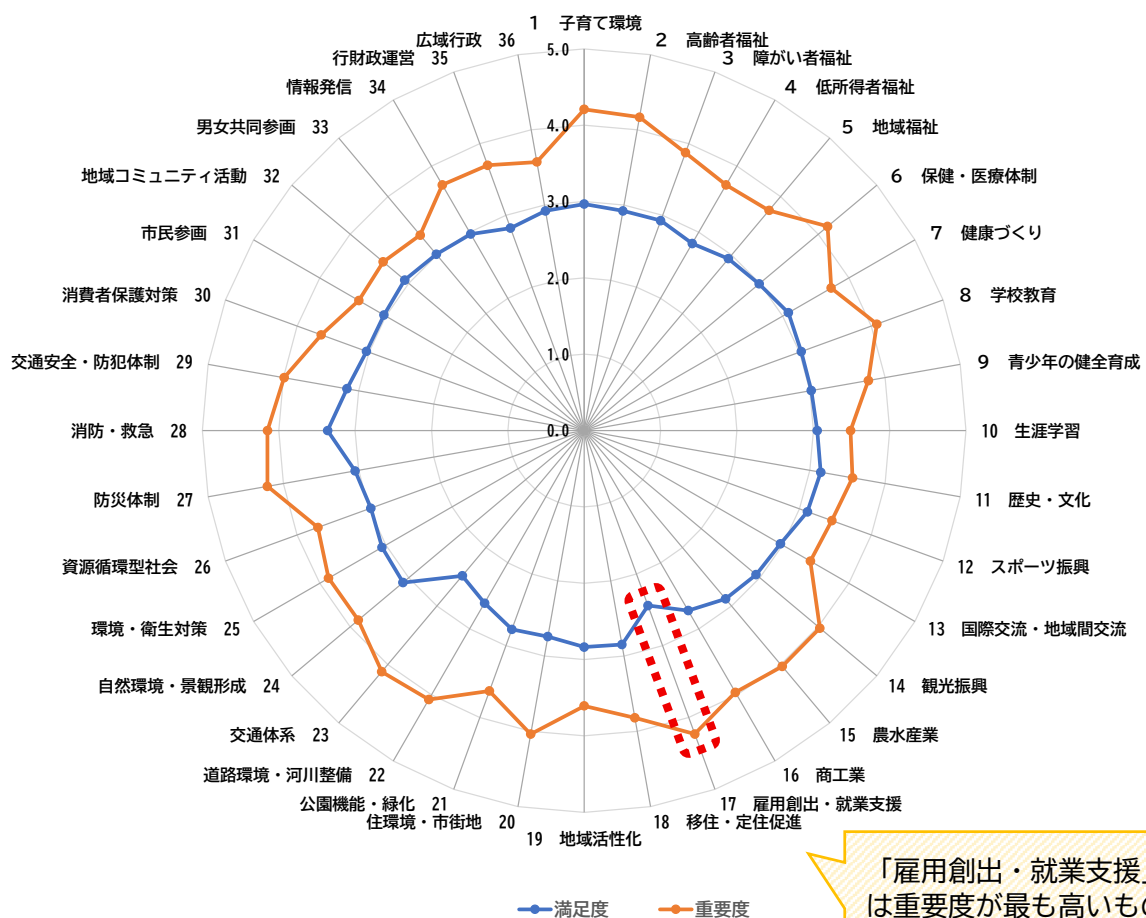
※平均点は、選択肢1~5=5点~1点とし、選択肢×各人数の合計点を点数回答者(1点~5点の総人数)で除した値。

「満足度」が最も高い施策は「28 消防・救急 (3.36)」、次いで「29 交通安全・防犯体制 (3.15)」、「11 歴史・文化 (3.14)」となっています。

最も低い施策は「17 雇用創出・就業支援 (2.44)」、次いで「23 交通体系 (2.48)」、「22 道路環境・河川整備 (2.61)」となっています。

「重要度」が最も高い施策は「17 雇用創出・就業支援 (4.23)」、次いで「1 子育て環境」「27 防災体制 (4.21)」、「2 高齢者福祉 (4.17)」となっています。

最も低い施策は「33 男女共同参画 (3.34)」、次いで「31 市民参画 (3.41)」、「13 国際交流・地域間交流 (3.42)」となっています。



「雇用創出・就業支援」は重要度が最も高いものの、満足度は最も低くなっています。

▶ 問8① 現在の幸福度

幸福度については、「5点」が22.1%と最も多く、次いで「7点」「8点」が18.9%、「6点」が11.4%となっています。

年代別では、10歳代から40歳代と60歳代で「7点」（30歳代は「8点」も同率）が最も多くなっています。

割合 (%)	合計 (人)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	不明・無回答
全体	1549	0.8	1.3	2.1	5.5	5.2	22.1	11.4	18.9	18.9	5.7	5.0	3.0
10歳代	25	-	-	-	4.0	4.0	24.0	20.0	28.0	8.0	4.0	4.0	4.0
20歳代	60	-	-	1.7	8.3	3.3	18.3	11.7	30.0	21.7	-	3.3	1.7
30歳代	82	1.2	1.2	4.9	6.1	7.3	12.2	19.5	20.7	20.7	1.2	4.9	-
40歳代	154	2.6	3.2	1.9	6.5	4.5	19.5	14.9	20.1	17.5	3.9	4.5	0.6
50歳代	210	1.0	2.9	3.3	11.4	5.2	21.4	12.9	14.3	18.6	2.9	4.8	1.4
60歳代	270	0.7	0.7	3.0	5.2	7.4	20.0	10.0	20.7	15.9	8.1	5.9	2.2
70歳代	411	0.7	1.0	1.2	3.6	4.9	26.3	8.5	18.5	20.4	6.3	5.6	2.9
80歳以上	299	0.3	0.7	0.3	2.3	4.3	24.4	11.4	16.1	20.4	8.4	5.0	6.4

比較若い年代で「7点」「8点」の回答が多い傾向にあります。

▶ 問11 若い世代が館山市に移住・定住するために必要なこと

全体では、「企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大」が56.2%と最も多く、次いで「子育て支援や学校教育環境の充実」が31.6%、「幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上」が27.0%となっています。

年代別では、10歳代で「幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上」、30歳代で「子育て支援や学校教育環境の充実」が最も多くなっています。

割合 (%)	合計 (人)	農林水産業における後継者の育成支援	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	意欲のある若者に対する起業・創業支援	子育て支援や学校教育環境の充実	学力やコミュニケーション能力を向上させる学習機会の充実	大学のサテライトキャンパスや附属高校等の誘致	医療機関の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	商工業やレクリエーション施設の充実
全体	1549	20.7	56.2	25.6	31.6	5.0	10.5	25.2	27.0	11.7
10歳代	25	8.0	28.0	16.0	24.0	12.0	16.0	36.0	44.0	28.0
20歳代	60	15.0	48.3	13.3	46.7	5.0	16.7	20.0	40.0	16.7
30歳代	82	23.2	40.2	22.0	53.7	6.1	7.3	23.2	24.4	20.7
40歳代	154	16.9	55.8	17.5	44.8	9.1	13.0	26.0	27.9	14.3
50歳代	210	14.8	56.2	16.7	35.7	4.8	8.6	26.7	30.0	17.1
60歳代	270	15.6	63.7	26.3	35.6	3.0	10.0	24.8	28.5	11.1
70歳代	411	26.3	57.7	29.7	23.6	3.4	9.5	26.5	25.5	7.8
80歳以上	299	25.8	56.5	32.8	22.7	6.4	11.7	23.1	22.7	8.0
割合 (%)	合計 (人)	恵まれた自然環境等の都市部へのプロモーション	シビックプライド（まちに対する誇りや愛着）の醸成	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地の整備	婚活支援の実施	安全・安心なまちづくりの充実	その他	わからない	不明・無回答	
全体	1549	5.0	2.1	21.6	9.5	15.7	1.5	3.9	2.6	
10歳代	25	-	-	20.0	12.0	20.0	8.0	4.0	-	
20歳代	60	3.3	1.7	38.3	10.0	11.7	-	-	-	
30歳代	82	3.7	-	25.6	11.0	15.9	2.4	1.2	-	
40歳代	154	3.2	3.2	24.0	6.5	9.1	3.2	1.9	0.6	
50歳代	210	8.1	2.9	27.6	8.6	13.8	2.4	2.9	0.5	
60歳代	270	4.8	2.2	20.0	7.0	15.9	1.5	4.4	1.9	
70歳代	411	5.6	1.0	18.2	9.7	18.2	0.7	5.8	2.9	
80歳以上	299	5.0	3.0	17.7	10.4	15.7	0.7	4.3	6.0	

企業誘致・就業機会の拡大についてのニーズは、40歳代以降で特に高くなっています。10、20歳代では、都心へのアクセス向上に対するニーズが約4割と高くなっています。

◇高校生意識調査の結果概要（抜粋）

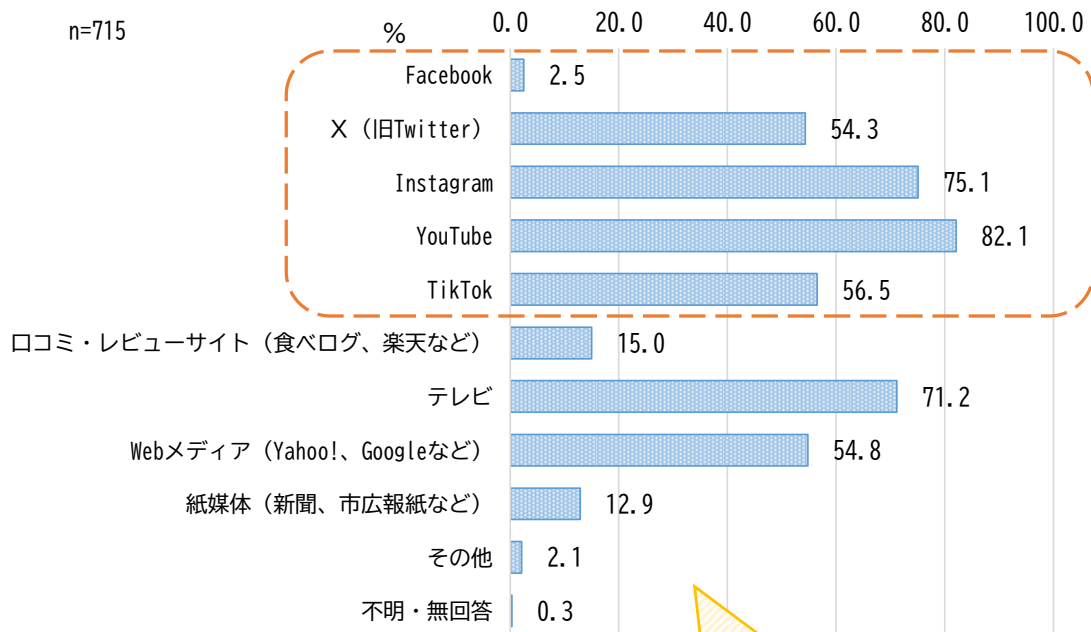
（１）調査概要

調査対象	館山市内及び近隣の高校に在学の生徒 1,509人 (館山総合高校、安房高校、安房西高校、安房拓心高校)
調査方法	WEB 回答
調査時期	令和6年12月2日(月)～12月15日(日)
有効回収数	715人(有効回収率47.4%)

（２）調査結果概要

▶ 問2 情報の入手媒体（複数回答）

全体では、「YouTube」が82.1%と最も多く、次いで「Instagram」が75.1%、「テレビ」が71.2%となっています。



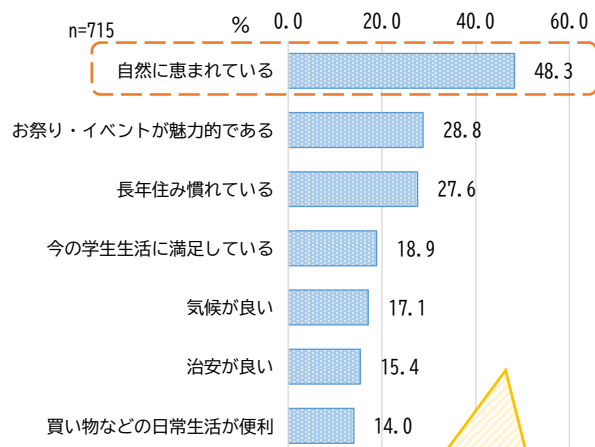
情報の入手先として、SNSの割合はFacebookを除き、いずれも半数以上となっています。

▶ 問4・問5 館山市の「住みやすい(好きな)」ところ、「住みにくい(きらいな)」ところ(複数回答)

住みやすい(好きな)点は、「自然に恵まれている」が最も多く、次いで「お祭り・イベントが魅力的である」、「長年住み慣れている」となっています。

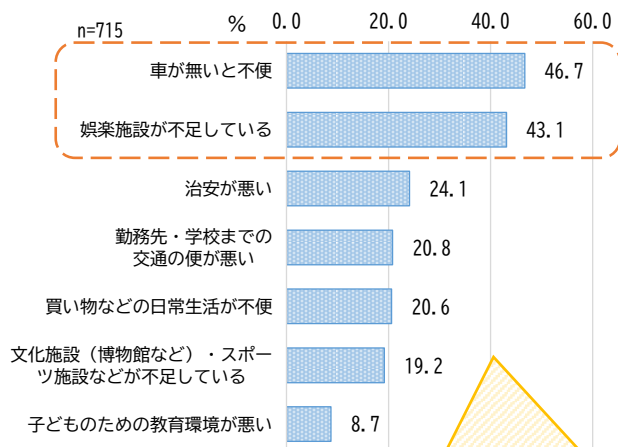
住みにくい(きらいな)点は、「車が無いと不便」が最も多く、次いで「娯楽施設が不足している」、「治安が悪い」となっています。

【住みやすい(好きな)ところ※上位7項目】



「自然に恵まれている」ところは、市民意識調査と同様、館山市の住みやすい点と感じています。

【住みにくい(きらいな)ところ※上位7項目】

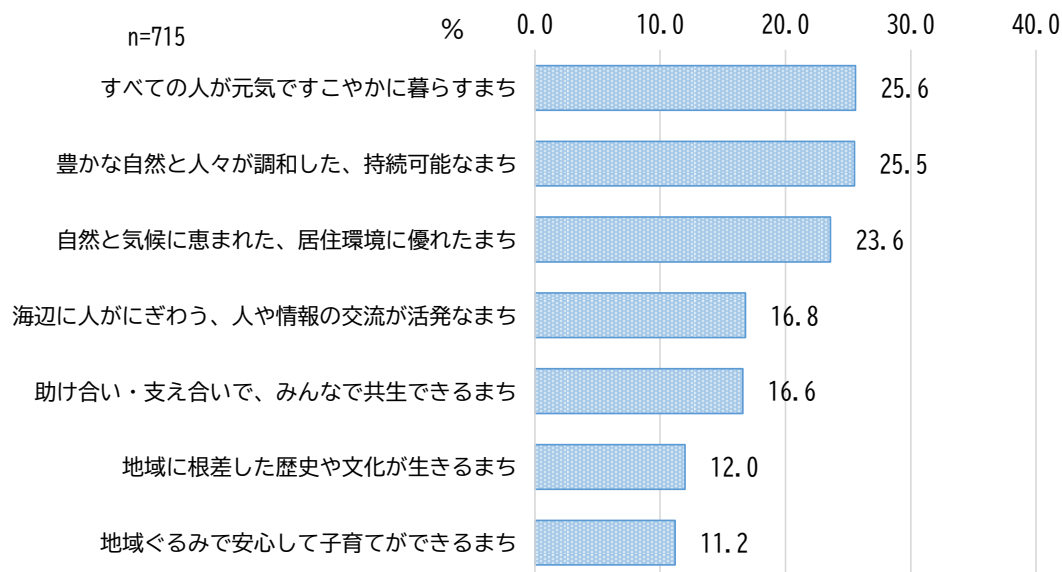


「車が無いと不便」と考える方は市民意識調査と同様に最も高くなっています。また、「娯楽施設が不足している」と感じる方は、市民意識調査と比較して特に高くなっています。

▶ 問13 10年後の館山市のイメージ

「すべての人が元気ですこやかに暮らすまち」が25.6%と最も多く、次いで「豊かな自然と人々が調和した、持続可能なまち」が25.5%、「自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち」が23.6%となっています。

※複数回答・上位7項目



◇地区別懇談会（ワークショップ）の結果概要

■ワークショップの目的

令和8年度からを計画期間とする『第5次館山市総合計画』の策定にあたり、市民を対象としてお住いの地区の将来について話し合い、その結果を『第5次館山市総合計画』、『館山市都市計画マスタープラン』や『立地適正化計画』での活用を通じて、市民と行政の共通理解に基づいた“まちづくり”を推進しようとするものです。

■ワークショップのテーマ

- ① 自分の住んでいる地域や館山市の好きな場所、モノ、コト
- ② 住んでいる地域での困りごとや課題
- ③ あったらいいなと思う、地域が良くなる機能

■ワークショップの実施概要

- ・対象者：16歳以上の市民
- ・日時、地区割、会場、参加人数：

No.	実施日など	実施場所	参加人数
①	令和6年10月26日（土） ①午後1時30分～4時30分 館山地区、船形地区、北条地区、那古地区	千葉県南総文化ホール 大会議室	9人
②	令和6年11月4日（月・祝） ①午前9時～12時 西岬地区、神戸地区、富崎地区 ②午後1時30分～4時30分 豊房地区、館野地区、九重地区		15人

・チラシ

**令和6年 私たちとっしょに
館山市の未来
を考えてみませんか**
地区別懇談会（ワークショップ）
会場：千葉県南総文化ホール 大会議室
<第5次総合計画・前期基本計画・都市計画マスタープラン・立地適正化計画>

館山市では、令和6年度から2か年をかけて次期総合計画（どのような「まち」にしていくのかの具体的な方針）を決定していきます。
そこで、市民の皆さんと、お住いの地区の将来についてテーマに沿って話し合っ
ていただき、その結果を、次期総合計画に生かしたいと考えています。
ご参加いただける方は、下記のURLからお申し込みください。
なお、申込多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。抽選の結果につい
ては、改めてご連絡いたします。

日程
10月26日① 午前9時～12時 館山地区（12名）、船形地区（6名）
午後1時30分～4時30分 北条地区（12名）、那古地区（6名）
11月4日②③ 午前9時～12時 西岬地区、神戸地区、富崎地区（各地区6名）
午後1時30分～4時30分 豊房地区、館野地区、九重地区（各地区6名）

対象者 16歳以上の市民

参加方法 地区ごとにグループを作り、意見交換を行います。

ご参加 ① お住いの地区の概要や、大事にしたいこと等が、
② お住いの地区の課題と改善案
③ お住いの地区を、どのように「まち」にしたいのかなど。

申込URL <https://agpform.jp/f/jwq7>
申込締切 9月20日（金）
申込みはコチラ！

お問合せ 館山市 企画課 ☎22-3163

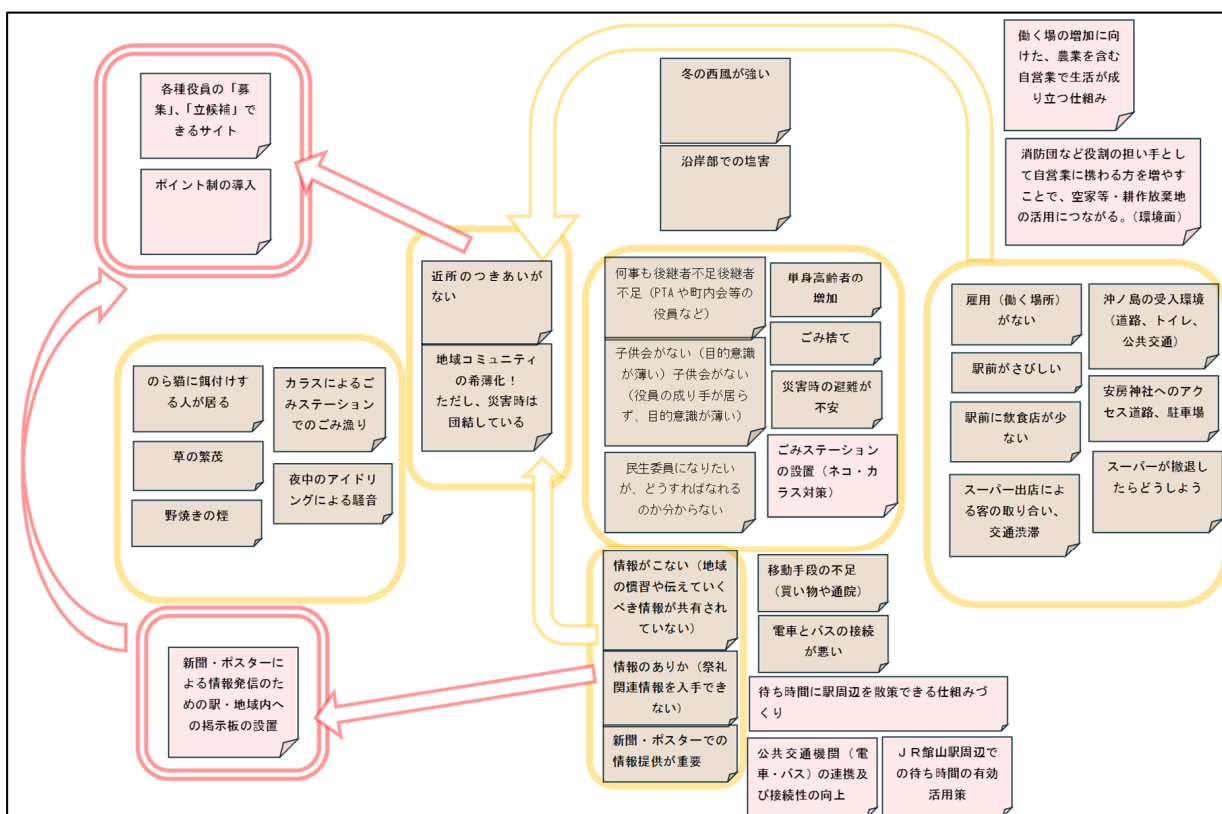
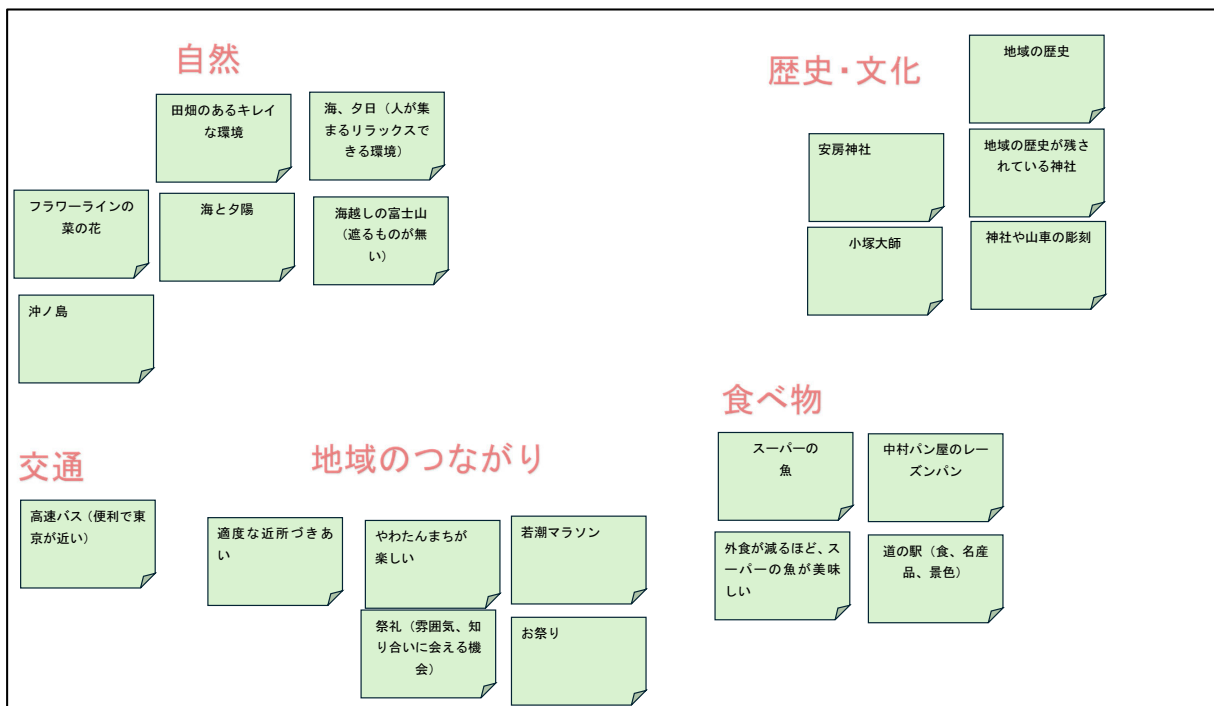
【付箋の分類】

- ① 自分の住んでいる地域や館山市の好きな場所、モノ、コト
- ② 住んでいる地域での困りごとや課題
- ③ あったらいいと思う、地域が良くなる機能



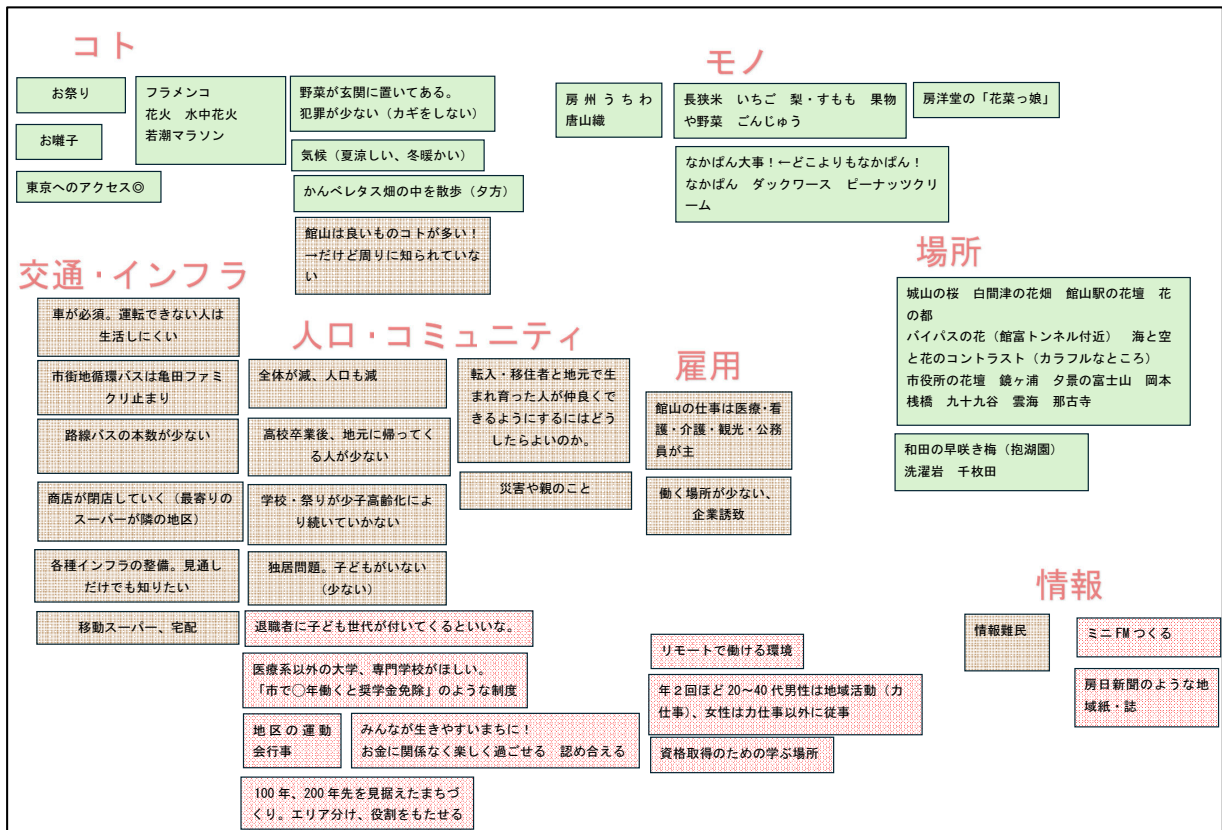
▶ 館山・北条地区

【出された意見の相関図】



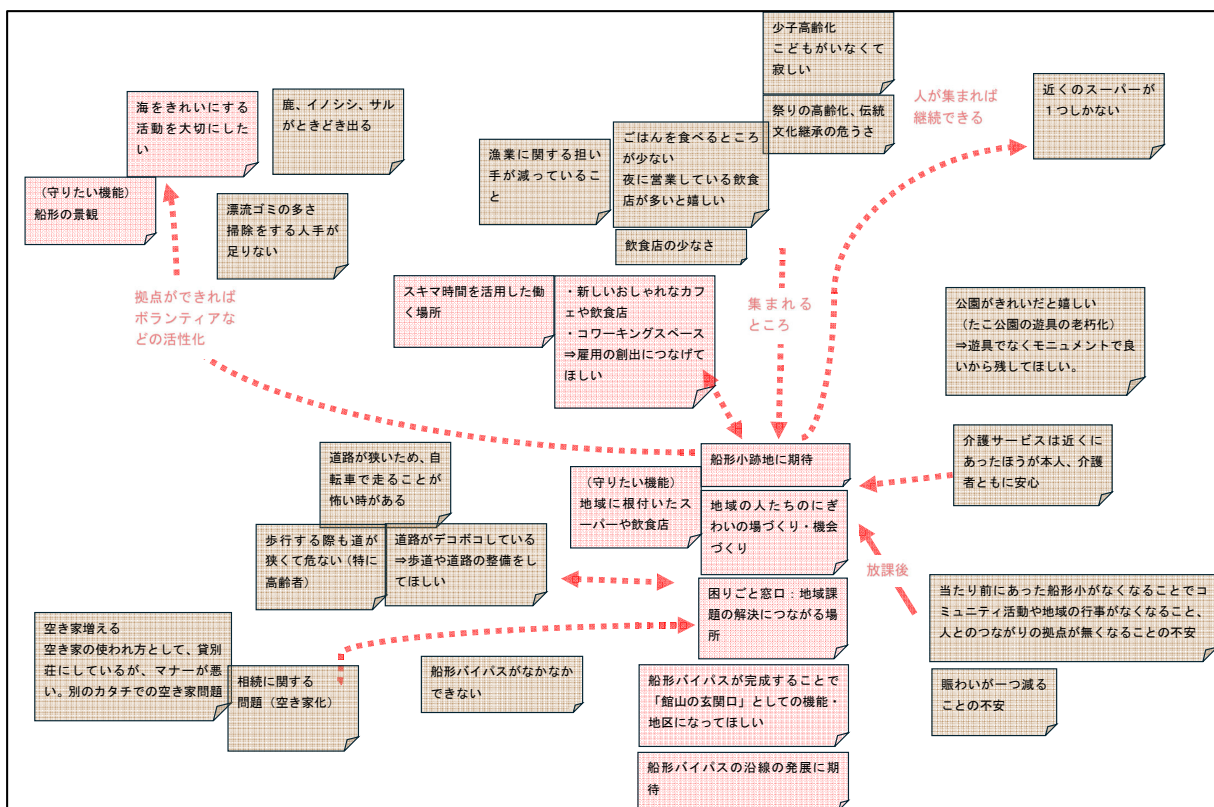
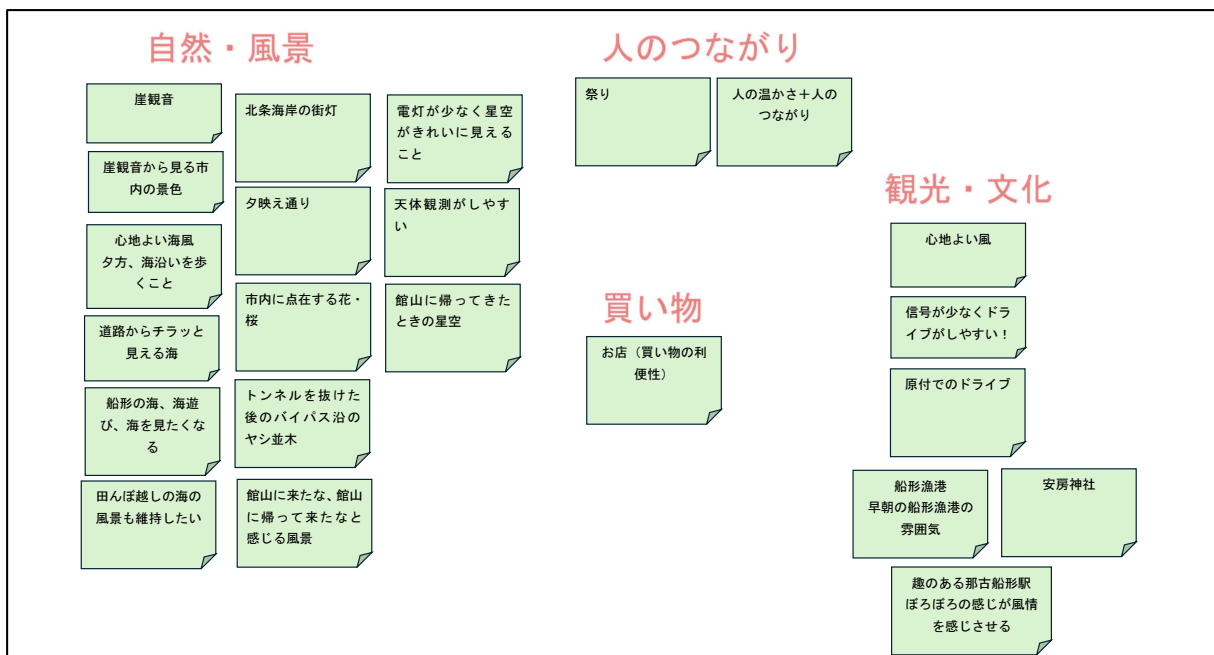
▶ 那古地区

【出された意見の相関図】



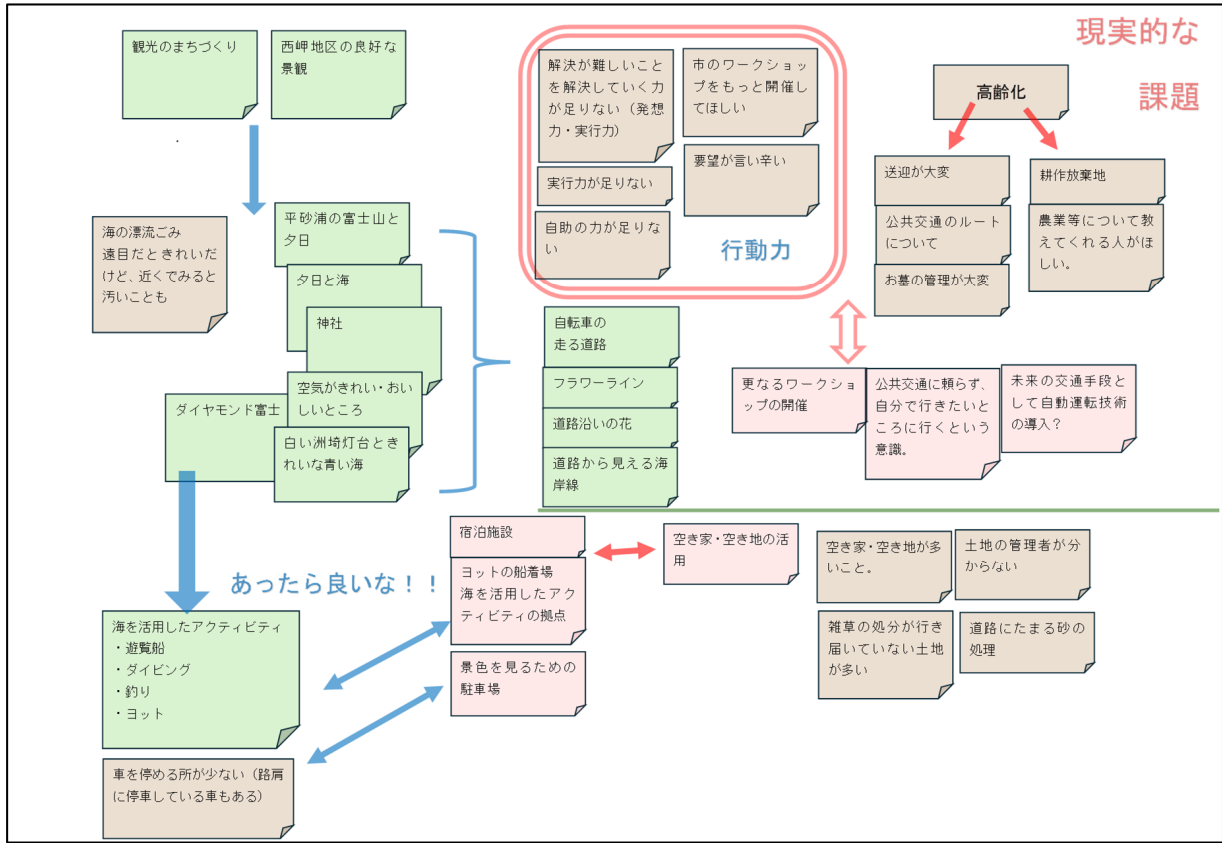
▶ 船形地区

【出された意見の相関図】



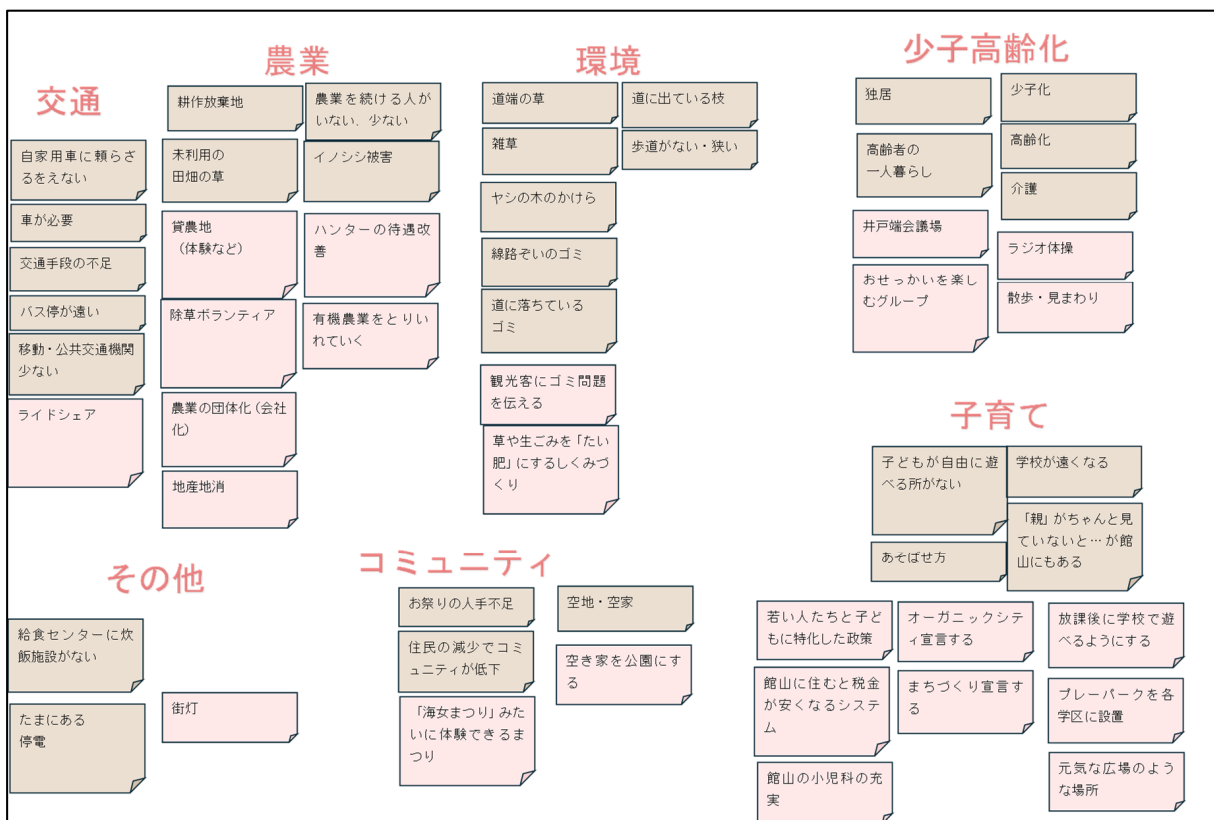
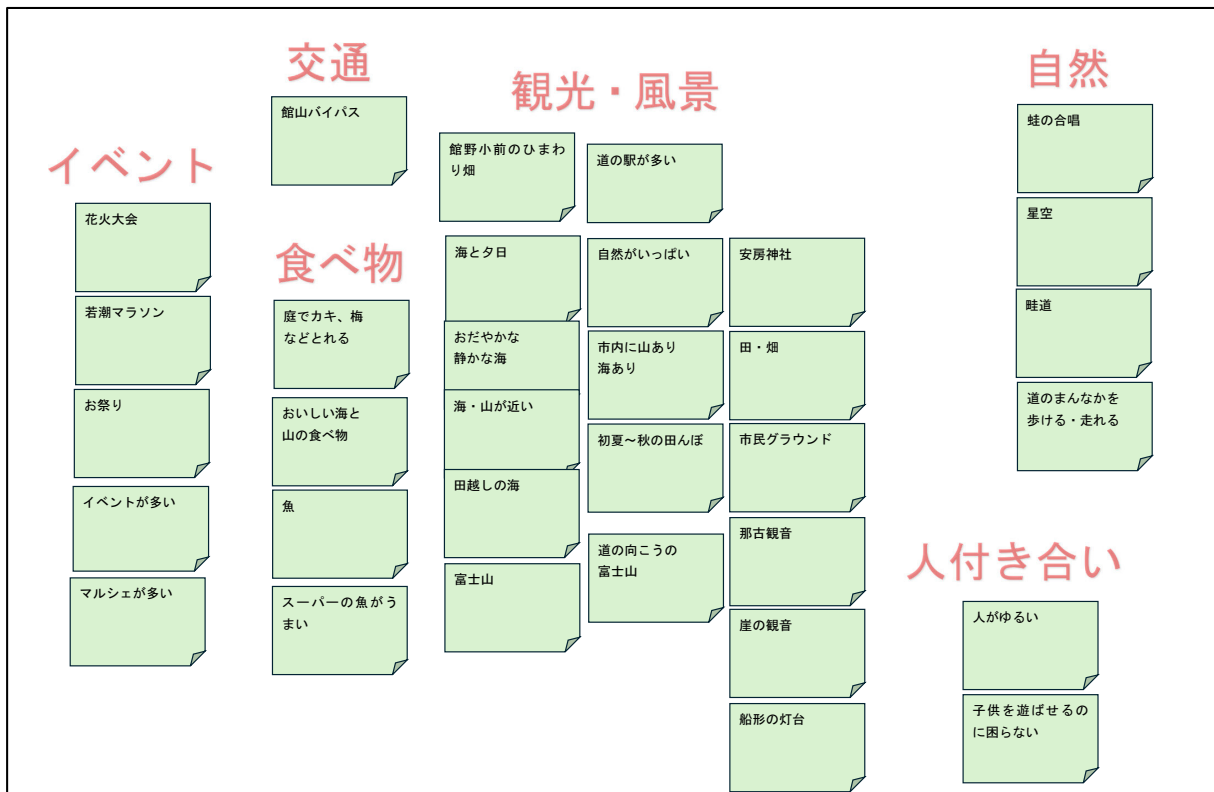
▶ 西岬地区

【出された意見の相関図】



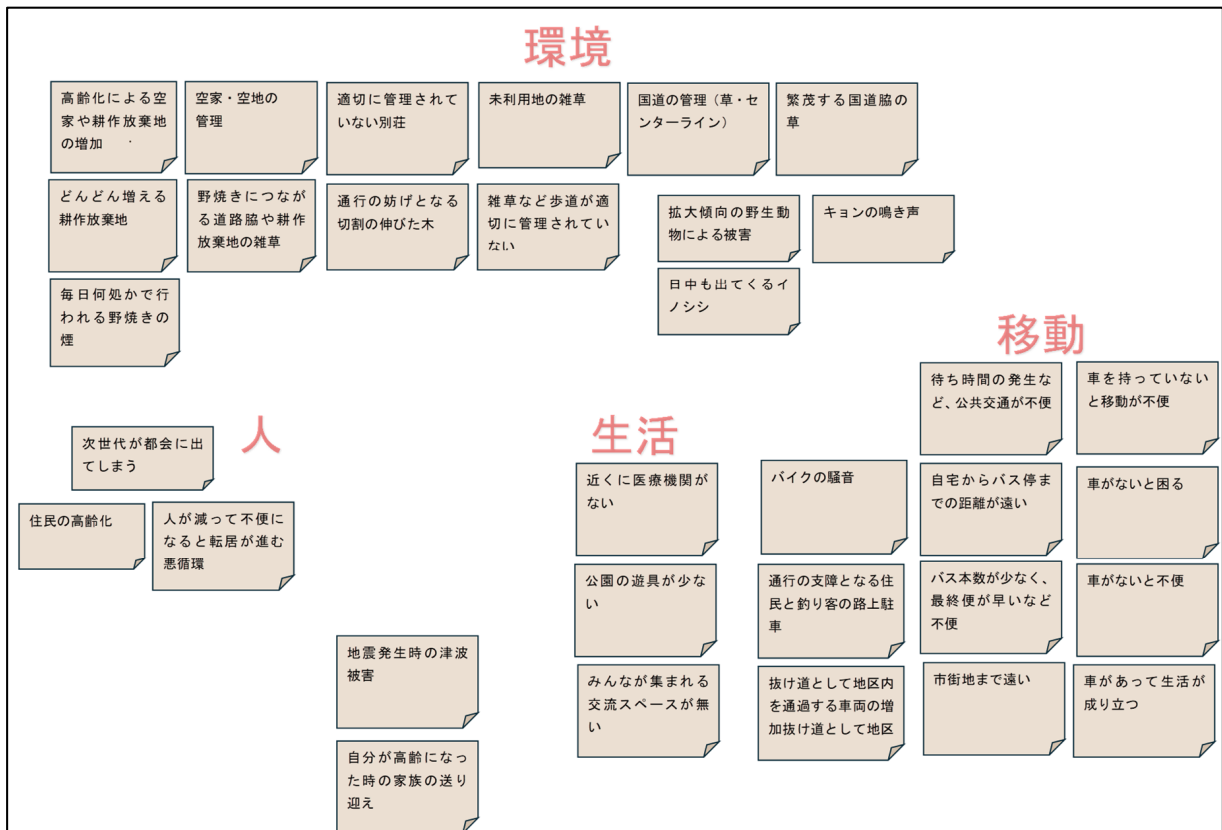
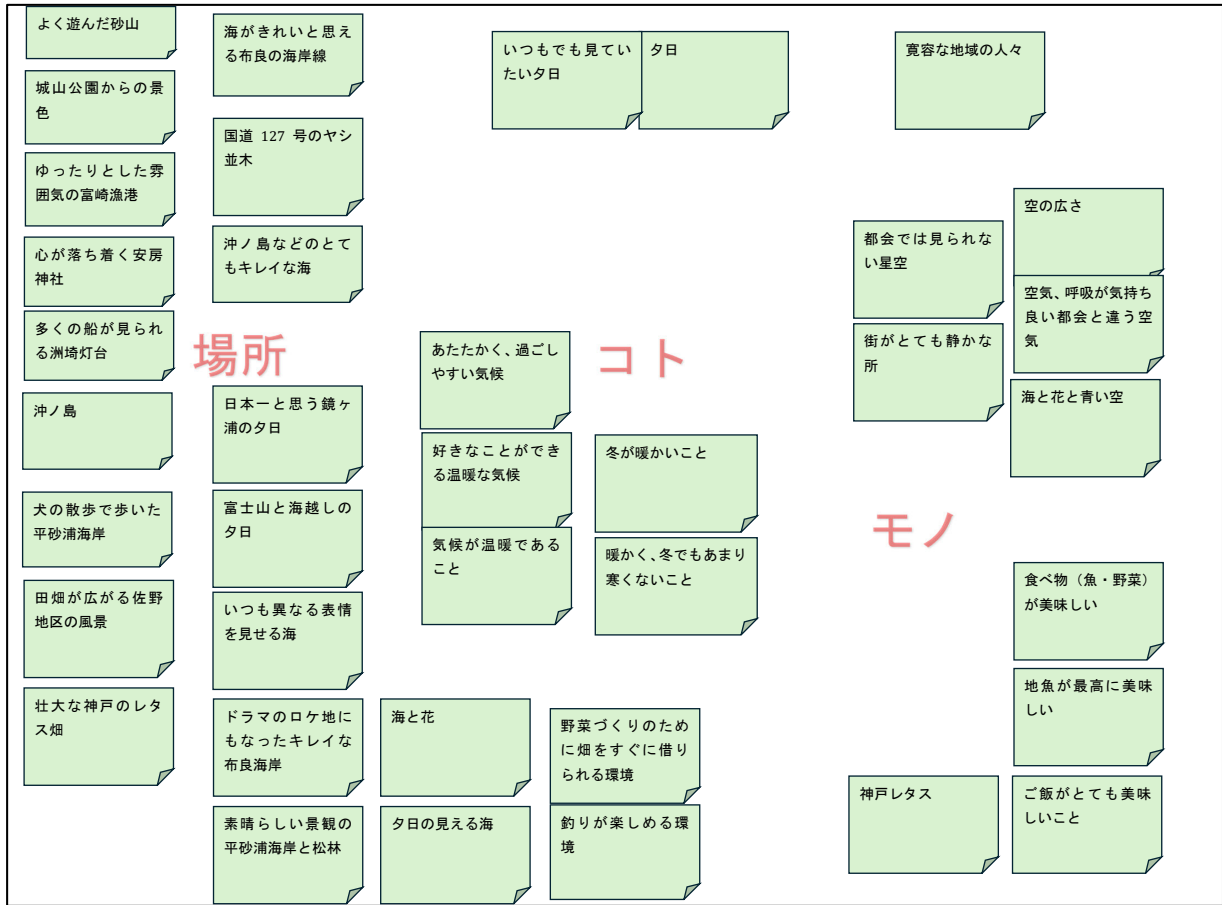
▶ 館野・九重地区

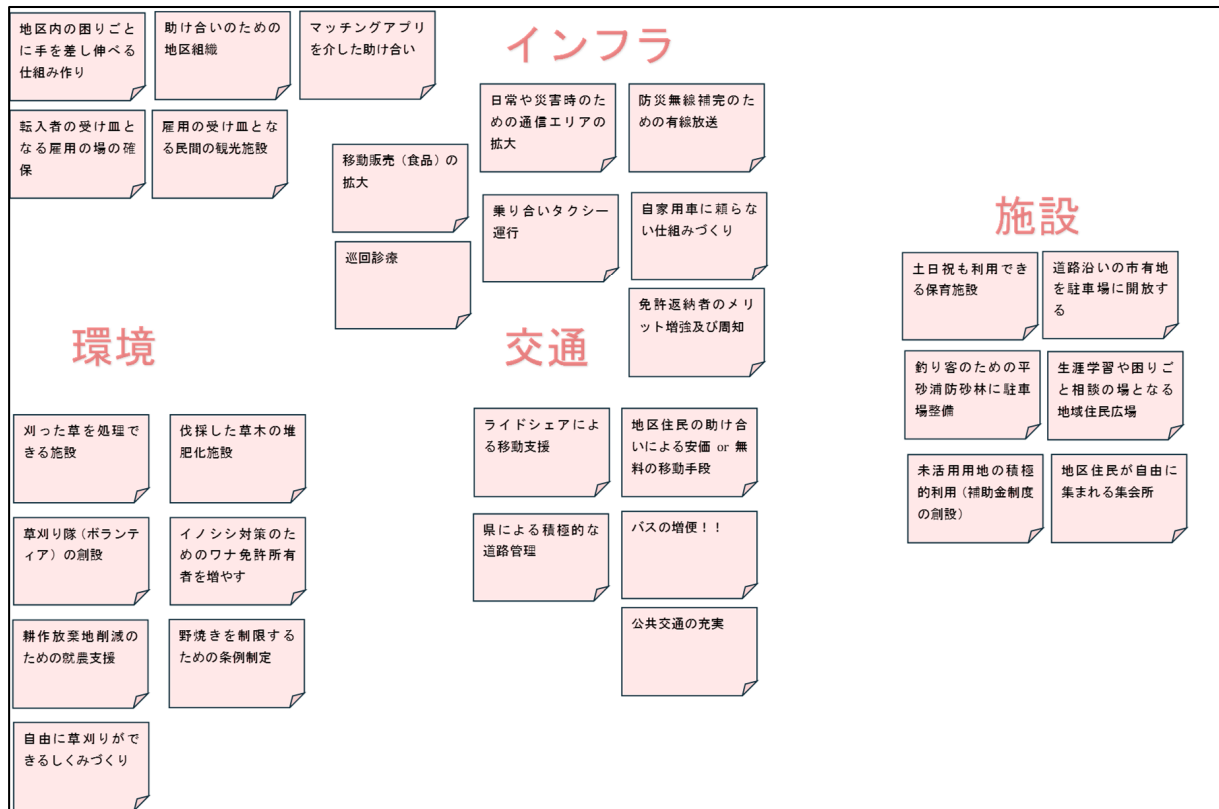
【出された意見の相関図】



▶ 神戸・富崎地区

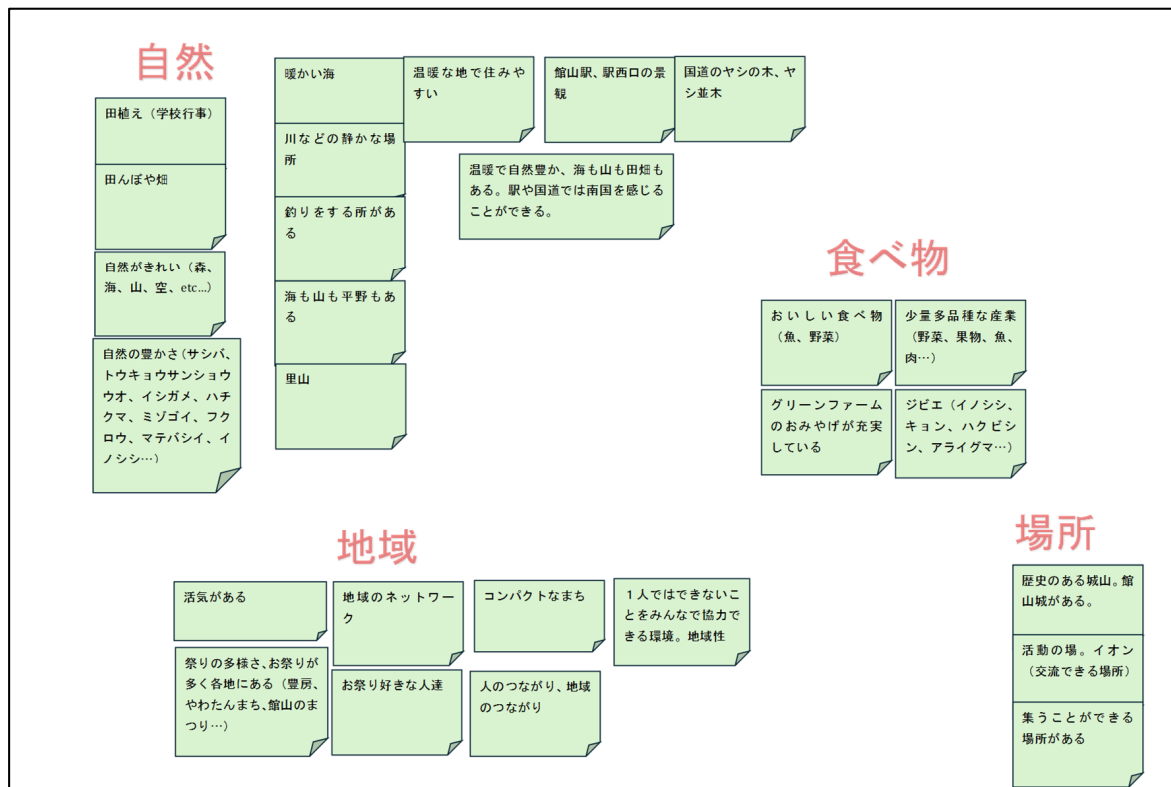
【出された意見の相関図】





▶ 豊房地区

【出された意見の相関図】



人口

- いろいろな仕事が無い
- 子どもたちが帰ってこない
- 若い人が少ない(青年、消防)
- 農家のお嫁さん問題
- 過疎化。だんだん人が少なくなってしまう。
- 祭りをやる人が少なくなっている。祭りの維持が困難。
- 地域のつながりの希薄化
- 移住できる家が少ない
- 跡継ぎがない。仕事・行事・地区の作業が続けられなくなってきている。

道路

- 歩みにくい
- 道がせまいが大きい車が通る
- 通学路が狭く危険な所がある
- 道路改修(側溝)が整備されていない。猪に荒らされたまま
- 整備されていない道もある
- 歩くことが困難な道路状況

交通

- バス停までの距離が長い。バスや電車に乗るまで車で15分ぐらいかかる。
- 電車の本数が少ない。通院にバスの便が少ない。
- 歳をとってから車がないと困る
- 車が無いと生活できない。バスが不便。
- 買い物に足らない(高齢者)
- 交通の不便さ。車がないと移動しにくい
- 車社会(コスト、子どもの足、飲めない)

環境・自然

- ポイ捨て・不法投棄
- 耕作放棄地の増加
- 自然に無関心
- 山や川が多いから自然災害が多い
- 獣害
- 自然の維持・保全に目が向いていない。

意識

- 市が、住民が稼ごうつもりがない
- 活動資金の不足
- 新しい取組がしづらい
- 近所のサービス精神が豊富すぎる
- 市の未来に無関心
- 住民の温度差が激しい

買い物・遊び

- 遊ぶ場所が少ない
- 自然の多い場所と店の多い場所が遠い
- 近くにお店がほとんどない
- 店舗が無いだけでなく、車以外の手段がない。

未来像

- ・シビックプライドを高める一祭、自然の豊かさ、歴史の認識を高める
- デジタル大学を作る
- 市長 YouTube (地域の魅力、政治、経済など)
- ・経営を教える(地域の事業者に学ぶ) ↑↑学校での授業の一環として取り入れる
- 5G+デジタル先端都市を目指す(決済、ITエンジニア、メタバース、EC、学習、ゲーム…)
- 地元新聞デジタル?(情報共有・老若男女)
- 市を・地域を知る教育、デジタルを活用した生活環境の構築を目指す。

人と触れる・人が集う

- 遊ぶ場所を増やす
- 中高学年児童の集う場所
- 学校プールの開放(見守りの問題もある)
- みんなと話し合い世間話をする場所(サロン活動)を設置
- 田舎えや稲刈りなど、自然と触れあう機会を増やす!
- 意見を言いやすい場作り(市民と行政が双方向に)
- 地域が集まることができる場の整備

インフラ・交通

- 道路整備!
- 通学路の整備
- 電車やバスの本数を増やす!!
- タクシー、サービスのサブスクー移動手段の確保&雇用の増
- 車道・歩道の整備、公共交通機関の充実
- コミュニティバス送迎(ボランティア組込型)ライドシェア
- 地域住民が利用しやすい公共交通機関
- 自動運転(交通・物流…)

自然

- 地域資源研究センターの設置(里山に眠る宝探し)
- 自然の豊かさを見直す
- 全員でポイ捨てされたゴミをひろう
- 今ある資源を維持・活用する

人を呼ぶ

- 耕作放棄の場所を他県の人達への体験の場にする
- 都会のリスクヘッジ貸し土地(農地など)
- 二地域居住⇄空き家マッチング(ちゃんと手数料を得る)
- 温暖な環境を利用して会社を誘致する
- 小規模特認校を生かした子育て世代移住者増
- 市外の人が集まるイベントを企画する
- 企業・移住者の誘致

その他

- 巡回診療車 医師が乗車して各地区を回ってくれるシステム

◇まちの将来像に係る高校生アンケート結果

(1) 調査概要

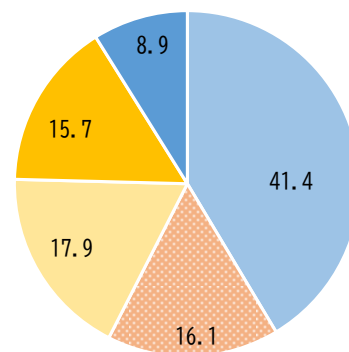
調査対象	館山市内及び近隣市内の高校に在学の生徒 (館山総合高校、安房高校、安房西高校、安房拓心高校)
調査の目的	次代を担う世代である高校生に、「館山市が10年後に目指すべき姿」について意見を訊くため。
調査方法	WEB 回答
調査時期	令和7年4月16日(水)～4月30日(水)
回答数	560人

(2) 調査結果

館山市内に居住する高校生

n=280

%

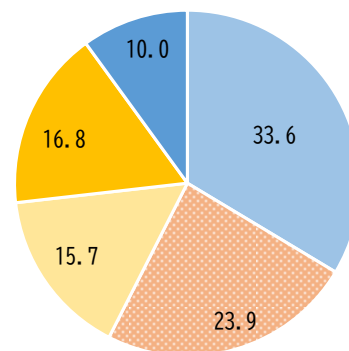


- みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しいまち・館山
- みんなで未来をつくるまち 館山
- 自分らしく暮らせるまち たてやま
- 人がつながり ともに織りなす 魅力あるまち
- ともに育み ともに織りなす 魅力あるまち

館山市外に居住する高校生

n=280

%



- みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しいまち・館山
- みんなで未来をつくるまち 館山
- 自分らしく暮らせるまち たてやま
- 人がつながり ともに織りなす 魅力あるまち
- ともに育み ともに織りなす 魅力あるまち

◇第4次館山市総合計画『後期基本計画』にか かる政策評価の概要

(1) 政策評価のねらい

現行の第4次館山市総合計画『後期基本計画』の実施状況や効果、課題等を整理し、達成度、優先度、今後の方向性を明確化することで、限られた行政資源（ヒト・モノ・カネ）を適切に配分し、より実効性の高い第5次館山市総合計画『前期基本計画』『実施計画』を策定することを目的として実施します。

(2) 政策評価の視点

【評価全体の視点】

市民への説明責任を果たすため、正確でわかりやすい記載に努め、評価結果を公表します。

【政策・施策に対する視点】

目的や目標に対する各事業の必要性・有効性・効率性などを勘案し、第5次館山市総合計画『前期基本計画』『実施計画』策定への展開を十分に検討します。

【事務事業単位での視点】

評価に際しては、事業のPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）を意識するとともに、担当課職員全体で情報共有し、職員の意識改革と事業実施の改善を図っていきます。

(3) 評価の流れ

①1次評価（暫定版）：課長評価

②1次評価（確定版）：部長評価

③2次評価：政策評価委員会（委員長：市長）による評価

1次評価に対する総合的な評価

④3次評価：政策評価委員会による再評価

1・2次評価結果の見直しを行った上で、市としての優先度を決定する。

また、3次評価の結果を第5次館山市総合計画『前期基本計画』の事業に反映することとする。

⑤政策評価の総括：政策評価委員会による再評価（※実施時期：令和8年7月頃を予定）

第4次館山市総合計画『後期基本計画』の計画期間満了となる令和7年度末における時点修正（実施状況・効果・課題等）を行い、当該内容を踏まえて最終達成度を決定する。

◇用語解説

索引	用語	解説
A	AI (エーアイ)	Artificial Intelligence (人工知能) の略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラムを指す。AI の代表的な技術として、人間の学習に相当する仕組みをコンピューター等で実現する「機械学習」と、人間の脳が持つ神経回路の仕組みを取り入れたニューラルネットワークを用いて行う機械学習である「ディープラーニング (深層学習)」がある。
D	DX (デジタル・トランスフォーメーション)	外的環境の変化を踏まえ、先進的デジタル技術の活用を通じて組織の構造や文化、また構成員の意識を改革することにより、新たな価値を創出し、組織間競争における優位性を確立すること。
G	GX (グリーン・トランスフォーメーション)	経済・社会構造を、化石燃料中心から再生可能エネルギー中心・低炭素型へ抜本的に転換し、脱炭素化と経済成長を両立させる変革のこと。
I	ICT (アイシーティー)	Information and Communication Technology の略で、IT (情報技術) の概念を更に一步進め、IT に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉で、情報通信技術を指す。
Q	QOL (キューオーエル)	Quality of Life の略で、「人生の質」や「社会的に見た生活の質」を指す。主に医療や福祉の分野において、療養している患者が身体的、精神的、社会的、経済的な面で納得のいく生活を維持していくことを目指す考え方。
S	SDGs (エスディーゼーズ)	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2015 年の国連サミットで採択された、2030 年を期限とする国際社会全体の開発目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、広範な課題に統合的に取り組むこととされており、17 のゴール (目標) と 169 のターゲットが設定されている。
	Society5.0 (ソサエティ 5.0)	「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、政府が提唱する目指すべき未来社会の姿。サイバー空間と現実世界を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を指す。
あ	空家バンク制度	空き家を「売却したい・貸したい」と希望する空き家所有者からの申し込みを受け付け、その空き家の情報をホームページ等で公表し、空き家の利用を希望する者とのマッチングを行う制度。
い	イノベーション	「革新」や「刷新」「新機軸」等を意味する言葉で、従来の仕組みや考え方に対して革新的なアイデアや技術を取り入れ、新たな価値を生み出すこと。
	インバウンド	「入ってくる・内向きの」という意味で、一般的には外国人が訪れてくる旅行のこと。
う	ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

索引	用語	解説
お	オープンデータ	行政機関等が保有するデータを、二次利用可能なルールのもと、市民や企業等が利活用しやすい形で公開すること。また、そのように公開されたデータ。
か	カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。
	環境学習	環境問題についての知識を身につけるだけでなく、人と環境との関係性、環境と社会、経済及び文化とのつながりについての理解を深め、問題解決に向けて行動できる人を育てるための教育・学習のこと。
	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様な関わりをもつ人々のこと。人口減少や高齢化による、地域の担い手不足という課題を解決する人材として期待されている。
	観光入込客数	日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者を数えたもの。
	観光地域づくり法人 [DMO (Destination Management/ Marketing Organization)]	地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現する戦略の策定と戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。
	官民連携	行政と民間事業者等が連携し、民間の持つ多種多様なノウハウや技術を活用することにより、行政サービスの向上、財政資金の効率的使用や行政の業務の効率化等を図ろうとする考え方。
	学童クラブ	主に、保護者が就労等により日中家庭にいない小学生児童(＝学童)に対して、放課後等に、適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を図る事業。
き	企業版ふるさと納税	地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について、法人関係税を税額控除する仕組み。
	協議体	介護保険法に定める、自立した日常生活を支援する体制整備を行う事業において市町村が設置する会議体であり、地域で高齢者を支援する関係者間のネットワークづくりを目的とし、定期的な情報共有・連携を強化する場のこと。 市全体を対象とする「第一層協議体」と、地区単位を対象とする「第二層協議体」の2種類がある。
く	クラウドファンディング	インターネットを通じて不特定多数から資金を募る仕組み(プロジェクト型・寄附型等)。
	グローバリゼーション	国境を越えて人・物・資本・情報が自由に行き交い、世界の経済・文化・社会が相互に結びつき、一体化していく動きのこと。
け	ケアプランデータ連携システム	介護事業所における文書作成負担軽減のため、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間でやりとりされるケアプランをオンラインで送受信するシステム。
	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。

索引	用語	解説
け	元気がでる体操教室	住民同士のつながりを深め、お互いに助け合える地域づくりを目的として行われている通いの場のうち、主に健康的な身体作りや、介護予防を目的とした体操等を行っている通いの場のこと。
	元気な広場	妊婦や乳幼児とその保護者が自由に利用できる屋根付公園として、平成 21 年 4 月に開館した子育て支援拠点施設。「ファミリー・サポート・センター」を併設している。
こ	公共ライドシェア	バス・タクシー事業が成り立たない場合であって、地域における輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全上の措置をとった上で、市町村や NPO 法人等が、自家用車を用いて提供する運送サービス。
	交流人口	観光など、様々な目的をもって、市外から訪れる人の人数。市内に在住する「定住人口」に対し、流動的に市内に訪れる人口を示す概念。
	婚姻率	人口千人に対する婚姻件数の割合。
	コンパクト・プラス・ネットワーク	人口減少や少子高齢化を背景に、快適な生活環境の実現や財政面・経済面で持続可能な都市経営を目指し、公共施設や住宅等の立地を集約化し（コンパクト）、これらを公共交通等でつなぐ（ネットワーク）という、都市構造の考え方。
	合計特殊出生率	「15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当。
さ	再生可能エネルギー	「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律」において、「エネルギー源として持続的に利用することができる」と認められるもの」とされており、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマス等が定められている。
	サテライトオフィス	企業または団体の本拠から離れたところに設置されたオフィス。
	里見氏城跡 稲村城跡	館山市稲にあり、戦国時代から江戸時代まで、房総南部を拠点とした里見氏が本拠とした城跡。稲村城は、16 世紀前半、3 代義通が居城とした城で、4 代義豊が 5 代義堯に攻め滅ぼされた「天文の内乱」の舞台となった。
	里山	集落、人里に接した山、あるいはこうした地形において人間の影響を受けた生態系が存在している状態を指す。
	財政調整基金	自治体における年度間の財源の不均衡を調整し、財政の健全な運営を図るための基金。
し	市街地循環バス	市街地の回遊性向上を図るため、JR 館山駅から半径おおむね 2km 圏内の施設に便利にアクセスできるよう運行。令和 5 年 6 月より本格運行を開始した。
	資源循環型社会	限りある資源を効率的に利用するとともに、再資源化を図り、持続可能な形で循環させながら利用していく社会。

索引	用語	解説
し	シティプロモーション	地域資源に磨きをかけ、市の新たな魅力を創出するとともに、市内外へ情報発信し、知名度とイメージの向上を図ることで、交流人口の増加や市民の「地域への誇りと愛着心」の醸成につなげることを目的とした活動。「シティセールス」と同義的に使用されることも多いが、ここでは、市の「魅力創出」に対する取組や「対内的な」視点も含むものとして使用する。
	シビックプライド	自分が暮らすまち・地域に対する誇りや愛着を持ち、まちづくりに主体的に関わろうとする当事者意識を持つこと。 ※「シビックプライド/CivicPride」は、株式会社読売広告社の登録商標です。
	市民協働	市民や各種団体、事業者、行政が、それぞれ果たすべき役割を自覚し、互いの存在意義と特性を認めた上で、相互の信頼関係に基づき対等の立場で協力し、より良いまちづくりに取り組むこと。
	ジェンダー	生物学的な性差 (sex) に対して、性別に基づいて社会的・文化的に要求される役割等の社会的性差を指す言葉として用いられる。そのため、時代や文化によって定義が変化する。
	自助・共助・公助	防災用語。自助：自分自身で自分の身を守ること。共助：自主防災組織や町内会等、地域の結束力を生かして助け合うこと。公助：市役所や消防・警察等、公的機関による救援・復旧活動等の支援。更に自助と共助の間に近助（隣近所同士で助け合うこと）が入ることもある。
	自治体DX	急速な人口減少が見込まれる中、自治体がデジタル技術やデータを活用して住民の利便性を向上させるとともに、業務を効率化して人的資源を行政サービスの向上のために投入することにより、持続可能な行政運営を図ること。
	常住人口	直近の国勢調査による人口及び世帯数を基準として、これに毎月の住民基本台帳の増減数により集計したもの。
す	スポーツ観光	スポーツイベント等、スポーツそのものを「観る」・「する」ことを目的とした旅行。また、スポーツを「支える」人々との交流やスポーツ環境の整備、競技大会の招致・開催、スポーツ宿泊誘致等、スポーツに関連した交流人口の拡大及び観光誘致戦略の概念も含まれる。
	スマート農業	ロボット技術やICTを活用して、省力化・精密化や高品質化の実現を推進する新たな農業。農業の担い手の高齢化や労働力不足が深刻となっており、スマート農業を活用することによって、新規就農者の確保や栽培技術力継承等が期待される。
せ	生物多様性	多くの生きものがいること、また、それらが様々な環境でつながりあって生きていること。
	ゼロカーボンシティ (脱炭素都市)	2050年までに、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を公表した地方自治体。
そ	相談支援事業所	障害者やその家族から相談を受け、アセスメントのうえ助言や情報提供、支援にかかる計画の作成、関係機関との連絡調整、モニタリングとフォロー等を行う事業所のこと。

索引	用語	解説
た	館山海軍航空隊赤山地下壕跡	館山海軍航空隊の防空壕で、工作科格納庫・治療施設・発電所等を備えていた。建設時期は不明だが、防空壕として使用しながら終戦まで工事が続けられていた。館山市を代表する戦争遺跡である。
	たてやまフィールドミュージアム	館山市立博物館が開館以来収集してきた地域の歴史や文化財の情報を紹介するウェブサイト。博物館で開催した企画展図録の概要や、地域の文化財を地図と解説で紹介する文化財マップが掲載されている。
	館山ブランド認定制度	地域内の優れた一次産品・加工食品について「1. 特徴及び品質」「2. 地域性」「3. 市場性・将来性」「4. 信頼性・安全性」の4点を審査し、「館山ブランド」として認定する制度。
	多文化共生	国籍や民族、宗教、言語等、異なる文化をもつ集団が存在する社会において、それぞれの集団が互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくという考え方や政策。
	ダイバーシティ	性別、人種、国籍、宗教、年齢、学歴、価値観等の多様性を受け入れ、広く人材を活用しようという考え方。多様な人材がその実力を最大限に発揮することにより、組織や社会の発展、個人の幸福につながることを期待される。
	脱炭素化	地球温暖化対策のため、二酸化炭素の排出を低減していくこと。
	男女共同参画社会	男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担う社会。
ち	地域活動支援センター	障害者等を対象とし、地域の実情に応じて創作的活動や生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等のサービスを提供する通所施設。
	地域循環共生圏	地域資源を活用して、環境・経済・社会の統合的向上を実現する事業を生み出し続けるとともに、地域の個性を生かして、地域同士で支え合うネットワークを形成していくという「自立・分散型社会」を示す考え方。
	地域包括支援センター	「介護保険法」に基づき、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする、各市町村が設ける機関。
	超高齢社会	65歳以上の高齢者の割合が人口の21%を超えた社会のこと。

索引	用語	解説
て	テレワーク	ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。「tele =離れたところ」と「work =働く」を合わせた造語で、働く場所によって、自宅利用型テレワーク（在宅勤務）、モバイルワーク、施設利用型テレワーク（サテライトオフィス勤務等）の3つに分けられる。 テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごす「ワーケーション」(「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語)と呼ばれる働き方も注目されている。
	伝統的工芸品	『伝統的工芸品産業の振興に関する法律』に基づく経済産業大臣の指定を受けた工芸品。平成15年3月17日に、「房州うちわ」が千葉県内初の指定を受けている。
と	特定空家等	そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる建物、植栽、擁壁等を指す。
	特定健診	生活習慣病の予防のために、40歳～74歳を対象とするメタボリックシンドロームに着目した健診のこと。
に	二地域居住	都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を地方で暮らす等、2つの地域に生活拠点を持つ生活形態。
	認知症サポーター	認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職域で、認知症の人や家族に対し、温かく見守る応援者となり、できる範囲での手助けをする人。都道府県、市町村、職域団体等が実施する認知症サポーター養成講座を受講した者を指す。
	認定農業者	「農業経営基盤強化促進法」に基づく「農業経営改善計画」について、市町村の認定を受けた農業経営者。認定を受けると、金融措置や税制措置等の支援を受けることができる。なお、経営改善計画は5年間の計画であり、認定を受けてから5年経過した場合、再度計画を提出して再認定を受けないと認定農業者の資格を失う。
ひ	ビッグデータ	従来のデータベース管理システム等では処理困難であった巨大で複雑なデータ群。単に大容量だけでなく、非定型的でリアルタイム性の高いデータが多い。
ふ	4R (フォーアール)	Reduce、Reuse、Recycle、Repairの4つのRの総称。 Reduce：製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。 Reuse：使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。 Recycle：廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効活用すること。 Repair：修理等で長く使えるものを増やすこと。
	ふるさと納税	納税者が応援したい（またはゆかりのある）自治体を選んで寄附でき、その寄附に対して所得税・住民税の控除が受けられる制度。

索引	用語	解説
ふ	フレイル	加齢により心身が老い衰えた状態のこと。早く治療や予防などの対策を行えば、元の健常な状態に戻る可能性がある。
ほ	放課後子供教室	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、地域住民の協力によって、子どもたちが学習やスポーツ・文化活動等ができるように支援する取組。
	房州うちわ	安房地域で受け継がれてきた千葉県を代表する工芸品で、経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」。京うちわ（京都府京都市）、丸亀うちわ（香川県丸亀市とその周辺地域）と並ぶ、日本三大うちわの一つ。
ま	マイナンバーカード	マイナンバー（個人番号）が記載された顔写真付のカード。ICチップ付カードで券面に氏名、住所、生年月日、性別、マイナンバーと本人の顔写真等が表示されている。
み	みなとオアシス	海浜・旅客ターミナル・広場等、みなとの施設やスペースを活用し、住民参加型の継続的な地域振興を行う交流拠点について、申請に基づき、国土交通省港湾局長が登録を行うもの。
ゆ	ユニバーサルデザイン	年齢、性別、文化、個人の能力を問わず、誰もが可能な限り利用しやすいように、特別仕様のデザインをすることなしに、製品、建築物、環境をデザインすること。
れ	レファレンス	図書館利用者が学習・研究・調査を目的とし、情報や資料等を必要とした際に、司書が検索・提供・回答をすること。また、需要の多い質問に対して、あらかじめ資料を準備、作成する作業。
ろ	6次産業化	農林水産物を収穫・漁獲（第1次産業）するだけでなく、加工（第2次産業）し、流通・販売（第3次産業）まで手がけること。
わ	ワーケーション	ワーク（労働）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。



第5次館山市総合計画

令和8（2026）年3月発行

発行 千葉県館山市

編集 館山市総合政策部企画課

〒294-8601 千葉県館山市北条1145-1

[TEL] 0470-22-3163

[URL] <https://www.city.tateyama.chiba.jp>

